

死を遂げ、官軍の勢ひは、日に／＼衰へるばかりなので、天子様の御心配は一通りでなく、お側に仕えて居る者も、此の先どうなる事かと、常に不安に思つて居るばかりです。

白頭の甲

かう云ふ有様ですから、宗廣は又もや皇子を奉じて陸奥にゆき、大いに義兵を募り、自分は白頭の甲を戴いて皇子に従ひ、大兵を率ゐて都に上り、先の失敗を償ふことを朝廷に奏聞すると、朝廷では宗廣の忠義の心を喜び、直に御裁可になりました。

安濃津

同じ年の八月十七日、宗廣は伊勢の大湊から船を乗り出して、天龍洋にさしかゝりますと、急に大風が吹き荒れて、皆散り／＼になり、七日七夜漂流して、やつと安濃津に着きました。悪い時には又悪いことが續くもので、宗廣は遂に重病にかゝり、今は臨終も近いと云ふ有様。年は取つても、病は重くても、忠義の一心は少しも變らず、病苦の中から、奮然として起ち上り、左右を見廻して、『己はもう七十歳を過ぎて、今更遺憾に思ふことはない。併し朝敵を滅さな

宗廣の最後

い内に死ぬのは残念である。己の子孫たる者が、己の魂を慰めやうと思ふなら、是非共朝敵の首を斬つて、墓の前に懸けて呉れよ』と云ひ終つて、刀を抜いて逆手に持ち、齒を食ひしばつたまゝ、とう／＼死んでしまつたので、其時年七十三歳でありました。あゝ、忠臣宗廣は、かくて神に祀られ、明治十五年一月、本社を別格官幣社と定められ、十七年四月正四位を追贈せられました。

豊榮神社

(山口縣吉敷郡山口町鎮座)

當社は寶曆十二年の創立で、祭神は毛利元就公です。はじめは長門國の萩城内にありましたが、毛利氏が山口に移ると共に、當社も亦此の地に御遷座になりました。

毛利元就

正親町天皇

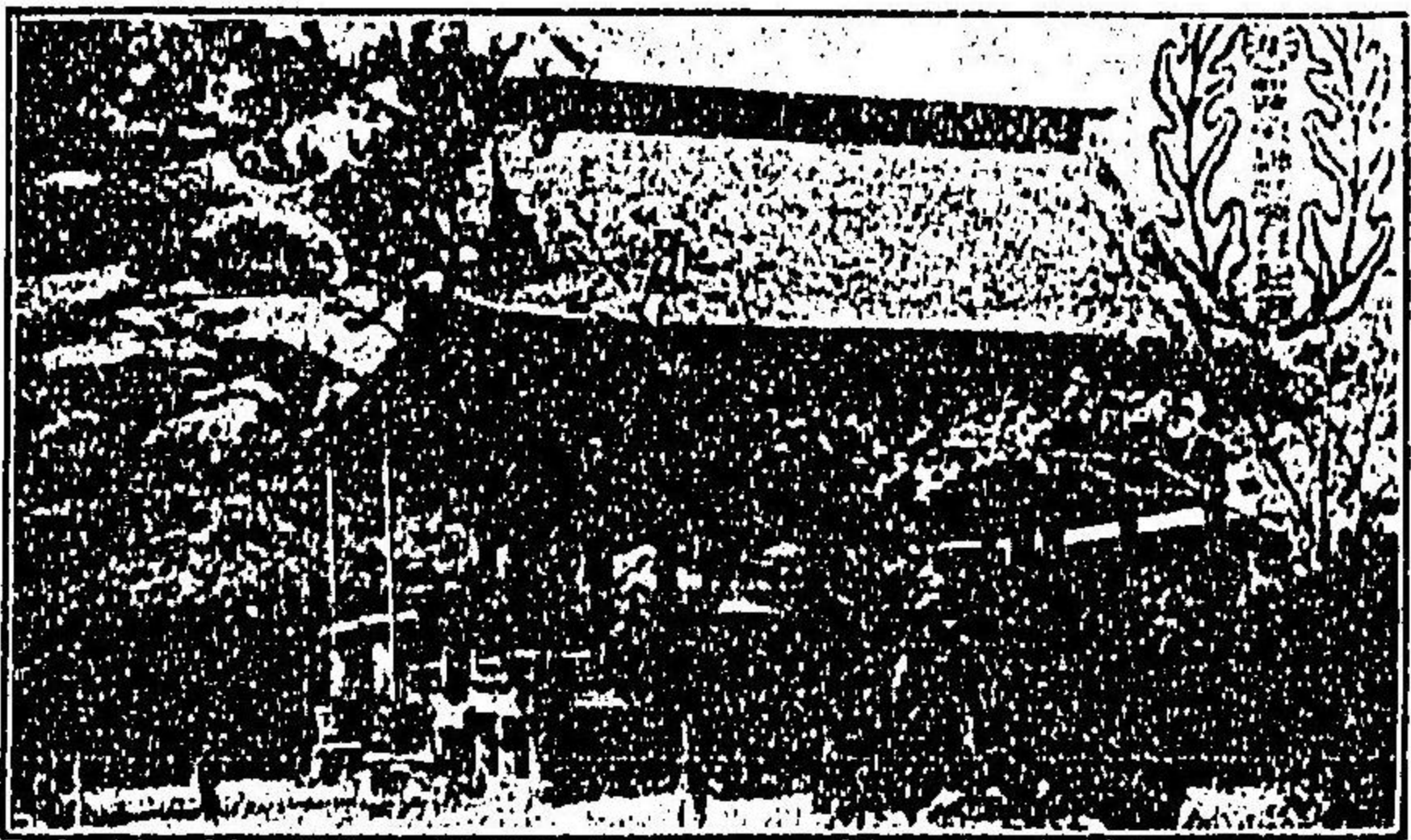
公は戦國時代の英雄で、中國地方に勢力がありました。殊に勤王の志厚く、正親町天皇の御踐祚に際しても、皇室の衰微甚だしく、爲めに即位の禮を舉げさせられることが出来ませんでした。時、米千石を獻じて、其資を助けまし

豊榮神社(別格官幣社)

大膳大夫

織田信長

天正寺



たから、永祿三年正月に、

漸く即位の大禮を行はせられました。

故に天皇の御淑感淺からず、大膳大夫に任じ、  
菊桐の記號を賜はり、厚く其功を賞せられたので  
あります。

### 建勳神社

(京都府愛宕郡大宮村  
大字東紫竹大門鎮座)

豊 当社の祭神は、贈太政大臣從一位織田信長公で  
あります。天正十年六月羽柴秀吉が、主君信長公  
の大葬を、京都紫野の大徳寺で行ひ、更に此の山  
の上に、天正寺と云ふ大伽藍を建立して、公の善  
提を弔ふ考へでりました。

そして其規模は、頗る宏大なもので、山の嶺の  
高閣より、朱欄長廊を架設して、大徳寺の境内に連続される希望でありまし  
たが、残念にも夫れより軍國多事となり、殊に海外に出兵することゝなつた

不信忠

豊臣秀吉

ので、秀吉の希望も遂に果すことが出来ませんでした。

建 明治八年、朝廷は織田公の勤王を追殺せられ、  
建勳神社と崇め祀り、公の威靈をして、永世に表  
彰せしめられ、特に別格官幣の社格に列せられま  
した。  
勳 猶當社には公の令弟贈從三位平信忠卿も合祀さ  
れてあります。

### 豊國神社

(京都市下京區大和  
路通正面茶屋町鎮座)

社 有名な大佛殿の南隣にありまして、豊臣秀吉公  
の靈を祀ります。公は匹夫より身を起して天下を  
定め、關白となり、朝鮮を征伐し、明の國王とな  
らうと云ふ、大きな望みをもつて居られました。が、事  
業半ばに世を去られたのは、如何にも惜しいこと  
でありました。



豊國神社 (別格官幣社)

慶長四年  
寛政の火

はじめ慶長四年に、豊國大明神の神號を賜り、大佛殿方廣寺の境内に、其祠を建てました。所が之は寛政の火災で、一旦焼け失せてしまつてから、再建の運びにもならず、唯一個の石碑が、永い間草の中に埋れて居ると云ふ、哀れな有様でありました。

伏見の城門

かくて明治十年になつて、此の千古の大英雄の靈を祀るべく、新たに工事を起して、立派な社殿を營み、特に社格を賜はりました。其唐門は、伏見の城門を移したものです。實に見事な彫刻を施したもので、社殿も清々しく、境内には多くの萩を植ゑて、秋は殊更一入の眺めを添へ、例祭は其萩の花の眞盛りなる、九月十八日に施行せられます。

### 東照宮

(梅木縣上郡賀郡日  
光町大字日光鎮座)

徳川家康  
久能山

有名な日光山に鎮座する當宮は、一に東照大権現とも云つて、徳川家康公の靈を祀る所、元和元年公が薨去せらるゝや、其遺骸は駿河の久能山に葬りました。其子秀忠は、公の遺命に従つて、三年三月、此の地に廟所を建てました。

てました。

東照大権現

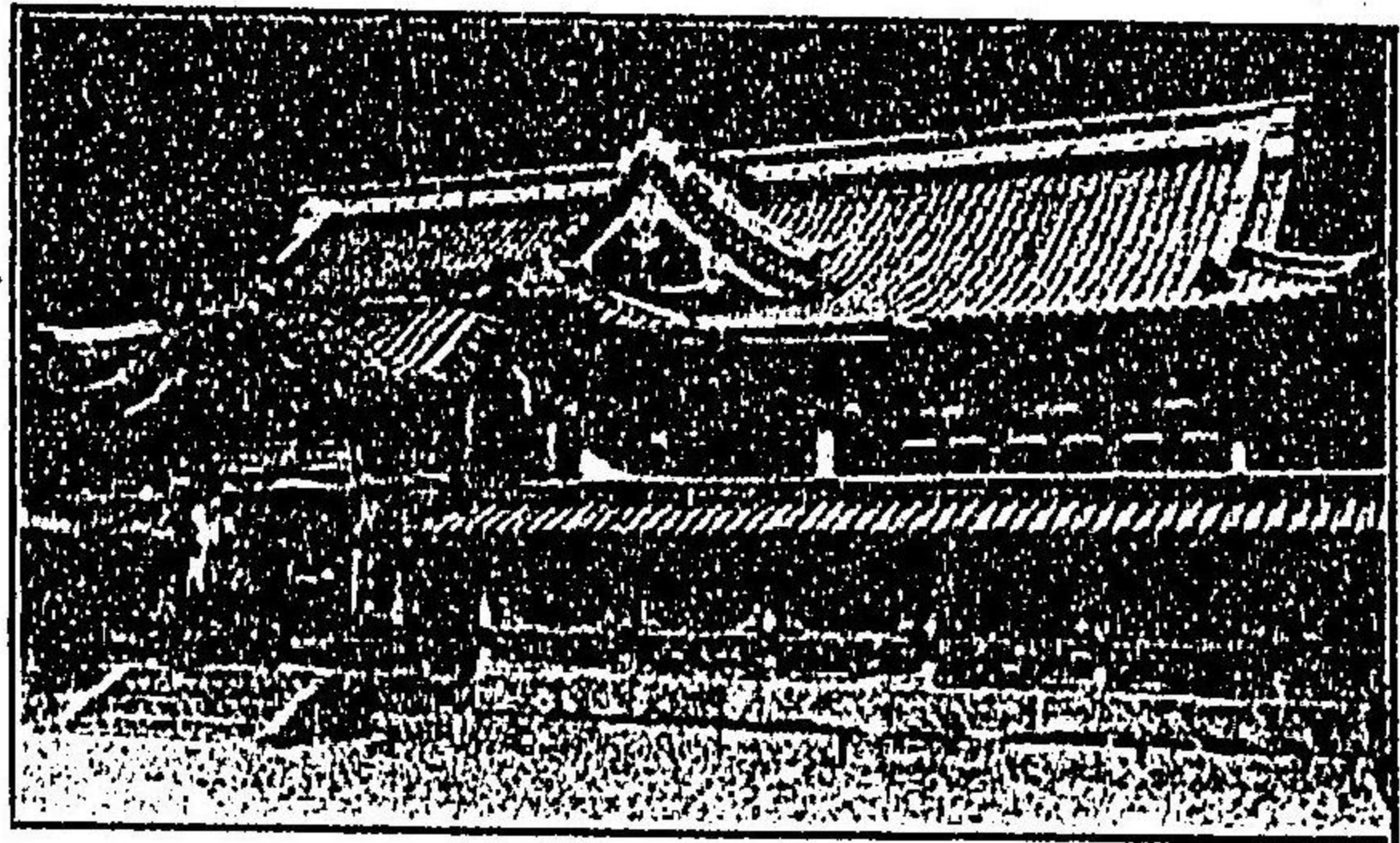
之より先朝廷から、公に對して、東照大権現の神號を賜はり、宣命使を遣

家光

して廟前に奉祭を行ひ、更に正保二年には、東照宮の號を賜はりました。

かくて寛永十一年、第三世家光の代となつて、大に工事を起し、十三年には立派に出来上りなした。其建築の壯麗美觀は、天下に比類なきものとなつたのです。

當宮の大祭には、朝廷より奉幣使を遣はされ、之を日光例幣使と呼び、正保二年宮號下賜以來は、毎年の例となつて居ました。又將軍が親しく當宮に參詣せられたことは、二代秀忠が元和三年に詣で、より、十二代慶喜が、天保十四年に參詣した



日光東照宮唐門及拜殿

のを以て終りとします。

東照宮(別格官幣社)

天然の勝  
人工の美

日本お宮物語  
日光は天然の勝と、人工の美とを、併せて見られる所ですから、外國人の我國に遊ぶものは、まづ第一に杖をこゝに曳くので、四時共に參詣の群衆が絶えないのです。

### 常磐神社

(茨城県水戸市  
大字常磐鎮座)

源光圀

當社の祭神は二座で、左は高護味道根命、右は押健男國之御栢命であります。こゝに味道根命と申すは、水戸の藩主源光圀卿で、實は東照宮の御孫、正三位權中納言頼房卿の第三子に當る方です。

後水尾天皇

光圀卿は後水尾天皇様の寛永十三年に、從五位上に敘し、從四位下左衛門督を経て右近衛中將となり、又從三位に進みましたが、後花園天皇様の寛文元年に、封を嗣で參議となり、東山天皇様の元祿三年に、權中納言を以て退隱されました。

兄頼重

はじめ光圀卿は、兄頼重に超えて嗣となりましたが、平生此の事を心苦しく思ひ、兄の子綱條を乞ひ受けて子となし、今度自分が退隱するに就ては、

大日本史

綱條に國を譲つて、平生の志を遂げたのであります。かくて元祿十三年、七十三歳を以て薨去せられ、義公と謚しました。その著書大日本史は、誰知らぬ者も無い名高い本で、殊に勤王家の愛讀したものです。

源齊昭

次に押健男國之御栢命と云ふは、名を齊昭と云ひ、光圀七代の孫にして、從三位左近衛權中將治紀の第二子です。齊昭卿は仁孝天皇様の文政十二年に、兄齊修の嗣となつて封を嗣ぎ、天保八年權中納言に累進し、弘化元年に隱居しました。世に烈公と云ふは此の人のこととす。

烈公

義公と云ひ烈公と云ひ、共に皇室のことを憂ひ、内には紀綱を伸張し、外には邊境の防備を嚴にして、國事に盡すこと多く、今上天皇の御代になつて、其誠忠を追慕せさせられ、特に神號を賜ふて、別格官幣社に列せられたのであります。

誠忠

### 照國神社

(鹿兒島市  
下町鎮座)

照國神社 (別格官幣社)

島津齊彬

當社は元治元年十二月の創立で、祭神は島津齊彬公であります。公は文化六年四月江戸に生れ、七年從四位下兵庫頭に敘し、將軍徳川家齊の諱を賜ひて、はじめて齊彬と呼ばれました。

那覇港

天保五年正月少將に任じ、十四年豊後守、十五年修理大夫となり、弘化元年薩摩の屬國たる琉球の那覇港に、佛蘭西の軍艦が渡來して、通商貿易を求めました。そこで公の父君齊興公は、此の報を得ると共に、早速幕府に告げて指揮を乞ひました。時に公は世子に過ぎなかつたのですが、早くから海外の事情に通じて居ましたから、鎖國の舊法を守ることは出来ぬと思ひ、開國策を考へて、密かに老中の首位に居る、阿部伊勢守正弘に相談されたのです。

阿部正弘  
警備交渉の任

正弘は公の提議に賛成して、三年六月公に命じ、父に代つて國に歸り、警備交渉の任に當らせることになりました。さて公は歸國の後、海岸を巡視して砲臺を築造し、武器製造局を設け、又家臣に蘭學を研究させて、自身にも又研究し、以て軍艦兵器の改良の参考としました。

公は早くから反射爐を造つて、大砲を鑄造したり、砲臺を改築したり、或

軍艦建造

は火藥製造の法を改良して、薩摩火藥の名聲高く、水雷、地雷、電信等の諸機械も、洋書に就いて模造し、之を利用する方法を考へました。父の封を襲いでからは、一層奮勵して意を政治に用ひ、公の名は四方に傳はり、志士の欣慕する所となりました。

次で上書して、大砲船軍艦を造ることを乞ひましたが、幕府では早速之を許可し、更に幕府の軍艦四艘の建造を、公に托され、翌年末に悉く出来上りました。公は又非常に勤王の志厚く、嘉永四年七月には古筆を、翌五年には名刀二口を闕下に獻じ、安政二年には、宸翰の御製を賜りました。

宸翰の御製

『武士も心あはせて秋津洲の、國は動かす共に治めん。』

と、之に感激して、公は一身を捧げて、王事に盡すべく覺悟をせられたのです。

此の時に當つて、幕府は開國の意志を有つて居りましたが、時勢に妨げられて、之を執行することが出来ず、水戸烈公の攘夷論と、外國公使の開國を

攘夷論

照國神社(別格官幣社)

將軍家定

將軍家茂

迫るのに板挟みとなり、非常に困つて居りました。所が老中阿部正弘は、從來の情實をすて、公の勢力才能に依頼する必要を認め、まづ公の養女を將軍家定に入るの策を立て、公も又之を承諾されましたから、忽ち此の話は纏りました。翌四年正弘が死んだために、公との間に行はうとした計畫は、悉く破れ、公も又五年夏を以て、薨去せられました。時に年五十。

文久二年將軍家茂は、公に従三位中納言を贈り、朝廷からも同じ位階を追贈せられ、後其靈を尊めて、照國神社と祀り、明治二年贈従一位の宣命があり、十五年十二月別格官幣社に列せられ、更に三十四年五月正一位を贈られました。

靖國神社

(東京市麹町區富士見町三丁目鎮座)

殉難の士

當社は明治維新前後に、國家のために力を盡して、命を棄てた人々の神靈を合祀する所で、近くは明治二十七八年戦役(日清戦争)三十七八年戦役(日露戦争)の戦死者も、残らずここに祀られてありますから、我國民は、其祖先の靈

を禮拜する如くに、當社の神靈に對しても、其勇烈忠義の志を追慕して、禮拜しなければなりません。

當社祭神の御名は、頗る夥しいので、一々ここに列記することは出来ませんが、將來とても國家の爲に命を捧げた功臣に對しては、神として當社に合祀せられること故、何人も忠勤を勵むべきであります。

靈山神社

(福島縣伊達郡靈山村大字大石鎮座)

元弘建武の頃は、北條足利の諸賊相次で起り、最も天歩艱難の時代でありました。此の際に當り、鎮守府大將軍陸奥大介北畠顯家卿は、當時御年六歳にならせ給ふ義良親王後村上天皇を奉戴して、陸奥國宮城郡の多賀城へ下らせられました。之實に元弘三年十一月のこと、後醍醐天皇の勅令を奉じての一大事業であつたのです。

さて顯家卿は、奥羽兩國を鎮撫して、東北の藩屏となり、後延元二年二月に多賀城から靈山に移り、遂に新田楠氏等に應援して、東征北伐、一日も迷

靈山神社(別格官幣社)

かに兇賊を平けて、天皇及び父親房の志に酬いなければならぬと、一方ならず苦心をせられたが、不幸にも未だ其業半途にして、三年五月、和泉國石津の合戦で、流矢の爲めに戦死せられたのです。

奥羽鎮守

由來顯家卿は、數代連続せる名門の生れで、殊に父親房卿の薫陶によつて、よく文武の道を究め、大臣大將の器に適して居たので、御年十六歳で、既に奥羽鎮守の大任を負はせられたのです。當時奥羽地方は、文明も進まず、殊に足利方の勢力がなかく盛んでありました、夫れにも拘らず、顯家卿御下向の後は、大義名分の存する所を熱心に説き、遂に南朝の末までも、正義の旗を翻へしたのであります。

靈山

かくの如く、顯家卿の感化は、千歳の後にまで傳はつたので、土地の人々は、去る十四年五月、一祠を建て、祭典を營み、之を靈山神社と呼びました。十八年四月遂に別格官幣社に加列されたのであります。抑も此の靈山と云ふは、磐城岩代の分水嶺で、伊達郡の東端に聳えて居ます。山の容は巖角削り立てるが如く、天下の奇觀を呈し、海拔二千七百尺、

山中には奇勝名蹟が、殆んど數へ盡せない程あります。

梨木神社

(京都市上京區寺町通石  
藥師下ル築殿町鎮座)

藤原忠成

當社の祭神は、有名なる勤王家藤原忠成公であります。公は諱を實萬と呼び、閑院太政大臣仁義公三十二世の孫、前内大臣諱公修の子に當られます。

享和二年

光格天皇様の享和二年二月十五日の生れで、幼時より頗る聰明に、學問を好み、文化九年元服して、右近衛權少將となり、仁孝天皇様の文政七年には、累進して權大納言に至り、天保二年公の歳三十の時、擢られて議奏となられました。が、斯くの如きは實に異數で、如何に公が朝廷の御親任厚かつたか、解るではありませぬか。

仁孝天皇

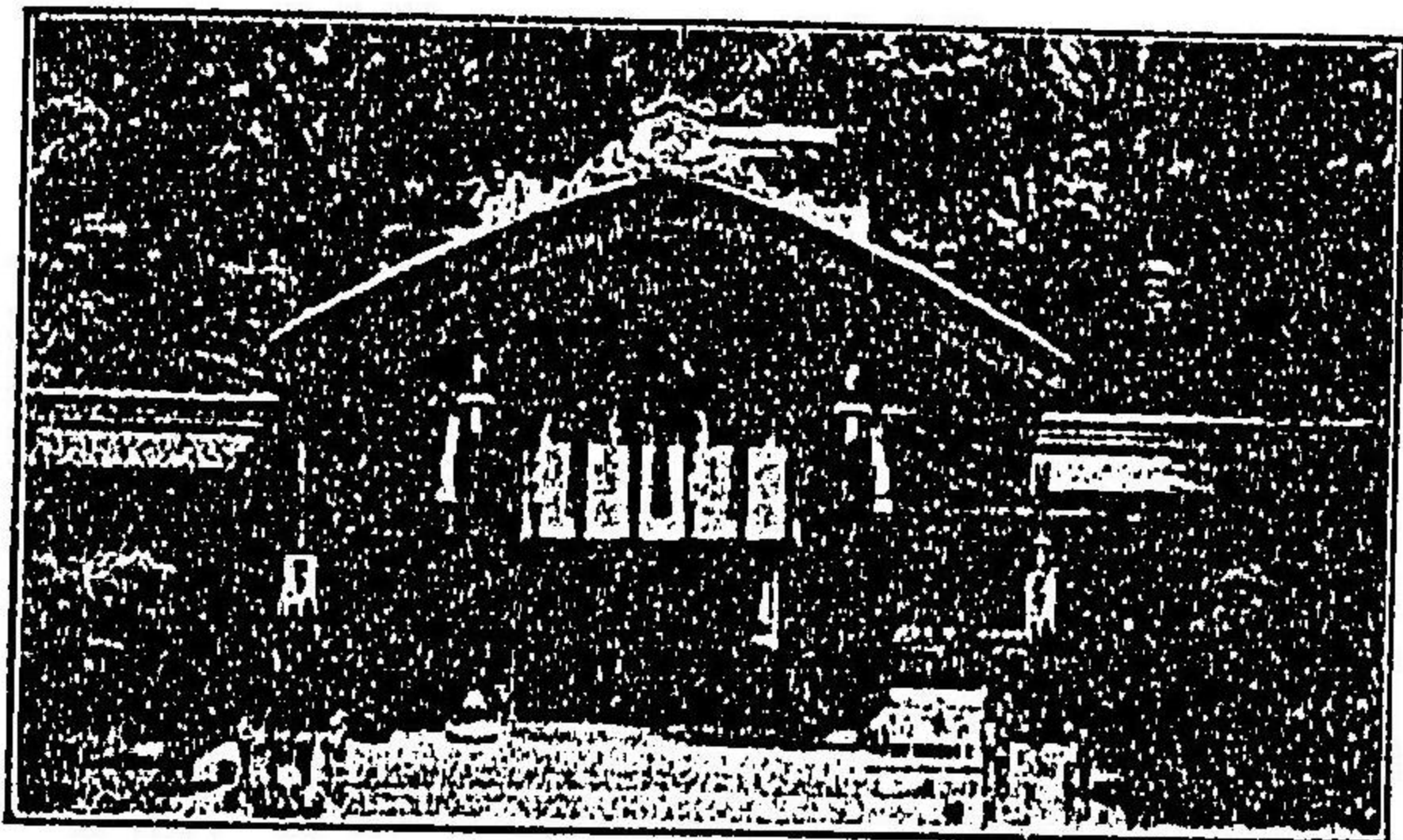
しかも公は其職を盡すこと謹直、時弊を改革する上にも、非常なる功勞がありましたので、仁孝天皇様にも、深く御親賴遊ばされましたが、天皇のお崩れになりましてからは、孝明天皇様を援けて、武家傳奏になり、かくて嘉永六年、米艦渡來して、國事をすく繁く、内外に互つて心配事が多くなり

米艦渡來

梨木神社(別格官幣社)

内大臣右  
大将

井伊直弼



く罰しました。

されば公も亦此の禍にかゝり、職を辭して采邑上津屋野村に屏居し、後に

ました時も、公は朝廷と幕府との間に立つて、何かと策を建てられました。

安政四年二月、公は右大将を兼ね、また外國事務を掌り、五月内大臣に昇任せられました。此の時、公の右に立つ者は一人もありませんでしたから、木朝野共に望みを嘲して居りました。

五年三月公は、内大臣と右大将とを辭退せられ、外國事務は舊の如く見られました。此の頃水戸藩士が入京して、諸公卿の間に遊説し、密勅下賜の事あるに及び、幕府の大老井伊直弼は、國家の秩序を亂すものとして、之に關係した志士を捕へ、同時に幕府の政策に反對する公卿諸侯以下を、悉く罰しました。

一乗寺村

一乗寺村に移り、六年五月幕府に諷せられて髪を削り、間もなく世を去つておしまひになつたのです。

公の薨去あるや、天皇震悼して朝を愾むること三日、特旨を以て従一位に敘し、遺骸をば小倉山に葬りました。かくて文久二年七月右大臣を贈り、明治二年詔して忠成と謚せられ、十八年十月神號を梨木神社と賜ひ、別格官幣社に列せられました。三十二年更に正一位を御追贈遊ばされました。

### 東照宮

(静岡県安撫郡久能村根古屋鎮座)

久能山

久能村字根古屋なる久能山は、静岡市の東南に當つて約二里二十六町、江尻驛からは二里三十町ばかり、海岸に近く聳え立つて、全く別個の奇峯であります。高さは海拔八百九十尺、境内一萬五千六百六十二坪、實に東海著名の靈山であります。

久能忠仁

推古天皇様の御代に、久能忠仁と云ふ人がありまして、一寺を建立し、名づけて補陀洛山久能寺と呼び、観音の像を安置したのが、此の山の名の起り

東照宮(別格官幣社)



であります。かくて遙か後、即ち元和二年四月十七日に、徳川家康公は、駿府城に於て世を去られました。そこで榊原照久が、公の遺命を奉じて、自分で齋主となり、同月十九日の夜、本丸址地に遺骸を葬り、従来あつた久能城

を廢止しました。



久能山東照宮

遷宮式を擧げ特に廢朝三日の宣旨さへ下つたのであります。さて又三年二月には、權現號を下賜せられて、東照大權現と呼び奉り、三月には正一位を追贈せられたのです。當社の眺望は殊に見事で、東南には伊豆の港灣と連山とを一望に收め、西

南は近く安倍川を見、駿遠二國の萬里の海は、宛然一大地の如くに、眼下に廣がり、山後の有度山脈の間から、富士は秀靈なる粧ひを凝して、呼べば答へんと思はるゝばかり、實に東海の仙境であります。

### 四條嘜神社

(大阪府北河内郡甲府村大字南野鎮座)

四條嘜は楠正行公が最後の地です。そして四條嘜神社は、公の神靈を祭る所であります。社地は飯盛山の西の麓に位して、四條嘜の古戰場は、其南十町、即ち北條村字北四條の地を云ひましたが、近來歴史家の研究によつて、中河内郡枚岡南村大字四條の野が、夫れと定められた様です。

あゝ建武のむかし、公が攝津の櫻井驛で、父君正成公の遺訓を受け、少年の身を以て、日夜王事のために勵み、遂に正平三年正月、僅に五百の寡兵を提げて、八萬の賊軍を走らせ、奮闘決戦の後、矢盡き刀折れ、遂に首を賊軍に得させた、其忠勇義烈の振舞は、千古の後までも、我國歴史の花と薫り、何人も知らぬ者はないのです。

四條嘜神社(別格官幣社)

金幣

日本お宮物語

されば明治の聖代となつてから、

六年十二月從三位を追贈せられ、陛下御巡幸の砌には、特に勅使を差遣はされて、金幣を下賜せられ其神社創立に際しては、宮内省其他から、夥しき御下賜金がありました。而して當社は二十二年十二月、別格官幣社に列せられたのであります。

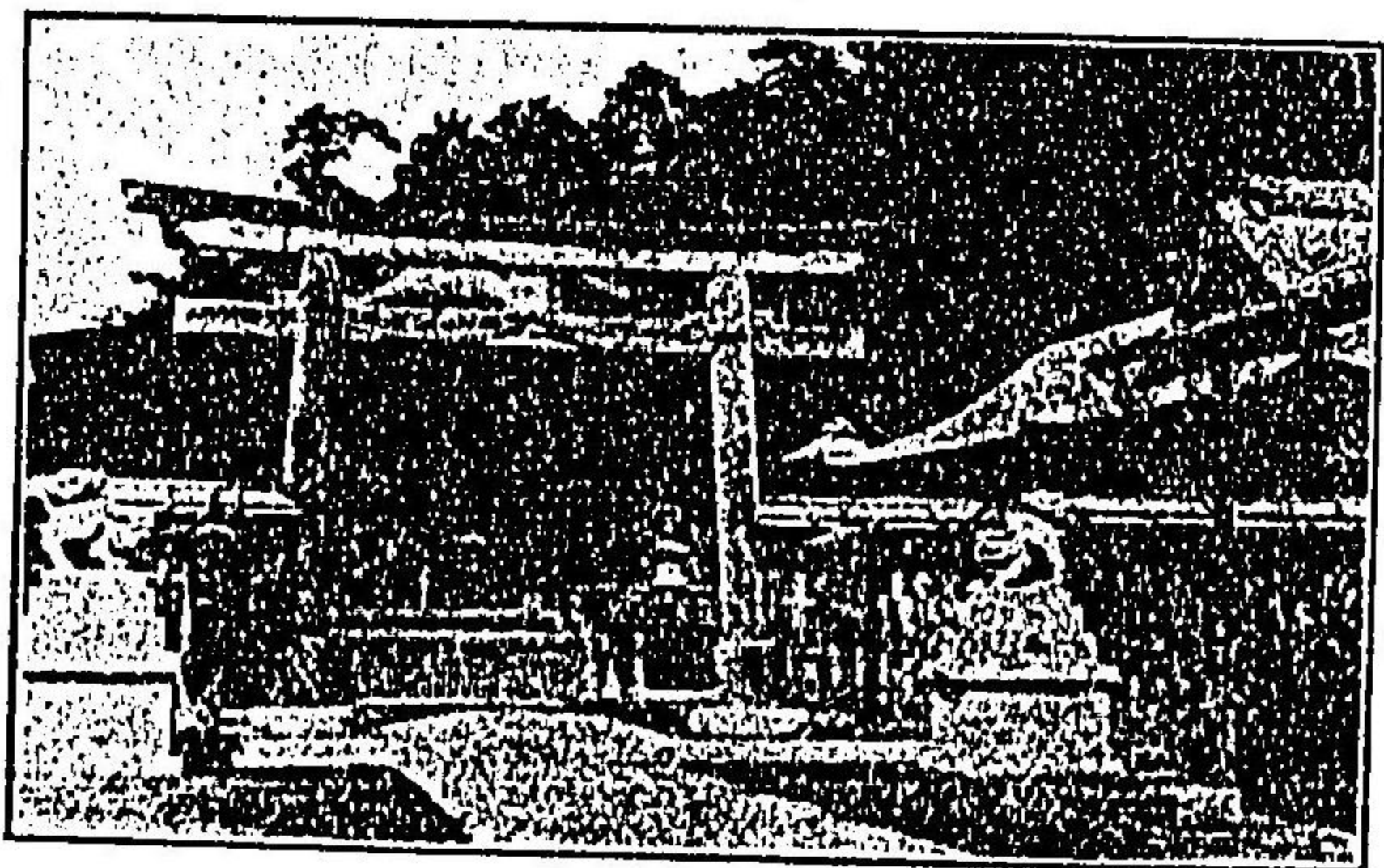
### 唐澤山神社

(栃木縣安蘇郡田沼町大字栃木鎮座)

四條暖神社

當社の祭神は藤原秀郷卿で、明治十八年の創建にかゝり、越えて二十三年十一月、別格官幣社に列せられたのであります。

秀郷卿は世に田原藤太とも呼ばれた人、下野押領使となり、六位に敍せられ、天慶四年平將門が叛して、關東の諸國を陥れ勢甚だ熾んでありました、秀郷卿は表面之に應じ、將門の陣に行つて面會を



藤原秀郷

平將門

致しました。

すると將門は、秀郷が來たと聞いて大いに喜び、丁度其時髪を結びかけて居ましたが、結び終らないで、急に帽子をかぶつて出迎へましたので、秀郷は心の内に、こんな輕跳な男なら、誅戮するは譯なしたと、こゝで覺悟を定めて貞盛と力を合せ、將門の軍を攻めて大いに之を破り、將門が矢に中つて馬より落ちる所を、秀郷が進んで其首を斬りました。

さて此の戦功によつて、從四位下に陞り、功田を賜つて子孫に傳へ、後下野武藏の兩國守に任じ、又鎮守府將軍にもなつた偉人であります。

### 上杉神社

(米澤市南堀端町鎮座)

當社の祭神は、戦國時代の英雄上杉謙信公であります。公は天文年間の慶弼群雄割據の頃に、皇室の式微を深く憂ひ、専心朝廷の爲めに盡さうと思つて、二度までも京都に行き、後奈良正親町兩朝に仕へ、詔を奉じて御所の警護に任じ、更に自分の領地を皇室に獻納して、只管忠勤を勵みました。

上杉神社(別格官幣社)

御所警護

上杉謙信

貞盛

上杉茂憲

上杉鷹山

稻倉魂神

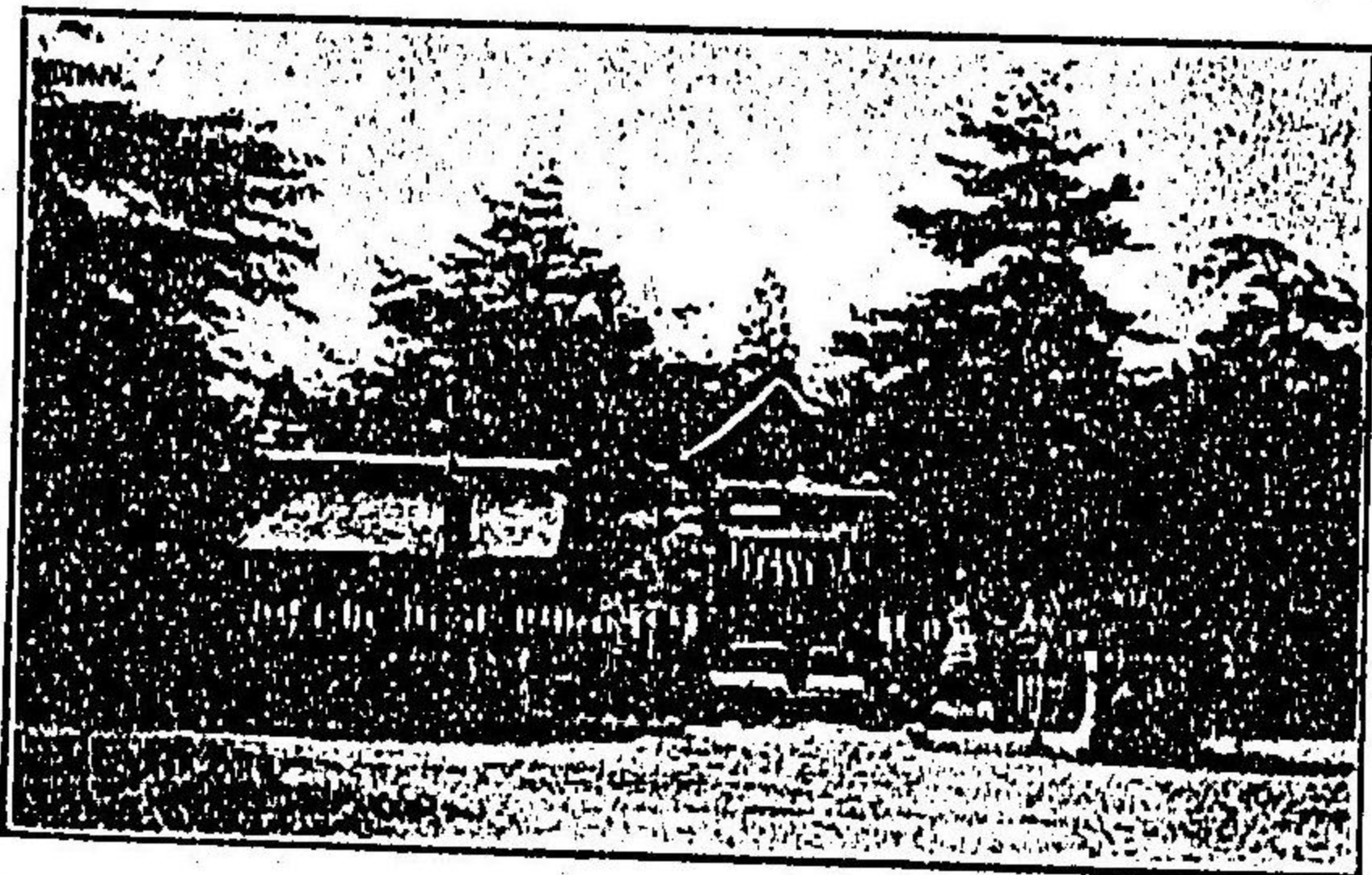
菅原利家

日本お宮物語

恰も明治四年九月、

公の後裔上杉茂憲が、親祭を営み、次で社號を許可せ

一九二



られ、三十五年四月今の社格に進みました。又攝社松ヶ崎神社は、上杉鷹山公を祭る所、末社の稻倉魂神には、稻倉魂命を祭りますが、之は元藩主上杉氏が、城中二の廓に一社を建て、城の守護神としたのを、明治九年今の地に御遷座になりました。

### 尾山神社

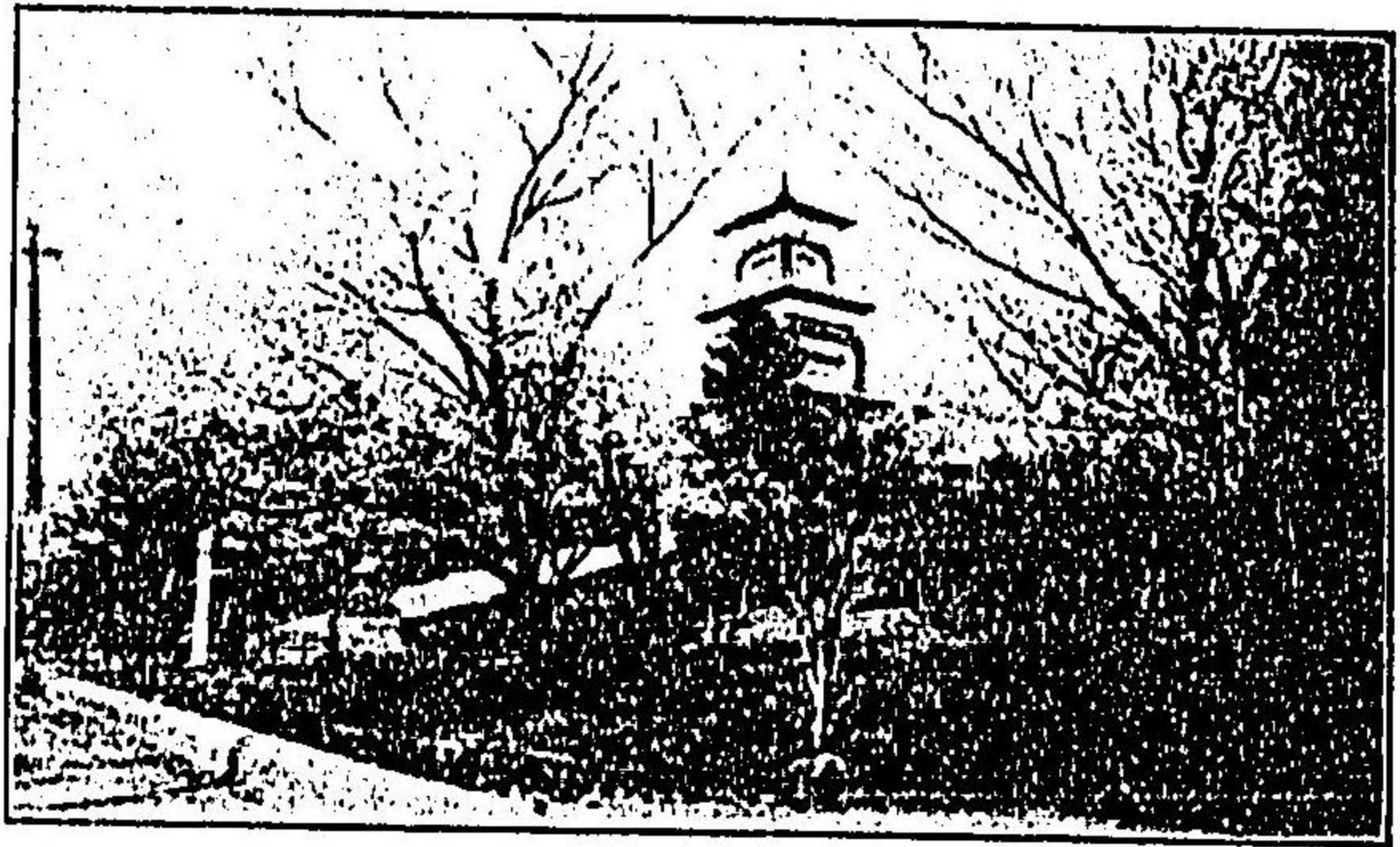
(金澤市西町)

當社の祭神は、贈従一位權大納言菅原朝臣利家公です。公は慶長四年閏三月三日に薨去せられましたが、夫れより後同家の子弟等は、公の靈を奉祀しやうと思ひましたけれども、之を神とし祀ることが出来ませんでした。

八幡大神

前田氏

そこで先づ越中國射水郡守山の海老坂烏帽子峯に鎮座の、八幡大神を御遷座するのだと云ひ觸し、其實は利家公の靈を、加賀國河北郡卯辰山の麓に祀



と改めたのです。

尾山神社(別格官幣社)

尾山神社の所が世は移り變つて明治の御代となり、廢藩置縣の新令の出ると共に、藩主前田氏は、金澤を去つて東京に移ることになりました。すると同藩の人々の中には、卯辰八幡社の祭祀を繼續して、永く前田氏の功績を傳へ度いと云ひ、又舊封地の加越能三州の有志者にも、此の儀に賛成する者が多くありましたから、之を前田氏の邸址に移すことに議決して、明治五年當局に出願して、尾山神社

一九三

夫れより後、今上陛下北陸御巡幸の時には、宮内卿を以て御幣物を納めさせられ、明治二十四年金澤開始三百年祭を行つた時にも、御幣帛料を賜り、更に祭神の三百年祭にも、同様の思召しがあり、三十五年四月別格官幣社に列せらるゝ旨仰せ出され、同時に攝社をも金谷神社と公稱することとなりました。因に云ふ攝社には前田利長同利常二公の靈を祀ります。

## 國幣中社之部

### 敢國神社

(三重縣阿山郡府中村大字一之宮鎮座)

當社は當國の一の宮で、祭神は阿閉臣の祖大彦命の子なる彦背立大稻越命で、一に金山明神と云ひ、又金山姫命を祭るとも云ひます。當社は貞觀六年十月に従五位下を、九年十月從五位上を、十五年九月正五位下を賜はり、延喜の制には大社に列し、明治四年五月國幣中社に列せられたのであります。

### 淺間神社

(山梨縣東八代郡一櫻村鎮座)

當社の祭神は木花開耶姫命であります。此の神様の御事蹟は、他に記しませんでしたから、こゝには省くこととし、當社御鎮座の由來を尋ねると、人皇第十一代の帝、垂仁天皇様の八年正月に、本村地内の神山に祀り給ひて、社地山

敢國神社 淺間神社 (國幣中社)

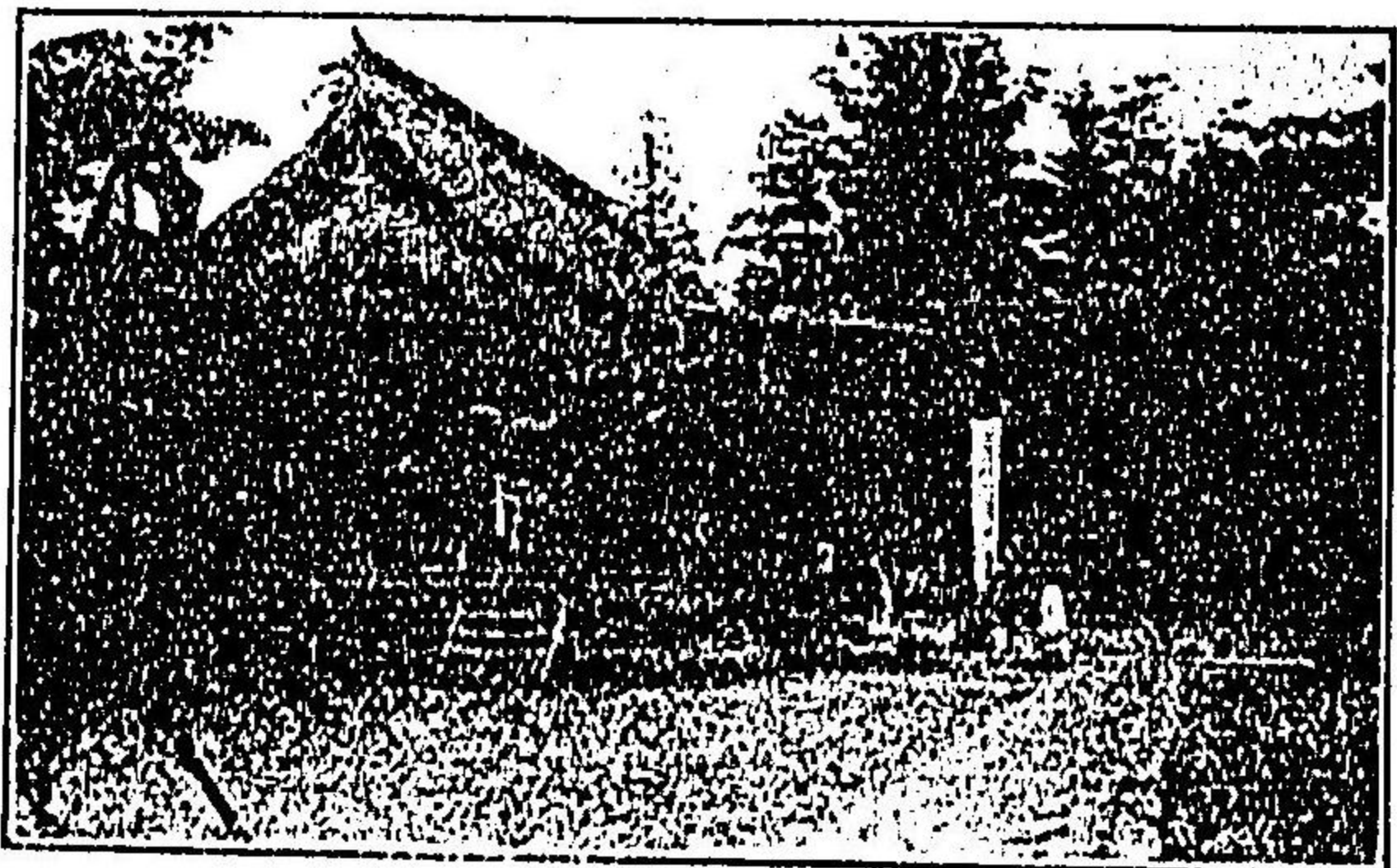
彦背立大稻越命

木花開耶姫命

垂仁天皇

林田地等を寄附せられ、神戸正戸等をも置かれたのです。夫れから後第五十三代の、淳和天皇様の天長二年に、甲斐の國主文室秋津

赤坂山



武田晴信

が奏聞によつて、國家安全水防祭祀のために、特に勅使を下向せしめ、赤坂山の麓に御遷座なし參らせ、毎年四月官から祭費を賜ひ、神輿を渡し、國中大小の河川の水防祭を行ふので、之を國祭大神幸と呼びました。今四月十五日の例祭は、即ち夫れであります。

かくて五十六代清和天皇様の御年に、勅命によつて今の地に遷し祀り、官社に列して禰宜を置かれました、以來朝廷の御崇敬厚く、源氏、北條、足利、武田と武家數世を経るも、當社の祭祀は少しも變らず、天文十九年武田晴信は、甲斐の國土時の帝後奈良天皇様に申し上げて、特に御親翰を安穩に、萬民和樂のため、

授かり、之を當社に納めました。之は今國寶と成つて居ります。明治四年五月、社格を進めて、國幣中社に列せられました。

### 寒川神社

(神奈川県高座郡寒川村大字宮山鎮座)

佐河大明神

當社は一に佐河大明神とも云ひまして、當國の一の宮、祭神は大水上の兒寒川比古命、寒川比女命で、仁明天皇様の承和十三年九月に從五位下を授けられ、文徳天皇様の齊衡元年三月從四位下に敘し、延喜の制には名神大社に列し、十六年正月正四位上になり、後鳥羽天皇様の建久三年八月には、源賴朝が神馬を獻納しました。

社殿再興

かくて大永二年九月、北條氏綱が願主として、社殿を再興し、天文十四年氏康も亦再建し、社領を百石と定めました。末社には稻荷、山王、日月天、辨天等があります。

### 鶴岡八幡宮

(神奈川県鎌倉市鶴岡町大字雪ノ下鎮座)

寒川神社 鶴岡八幡宮 (國幣中社)

鎌倉山

むかし藤原鎌足公が、宿願の旨あつて、此の地の大藏山に鎌を埋めてから、山を鎌倉山と呼び、又鎌倉郡の名も出来ましたが、鎌足公は後に大織冠内大臣に任ぜられて、かの宿願成就の喜びに報ゆるために、かつて鎌を埋めた土地に、稻荷の祠を建てられましたから、又山の別名を、大臣山と呼ぶ様にもなつたのであります。

丸山

かくて治承四年十月、源頼朝公が、その稻荷祠を丸山に移し、康平六年八月源頼義公が勅命を奉じて、山井の里の鶴岡の八幡宮を、此の地に御遷座あり、鶴岡の名を負はせました。

應神天皇

當宮の御祭神は、第十五代の帝應神天皇様で、相殿には神功皇后様と、仲哀天皇様とを祀ります。

仁徳天皇

正治元年九月、大名六十六人が連判して、梶原景時の悪逆を訴ふる評定をしたのは、實に當宮の廻廊でありました。又若宮の御祭神は、仁徳天皇様で、御相殿は仲媛命、履仲天皇、磐媛命のお三方であります、文治二年四月、義經の妾部が、舞曲を奏したのは、此の

自旗神社

若宮の拜殿での出来事でした。

自旗神社の祭神は、源頼朝公で、相殿は同實朝公、正治元年本宮の廻廊の右脇に鎮座せられましたのを、明治二十年九月、官許を得て今の地に移轉改築になりました。

今上陛下  
行幸

當宮は社殿の美麗なものと、境内の景色の好いので、天下著明の名社とせられ、内外人の参詣する者も多く、殊に明治五年四月、今上陛下の行幸もあつて、最も尊き神社たることが解ります。

玉前神社

(千葉縣長生郡一宮  
町大字一宮鎮座)

玉依姫命

上總國の一宮として、其名も高い玉前神社は、海神豊玉彦命の御娘玉依姫命をお祀り申してあります。玉依姫命と仰しやるのは、鷗鷺草葺不合尊の皇后にましく、貞操の譽れ高く、百姓を憫れみ給ひ、萬人崇めて、玉依姫と申し、又玉世姫とも呼び奉りました。

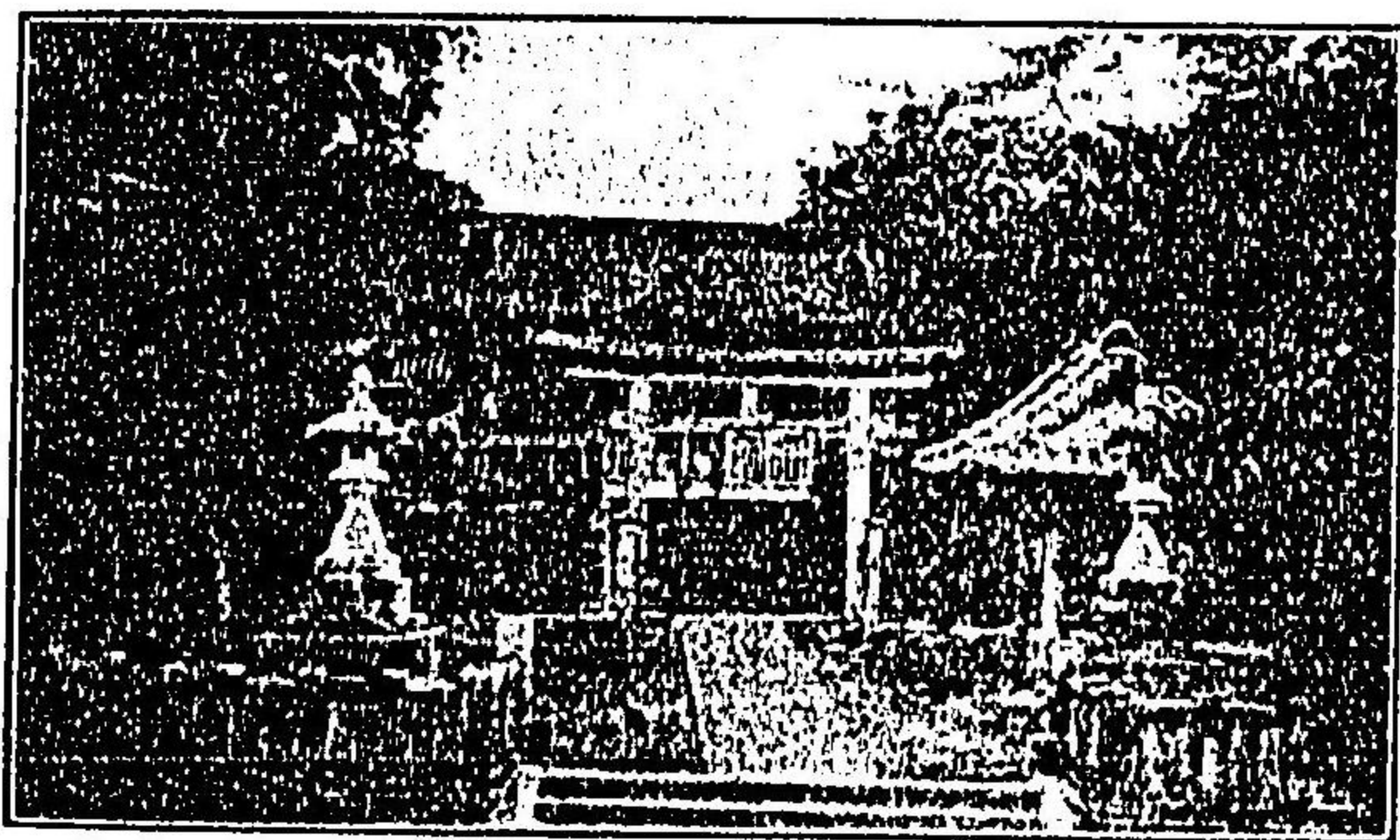
四人の王

姫には四人の王子があらせられて、第一を彦五瀬命と仰せられます。此の

玉前神社(國幣中社)

方は二宮山崎神社に齋き祀つてあります、一體彦五瀬命は、山和國膽駒山に

三宮權現



が、上總の國造となつて、を築いたのであります。

大伴武日連命

於て、長髓彦を攻め給ひ、賊の流矢に中つてお薨れになりました。次に稻飯命、次に三毛入野命と此の二柱の神は、三宮權現に合祀されます。二方共神武天皇様が、熊野の海をお渡り遊ばす時、御船が波に漂ふて、危ふかつた時に、天皇の御身代りとして、海にお入りになつたのです。

社 神 玉 前 此の二柱の神は、三宮權現に合祀されます。二方共神武天皇様が、熊野の海をお渡り遊ばす時、御船が波に漂ふて、危ふかつた時に、天皇の御身代りとして、海にお入りになつたのです。

社 神 玉 前 此の二柱の神は、三宮權現に合祀されます。二方共神武天皇様が、熊野の海をお渡り遊ばす時、御船が波に漂ふて、危ふかつた時に、天皇の御身代りとして、海にお入りになつたのです。

金山彦命

### 南宮神社

(岐阜縣不破郡中村字峯鎮座)

本社の祭神は、金山彦命で、二座の相殿には、彦火々出見命と、見野命とがお祭りしてあります。社傳によりますと、神武天皇様が、長髓彦をお討ち



南宮神社 南宮神社 南宮神社 南宮神社 南宮神社 南宮神社 南宮神社 南宮神社 南宮神社 南宮神社

關ヶ原役

不破郡府中村

しいことには慶長五年關ヶ原の役に、社殿をはじめ古來の舊記、寶物など、一つ残らず焼け失せてしまいました。けれども徳川幕府になつてから、殆ど舊時と同様に、立派な社殿を築き、維新の後、今の社格に上せられたので有

南宮神社(國幣中社)

ります。

### 貫前神社

(群馬縣北甘樂郡一ノ宮町大字一ノ宮)

拔録大明神

當社は一に拔録大明神とも云ひ、當國の一の宮で、祭神は經津主命、平城天皇様の大同元年には、上野の地二戸を神封に充て、仁明天皇様の承和六年從五位下を授け給ひ、清和天皇様の貞觀十八年四月正四位下に進み、醍醐天皇様の延喜十六年に、從二位を贈り給ひました。又堀河天皇様の康和五年六月には、社司に中祓を科せられました。之は神事を穢した祟りが、御占に出たからでありました。

當社の神主は、物部牛麻呂の後裔なる磯部氏が代々世襲しましたが、明治になつて國幣中社に列せられたのであります。

### 二荒山神社

(栃木縣上野郡日光鎮那日)

二荒山の別名

二荒山は一に黒髮山とも又黒上山とも云ひ、或は日光山、補陀落山、男體

磯部氏

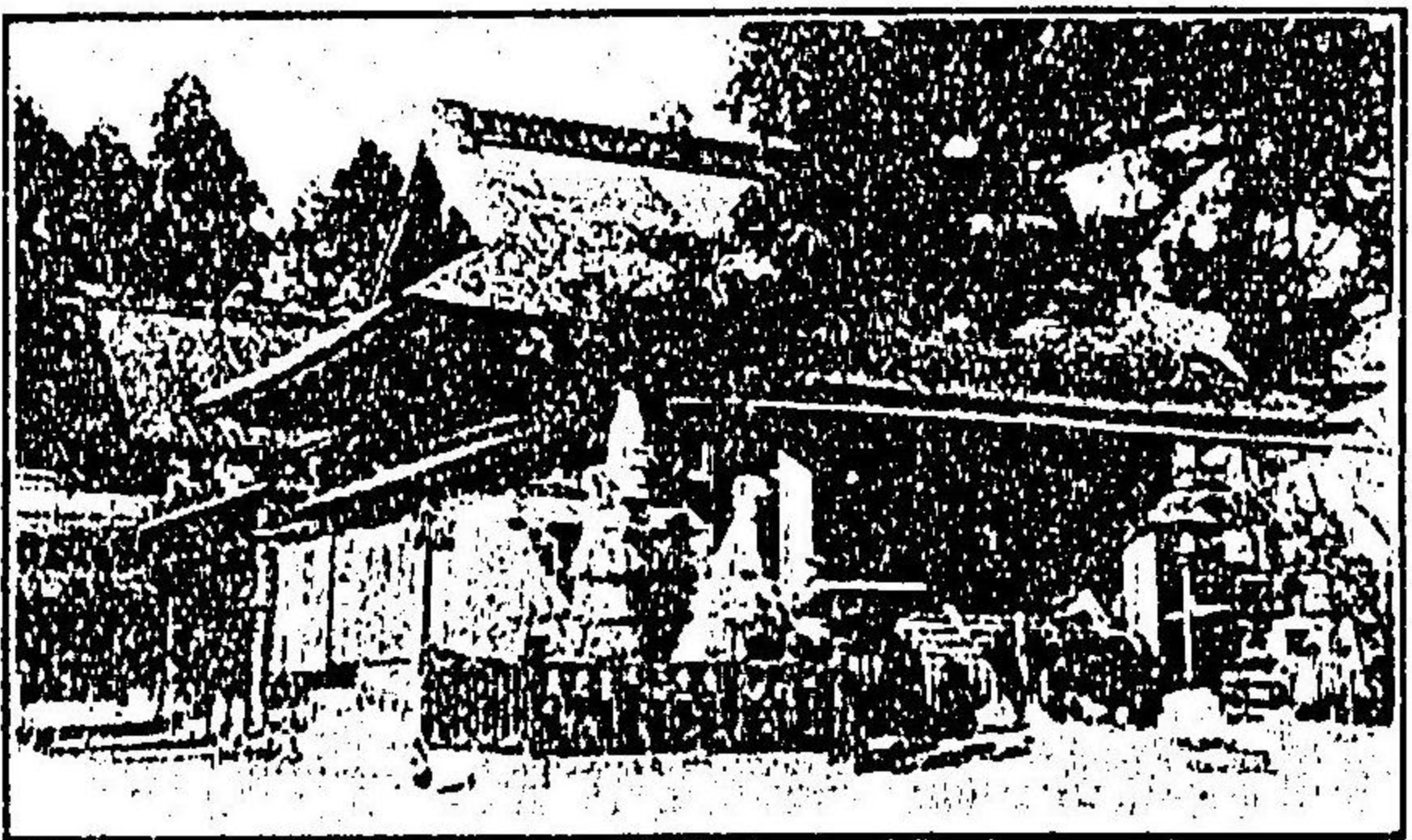
大己貴命

山等の數名がありまして、満山樽若たる常盤木に被はれ、冬季積雪の日にも尙縁を變へない靈峯で、實に坂東第一の名山と云ふべきです。

されば大己貴命が、當山に天降らせられたのも、衆峯に卓立して、人聲を聞かぬ清淨の山であるからで、其いつの頃に、こゝへ降らせられたかは、明かに解りませんが、恐くは遠き神代のことでありませう。

二荒山神社の祭神なる、大己貴命の御事蹟は、既に出雲大社の條に詳記しましたから、こゝには相殿におはす、田心姫命と味耜高彥根命との御事蹟を主として記すこととせませう。

さて田心姫命は、大むかし天照大御神と、素戔嗚尊とが、互に御誓約をなされて、まづ尊の佩かせ給ふ十握の劍を索め、之を三段に打ち折つて、天の眞名井に濯ぎ、嚼み碎



田心姫命

二荒山神社 (國幣中社)



奥津宮

味耜高彥根命

きて吹き出し給ふ、其息の秋霧から、第一にお生れなされた女神であります。時に大神は、素戔嗚尊に仰せて、子とし養はさせられました。之を筑紫の胸形の奥津宮に鎮ります神であります。さて田心姫命は、後に大己貴命の神妃とならせられて、味耜高彥根命と下照姫命とお産み遊ばされたのです。味耜高彥根命は、又の御名を比古佐和氣命とも云ひ、生れさせられた時、御鬚既に入握に及んで、しかも何事をも仰せられず、唯日夜お泣きになるばかりでした。

三津

で、父神は、高彥根命を連れて船に乗せ、八十島を巡遊して其心を慰められました。父神は、少しも泣き止まず、殆ど手のつけ様もありません。其所で大己貴命は、神に禱つて、我子の泣くのを止めて貰はうとしました。或夜の夢に高彥根命がよく口を利くやうになつたと見て覺めてからお尋ねになりますと、高彥根命は唯、三津と仰しやいましたので、父神は三津は何所に有るか、重ねてお尋ねなさいますと、高彥根命は起つて石川度坂上に行き、こゝで有りますと仰せられましたから、其澤水に沐浴させな

崇神天皇

豊城命

二皇子の夢

れ、夫れより後は、よく口をお利きになりました。今大和國葛上郡高鴨阿治須岐能彥根命神社に鎮りますのは、即ち此の神様で御座います。

### 二荒山神社

(宇都宮市馬場町鎮座)

宇都宮宇曰ヶ峯に鎮ります當社は、人皇十代の帝崇神天皇様の時に當つて、東國一帯はまだ王化に浴しないので、天皇は第一の皇子なる豊城入彦命に、國摩大連を副へて、東國鎮撫に下向させられました。

そこで豊城命は、まづ毛野國上野下野の古名に下り、宇都宮の地に止まります。三年、遂に東國の逆賊を平げ、萬民を安んぜさせて、荒尾山に三柱の神をお祀りなさいました。三柱の神とは大物主命、事代主命、三穗津姫命のお三方であります。

一體豊城入彦命は、第一の皇子に渡らせられました。御位にはお即きにならないで、かく東國へ下られたのは、初め崇神天皇様が、お世嗣を定めやうと思召し、豊城命活目命の二皇子に勅して、各々見た夢を以て、皇位をお

譲りになる様に、お約束をなさいました。

さて豊城命の御夢は、大和國の御諸山に登り、東の方に向つて、八度槍を振り、八度剣を振つたと御覽になり、活目命は同じ御諸山に登つて、四方に細を張り、粟を食ふ雀を逐ふと見た旨を、夫れく申し上げられますと、天皇は二皇子の夢を判じて、豊城命は東國を治むる兆、活目命は天下に君として、萬民を治むる兆であると仰しやいまして、御位をば活目命にお譲りなさいましたが、之を垂仁天皇様であります。

さて豊城命は、勅命に従つて、東國に下らせられたのです。夫れより時を経て、豊城命の御遠孫なる奈良別王は、仁徳天皇様の御代に、下毛野の國造に任せられ、彼の地にお下りなさいました時に、其祖豊城入彦命の神靈を祀つて國社と崇め、かの三柱の神を合殿とせられたのであります。

後人皇五十三代仁明天皇様の承和五年に、故あつて此のお社を、北の山の今の白ヶ峯に移し参らせたので、爾來當社は、東國の鎮護として、朝廷からも武家からも、深く尊崇せられました。明治十六年國幣中社に列せられた

奈良別王

白ヶ峯

のであります。

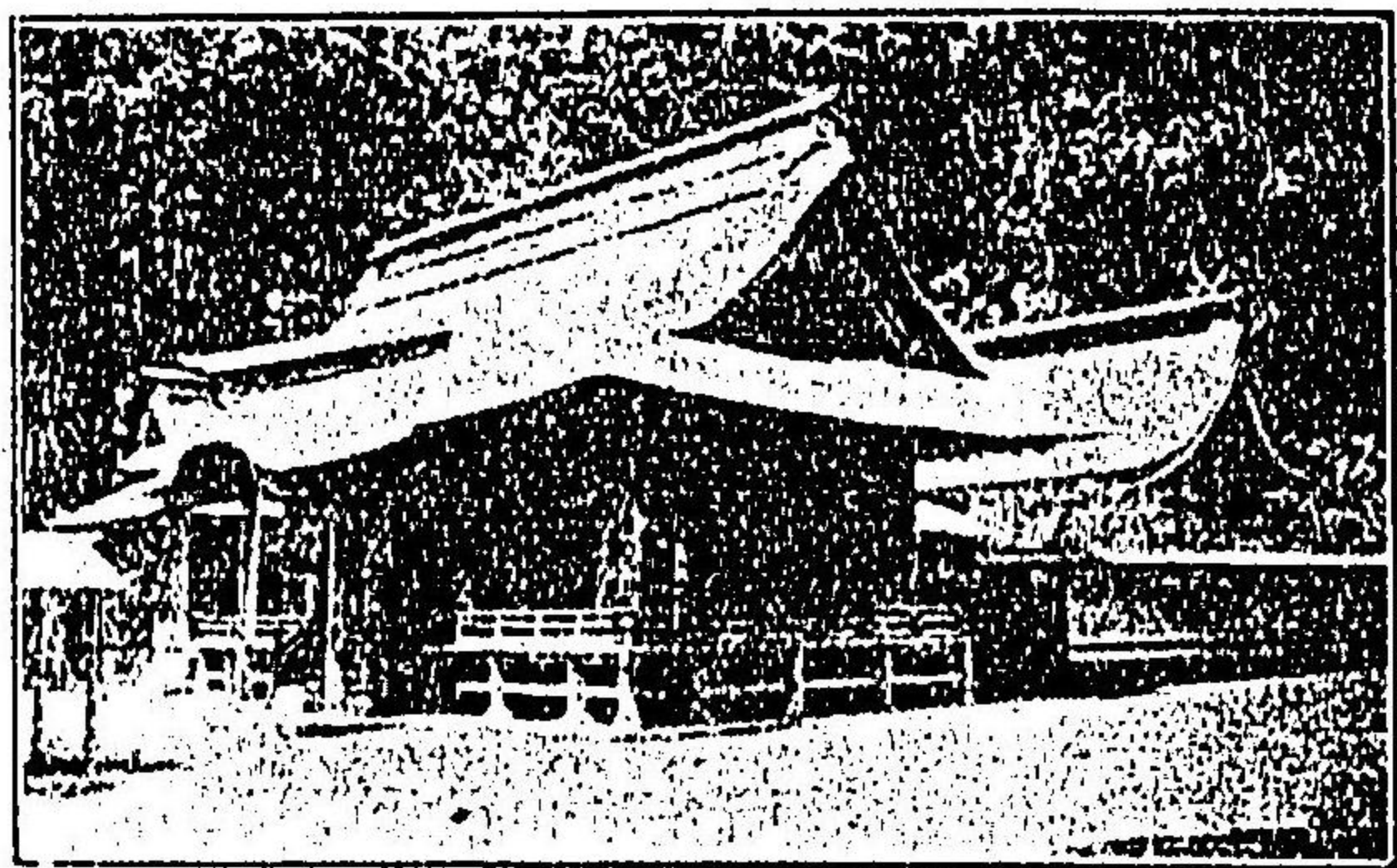
### 都々古別神社

(福島縣東白川郡棚倉町鎮座)

都々古別神社は、味相高彦根命を祀り、相殿には日本武尊を祀ります。社傳によれば、人皇十二代景行天皇様の御代に、皇子日本武尊御東征の砌、社郷都々古山一名鉾建山、又は武鉾山とも云ふに、平國の御鉾を建て、御親祭あらせられたのが始めであります。

それより後、桓武天皇様の延暦十五年に、坂上田村麿が、鎮守府將軍に任ぜられて、奥州征伐に向つた時、當社に大刀一振を獻じました。又平城

天皇様の大同二年に、將軍田村麿は、再び陸羽征伐の時、先づ當社に参拜し更に、伊野莊棚倉舊城址に遷し奉り、宮殿を造築しましたが、其費用は官廳



味相高彦根命

坂上田村

都々古別神社 (國幣中社)

二〇七

日本武尊

より下され、且つ相殿に日本武尊をも齋祀して、什寶の御鏡を神體に副へ奉つたのであります。

近津大明神

當社は中世の頃、兩部習合によつて、都々古別神社近津大明神と呼びましたが、明治六年三月七日、國幣中社に列せられ、都々古別神社の舊號に復せられました。

### 伊佐須美神社

(岩代國大沼郡高田町鎮座)

伊弉諾伊弉册尊

當社の祭神は伊弉諾伊弉册尊の二柱で、人皇第十代崇神天皇の七年に、天社、國社、神地、神戶を定められ、同十年群臣に詔して、四人の將軍を選び、之を四道に遣して、土賊を討ち、良民を撫育せられたのです。

四道將軍

此の年四道將軍は都を發し、夫れ々四方へ向ひましたが、其内の大毗古命第七代孝元天皇の皇子は、道を左に取つて、高志道から進み、其子建沼河別命は、右の道をとつて、東方十二道よりし、共に沿道の賊を討ち、遂に此の地に於て、父子御會合になつたので、其所を相津(今は會津)と呼ぶことにな

相津

欽明天皇

りなした。即ち當社は其際に、國家の鎮護として、親しく祭られたもので、元は山上にありましたが、第十三代欽明天皇の十三年に、今の所に御遷座になりました。

かくて明治の御代となり、會津郡を南北に分たれなしたから、従つて當社は、今大沼郡に屬して居るのです。

### 志波彦神社

(宮城縣宮城郡鹽竈町鎮座)

冠川明神

當社は初め岩切村岩切川の北にありましたが、今は鹽竈神社の境内に移されてあります。一に冠川明神と云ひ、又志波道上宮とも云ひまして、元は鹽竈の末社であつたのです。

志波彦神

祭神志波彦神と云ふは、鹽竈神の屬神でありなす、延喜の制名神大社に列し、明治七年十二月今の地に移ると共に、國幣中社に列せられたのです。

志波彦神社(國幣中社)

### 鹽竈神社

(宮城県宮城郡鹽竈町鎮座)

鹽竈明神

當社は陸奥今は陸前の一の宮で、鹽竈明神と呼び、祭神は健甕雷神、經津主命、鹽土老翁大神の三柱で、鹽釜を以て靈形とし、釜は四つ、徑各四尺八寸、今は本社の本社の南の竈神社に祀られてあります。

大むかし健甕雷神、經津主の二神が、葦原の中國に天降つて、荒ぶる神共を平げ給ふ時、岐神の岐神鹽土翁と同體を道案内として諸國を周り、此の地に來りていよく神驗を顯はされたと云ひます。

伊達政宗

陸奥國一宮

慶長十二年夏、伊達政宗が、千家山の上に社殿を營み、貴船唯洲の兩社を配合しました。所が元祿六年は、網村が唯洲宮を古内邑に移して別社とし、更に此の地に造營して健甕雷神を左宮となし、經津主命を右宮とし、岐神を別宮となして、此の三柱を陸奥國一宮正一位鹽竈大明神と呼びました。かくて寶永元年九月、祭田百五十石の地を寄附し、社家二十九人に五百五十二石餘の地を賜はり、降つて明治七年十二月志波彦神社を此の地に遷し、

尋で國幣中社に列せられました。

### 大物忌神社

(山形縣飽海郡吹浦村及廢岡村地内鳥海山上鎮座)

介稻魂命

羽後國に名高い鳥海山に鎮座する當社は、祭神倉稻魂命で、穀物養蠶の祖神として、人民に衣食住の幸福を與へさせられるので、神徳の尊いことは、申す迄もありません。

景行天皇

されば人皇十二代の帝、景行天皇様の朝に、はじめて此の山に祀らせられ、夫れより後賊軍征討等の事ある折りには、必ず當社へ戰捷を祈らせられることとなつて居ます。

鳥海山

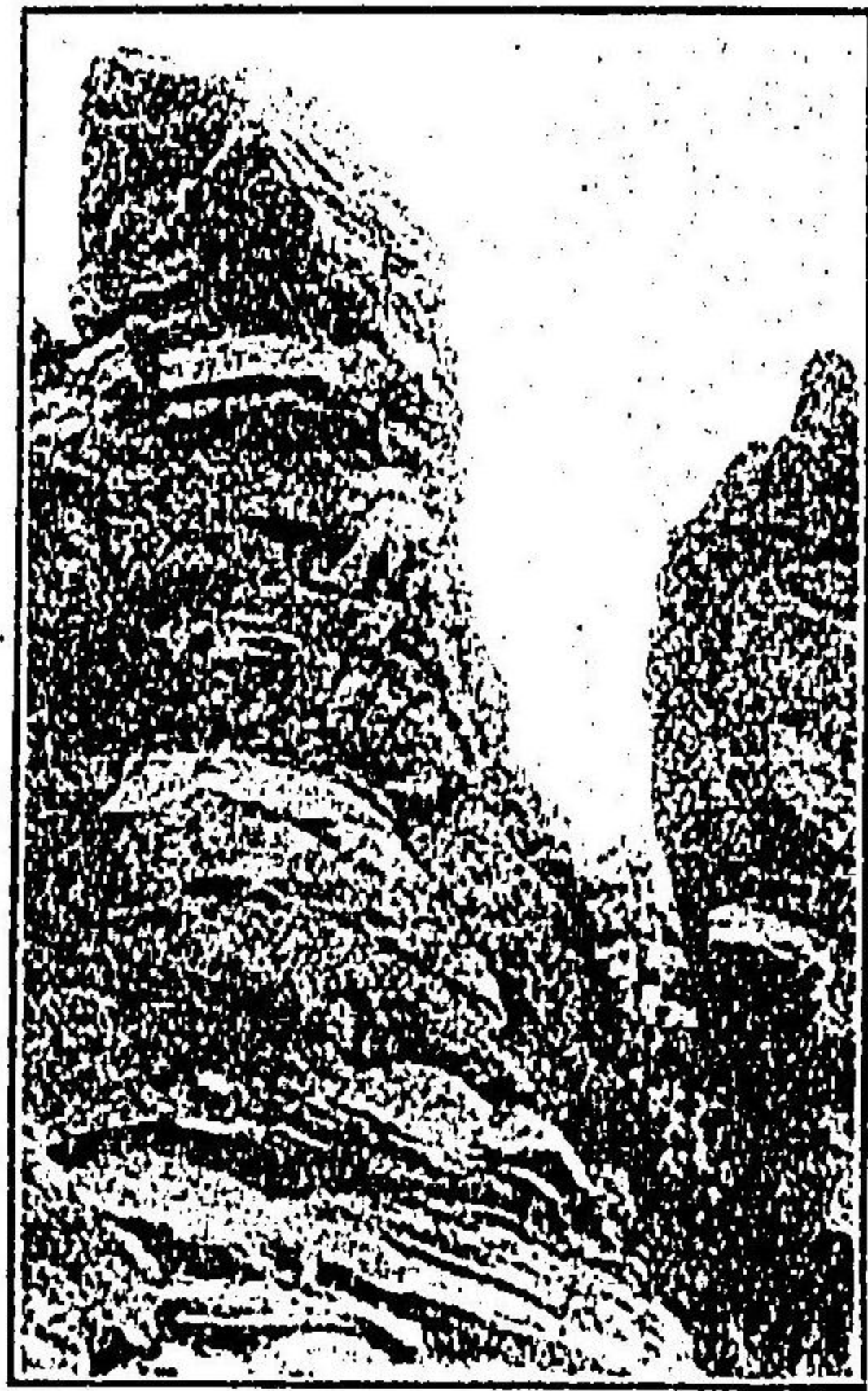
鳥海山の形狀は、富士山に似て、海拔六千四百六十八尺、其頂上には四季共に雪を被り、山腹には種々の高山植物が、五色の毛氈を敷いた如くに咲き亂れ、一度此の山に上れば、何人も羽化登仙の思ひをせずには居られないさうです。

此の山の峯は、多くに分たれて、東南にあるを行者嶽と云ひ、天武天皇様

大物忌神社(國幣中社)

の自鳳年間に、行者役小角が来た所だと云ひ傳へ、又東の峯は七高山と呼んで、虫穴の巖に名高い所、北の峯を荒神嶽と稱し、當社の鎮まります所であります。

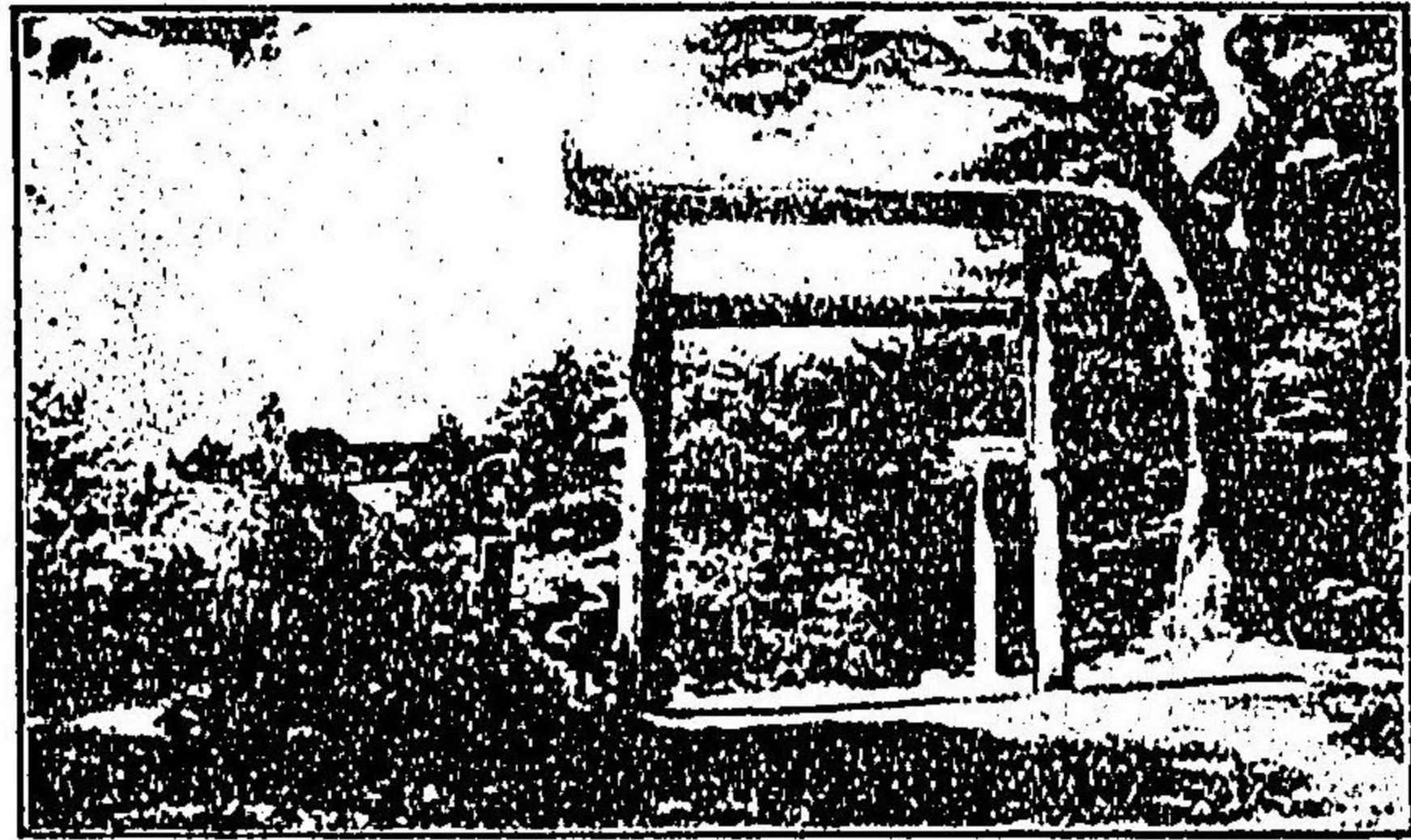
次に西の峯を稻倉嶽、一名稻村嶽と云ひ、西南にあるを笙ヶ嶽と呼びます。



鳥海山新山切通

又山中にある二つの湖水の、西のを鳥海、東にあるを弦巻池と云ひます。山の名の鳥海は、即ち西の湖水の名から起つたもので、兩湖共に周圍一里ばかりです。

海上の日の出を拜むに宜しく、西は一面茫々たる海で、其海中に時つ飛鳥は、直ぐ目の下に見えて、呼べば應へるかと思はるゝばかり、口碑の傳ふる所では、むかし此の山上から飛んで出たので、かう云ふ名があると云ふのです。



鳥海山巖口の宮内松岡日高海望む

此の様に鳥海山は、天下に稀な靈山ですから、年々參詣する人は、殆ど幾

萬人と云ふ數で、養蠶を守り、五穀を實らせ給ふやうに、祈念するのであります。

當社の沿革を調べるに、清和天皇様の貞觀年中官社に列し、陽成天皇様の元慶年間には、封戸を増して出羽の一宮と定められ、櫻町天皇様の元文元年には、正一位の位記と勅額とを下賜され、今上天皇陛下の明治四年に、國幣中社に列せられたのであります。

### 若狹彦神社

(福井縣遠敷郡遠敷村大字遠敷鎮座)

當社の祭神は、天津日高彦火々出見尊にましまし、當地に御鎮座せられたのは、靈龜元年九月十日、神位は正一位勳三等にあらせられ、光仁天皇様の寶龜元年八月朔日に、勅使參向あつて、鹿毛

若狹彦神社 (國幣中社)

豊玉姫神

の馬を奉納ありました。  
又若狭姫神社の祭神は、彦火々出見尊の神妃なる、豊玉姫神にましくて、  
當地御鎮座は養老五年二月十日で、前社と同様、明治四年五月、國幣中社に  
列せられました。

攝社白石  
神社

攝社白石神社は、和銅七年假に鎮座せられたので、前記若狭彦若狭姫の舊  
地であります、小浴神社は、當社に山緒ある神社で、祭神は同前、今は當社  
の附屬社となつて居ます。

### 氣多神社

(能登國羽咋郡一宮  
村宇一宮寺家鎮座)

大己貴命

當社の祭神は、大己貴命であります。命は上古天下を巡行なされて、各地  
の妖賊共を退治せられましたが、當能登國には、最も多くの強賊が集り、殊  
に邑知海に住んで居る毒蛇は、其害甚しく、士民何れも少なからず苦しめら  
れて居りました。

邑知海  
の毒蛇

神門島

そこで命は、まづ越の北島から、鹿島郡神門島に着き、其地に住ませられ

崇神天皇

ました、御門主彦神の許を訪ね、更に七尾小丸山地方の強賊を誅して後、今  
の社地においでになりまして、こゝに行宮を建て、國中の神々を率ゐ、遂  
に邑知海の毒蛇を射殺して、數年の間御滞在なされ、力めて國內の鎮撫に意  
を用ひ、更に他國へ御巡行にならうとする時にも、神靈を此の地に止め置き、  
永く後代までも御守りなされることゝなりましたが、之ぞ實に當社鎮座のは  
じめであります。

當社は崇神天皇様の御代に、はじめ社殿を建て、爾後歷代天皇の御崇敬  
深く、勅使下向の事も屢々ありました。明治維新後、即ち四年五月、國幣中  
社に昇格せられたのであります。

### 射水神社

(高岡市大字  
木丸鎮座)

建内足尼  
命

當社の祭神は、二上神と申し、即ち伊弉諾國造の祖なる建内足尼命で、社  
殿創立の年月は明かではありませぬ。口碑の傳ふる所によると、當社はむか  
しから、同郡二上山の麓の、二上村にありました。

射水神社(國幣中社)

養老寺

前田利長

所が養老元年に、僧行基が佛寺を建て、養老寺と號し、本社を以て其鎮守としたと云ひます、かくて光仁天皇様の寶龜十一年に、從五位下を授け、清和天皇様の貞觀元年に正三位に上り、延喜の制に名神大社に列し、降つて天正年間兵火のために焼け失せましたのを、前田利長の手にて再建せられ、明治四年五月國幣中社に列し、更に八年九月今の地に移されたのであります。

### 彌彦神社

(新潟縣西蒲原郡彌彦村大字彌彦鎮座)

天香山命

當社は本國の一の宮で、祭神を天香山命と申します。創立は崇神天皇様の勅に從つて、こゝに立てられたもので、天香山命と仰せられるは、神武天皇様の御時、此の土に降臨して賊を征伐し給ひ、人民を救つて田畑を拓き、農業養蠶の業をはじめ、衣食に足らせ、禮節を教へ、餘烈久しきに及んだので、國人深く其神徳に感じ、最も厚く尊敬しました。

末社の神

されば又本國に早魃や疫病のある時は、此の神はよく雨を降らせ、病を救ひ給ふと云ひます、末社には、武吳、船山、草薙、今宮、勝、乙子等の神々

があつて、之を六王子と呼びます。

### 出雲神社

(京都府南桑田郡千歳村大字千歳鎮座)

大國主命  
三穗津姬命

當社は本國の一の宮で、祭神は大國主命と、三穗津姬命との御二柱であります。元明天皇様の和銅二年に、はじめて建立せられました。夫れより嵯峨天皇様の弘仁九年には、『名神』に預り、仁明天皇様の承和十二年に從五位下を授けられ、延喜の制に名神大社に列し、更に正四位上を賜はりました。

後一條天皇  
玉井寶重

かくて後一條天皇様の萬壽二年七月には、早魃を祈つて、效驗忽ち現はれ、後鳥羽天皇様の元暦元年九月には、源賴朝が、地頭玉井寶重に命じて、社領の濫行を停めましたが、之は院宣に依て、ありませぬ。

香西又六  
孫六

又伏見天皇様の正應五年には、正一位を授けられ、貞和元年三月には、足利尊氏が、本社末社を修造し、應仁文明の頃よりして、次第に衰微を來しましたが、永正年間になつて、細川政元の家來なる香西又六孫六等が、此の地に逃げて来て、非常なる狼藉を働き、其爲め末社以下の建物は兵火に焼かれ、

出雲神社(國幣中社)

天正中明智光秀が、當國を押領してからは、神宮寺以下が亡びてしまひました。

### 籠神社

(京都府與謝郡府中村大字江尻鎮座)

天水分神  
中祓の科  
焚祭

當社は亦の名を籠大明神とも云つて、丹後の一宮であります、祭神は天水分神と申し、仁明天皇様の嘉祥二年從五位下を授け、陽成天皇様の天慶元年十二月從四位上に進められ、延喜の制に名神大社に列し、白河天皇様の承暦四年六月御下に、籠神の祭事を穢した祟あると云ふので、社司に中祓を科せられたこともあります。

當社では毎年四月中酉日祭を行ひ、之を葵祭と云ひます。又世々海部直氏を以て神主とし、明治に至つて國幣中社に列せられたのであります。

### 出石神社

(兵庫縣出石郡神樂村ノ内宮内村鎮座)

天日槍命

當社は新羅の王子天日槍命が、我國へ歸化せられた時、彼の地から齋らし

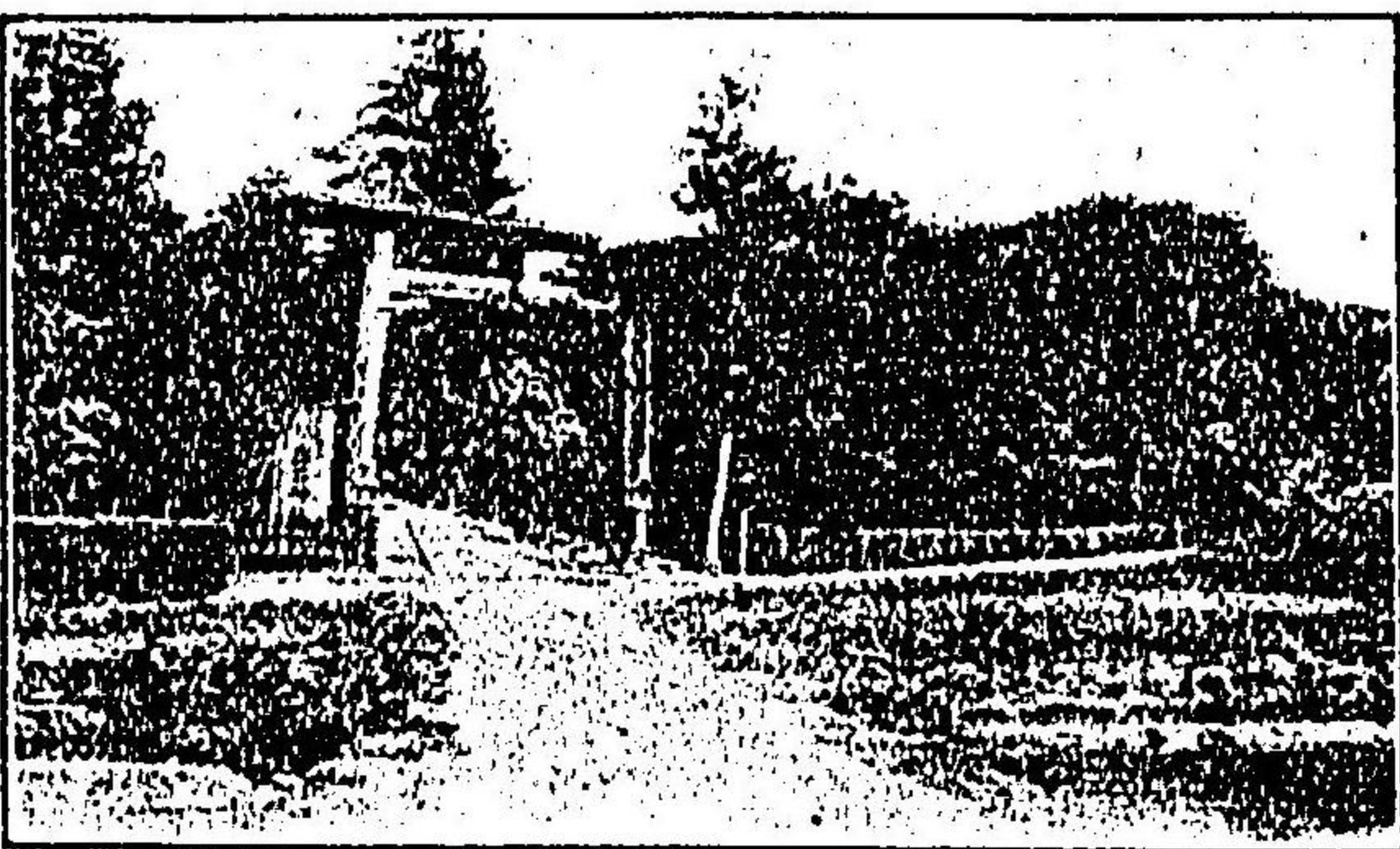
給ふ八種の神寶を祀る社であります。抑も天日槍命は、人皇十一代、垂仁天皇様の三年三月に、東方の國に聖徳の君在すと聞き、國をば弟の知己に譲り、

遙々海を渡つて日本に歸化せられたのです。

はじめ命が、播磨國宍粟邑に着船なされました時、天皇は大友主長尾市と云ふ者を遣して、懇ろに其譯を尋ねさせられ、命の望ませられる土地に石永く住むことをお許しになりました。

そこで日槍命は、菟道河を溯つて、近江國の吾名邑に行き、更に北して若狭を經、西に向つて但馬國に進み、出島と云ふ所へおいでになりましたが、之が今の出石郡の地であります。

所が其當時、此の國は、未開野蠻の所で、洪水は氾り、陸地を沈め、禽獸が野山に充ちて、暴威を逞うしますので、人民は殆ど住むべき地がなくて、非常に困つて居りました。



出石神社 (國幣中社)

宍粟邑  
大友主長  
尾市

出島



瀬戸津居山

で命は先づ瀬戸津居山の間を切り開いて、濁つた水を海に流し、田畝の耕作やら、樹木を植ゑる事を教へ、漸く人民を安心させ、自身が先に立つて、何かと國益をお圖り下されたので、但馬の國民は末の代までも、命の御功績を仰ぎ尊んで居ります。

麻多鳥媛

さて命は、出島の人太耳の女、麻多鳥媛を娶つて、但馬諸助を生み、諸助日槍杵を生み、日槍杵清彦を生み、清彦田道間守を生み、子孫代々此の地に住んで、朝廷に忠義を盡しました。

宇倍神社

(島取縣岩美郡宇倍野村大字宮下村鎮座)

武内宿禰

當社は本國の一の宮でありまして、祭神は武内宿禰、今の五圓紙幣に印刷してゐるのは、即ち當社の眞景なのです。

景行天皇

さて宿禰は、屋主忍男武雄心命の子で、景行天皇様の二十五年に、命を奉じて東北諸國の形勢民情を視察し、二十七年に歸つて、詳しく彼地の事情を

神功皇后

奏問しました。

五十一年八月、成務天皇様の御即位と共に、よく之を輔佐して、後大臣に任ぜられ、又仲哀天皇様が熊襲を御親征なされ、しかも軍利なく、天皇は陣中に於てお崩れなさいましたから、宿禰は神功皇后様と御相談をして、天皇の喪を秘し、軍國多事の場合であるから、豊浦宮に密葬し奉つて歸りました。

熊坂忍熊

かくて皇后を輔けて新羅を討ち、筑紫に凱旋するや、皇后は皇子を生ませられました。之を後に應神天皇と申し上げるお方です。するとここに先帝の庶王子に、熊坂忍熊の二王が、兵を擧げて、皇后の入京を遮り止め様としました。それから、皇后はかくと聞き召して、舟師を率ゐて難波に赴き、宿禰に命じて皇子を奉じて南海に出させ、宿禰は紀伊水道で、皇后を迎へ奉り、更に忍熊王を討伐したのであります。

韓人池

應神天皇が御即位の後七年に、宿禰は韓人を督して大和に池を掘らせ、之を韓人池と名づけ、九年には勅を奉じて筑紫を巡視しましたが、恰も其弟の爲めに讒言せられて、一時其位置が危くなりましたが、やがて無罪の身とな

日本一の  
長壽者

り、元の如くに朝政に參與して、熱心に朝廷のために盡しました。宿禰は景行、成務、仲哀、應神、仁徳の五朝に歴仕し、官にあること二百四十四年、實に日本第一の長壽者であつたのです。

### 熊野神社 (島根縣八束郡 熊野村鎮座)

建速須佐  
之男命

八雲立つ出雲國の、八束郡熊野村に鎮座します。同名のお社は、建速須佐之男命をお祀り申す名高き神社です。併し此の神の御事蹟は、廣く世に知られて居ますから、こゝには只重なる事の一つ二つを記すに止めて置きませう。

燧白と燧  
杵

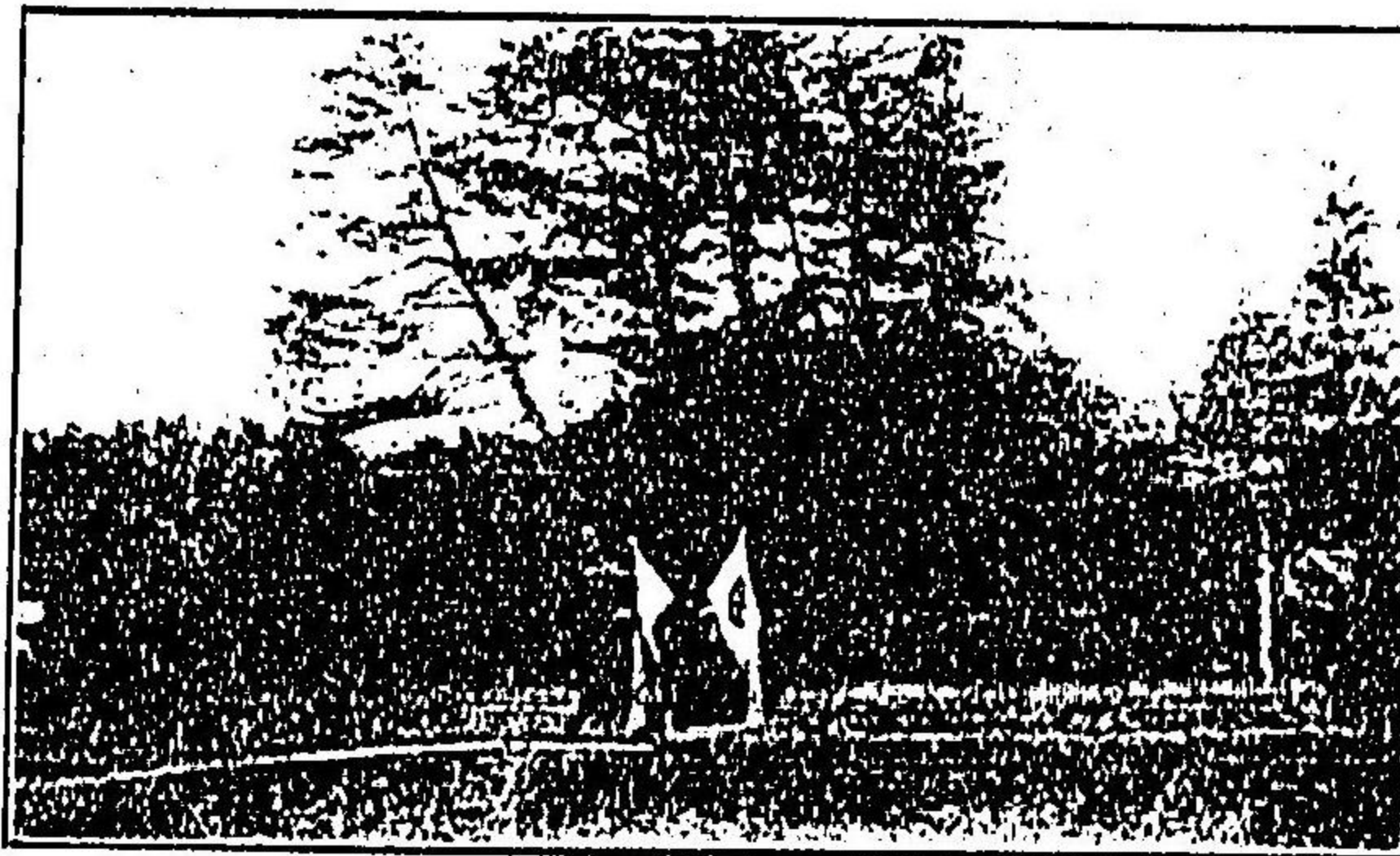
日本火出  
初神社

さて須佐之男命は、或時熊成峯の檜を以て、燧白と燧杵とをお造りなされ、之より清淨火を鎖り出して、祭事にお用ひになりました。之ぞ上古の發火器で、古來朝廷に奉つて、禁中の祭事に御使用になりました。されば出雲の國造は、之を受けて神火相續の式を行ひ、今に至るも此の古式は廢止されません。故に當社を日本火出初神社とも申します。

海上王

一體須佐之男命は、御父伊弉那岐命から海原國の統治の大任を承けさせられ、日本と朝鮮との聯合を成し遂げ、日本海の上王として、海原國の君主として、又出雲派の祖

熊成峯



熊野大社

神として、或は航海業を奨励し、或は殖林に盡し、又は大蛇を斬つて、國人の難儀を救ひ、靈劍を得ては皇威の隆盛を圖り、宮殿を營み、八雲立つの神詠に和歌をはじめ、其子孫を各地に配して殖産業を興し、國家統治の權を大國主神に譲つて、經營を全うし、遂に永久に其神靈を熊成峯に止めて、神去り給ふたのであります。

されば歴代朝廷の御尊信厚く、古くは其勳等をかの杵築大社の上に置かれたのを見ても、如何に尊いかわ解るではありませんか。

熊野神社 (國幣中社)

### 水若酢神社

(島根縣隠岐郡五箇村鎮座)

水若酢尊  
仁德天皇

當社は隠岐島隠岐郡の内、最も古い神社で、祭神は水若酢命であります。一宮大明神とも呼び、其御鎮座のはじめは、人皇十七代の帝、仁德天皇様の御代のこと、承和九年九月、官社となり、貞觀十三年從五位下に敍せられたのです。

思ふに水若酢の水は、瑞の義でありませう。當社の事の、歴史に見えて居るのは、續日本後記、三代實錄、延喜式の類をはじめ、種々の書物に出て居る所を見ると、古くから著名のお宮には相違ありませんが、離れ小島に御鎮座のこと、て、詳しい御事蹟は残つて居ないのです。

### 中山神社

(岡山縣菅田郡一宮村大字西一宮鎮座)

仲山大明神

當社は津山の北一里半ばかりの地にあつて、俗に仲山大明神と云ひ、又南宮とも呼びます。祭神は備中の吉備津彦神社と同神で、三代實錄によれば、

女子の犠牲

貞觀二年正五位下仲山神に、從四位下を授け、同六年官社に預ると見え、又宇治拾遺には、此の神の祭事には、女子の犠牲を奉つたこともある位で、如何に此の地方の人々の崇敬したかは、之を以て見ても解りませう。

### 安仁神社

(備前國邑久郡大宮村大字藤井鎮座)

五瀬命

抑も安仁神社と申すは、人皇第一代の帝神武天皇様の皇兄五瀬命を齋き祀り、相殿には稻氷命、御毛沼命を配祀する御社で、社號の安仁は兄の假名、即ち兄神社の義であります。

高島宮

神武天皇様が皇兄、諸皇子、群臣を率ゐて、日向國を御出發なされ、先づ吉備國の高島宮に入らせられて、三年の間御滞在、専ら東征の謀を廻らし、御船を造り、糧食を貯へるなど、すべて五瀬命の御聖謀になつたのであります。

皇兄戰死

かくて皇軍は戦備全く成り、東に進んで難波の崎に行き、河内の孔舎衛坂で長髓彦と合戦をなされましたが、此の戦は非常の激戦で、五瀬命さへ流矢

安仁神社(國幣中社)

に中らせられる位ですから、将卒の戦死者も甚だ多かつたのです。  
 五瀬命はかくの如く、吉備國の高島宮や、この藤井の行宮で、御東征の御創業を、數年の間御監督なされて、一方ならぬ御心勞を積ませられました。が、不幸にも御成業を見させ給はず、御陣中に於て、賊の矢の爲めにお薨れ



なさいましたのは、二千五百餘年の今日に至るまで、帝國臣民の遺憾に思ふ所であります。

安仁神社馬場口  
 されば神武天皇様には、肉身の御兄君を失はせられて、非常に御悼惜遊ばされ、やがて大和の橿原で、御即位なされて後、五瀬命が數年の間、此の吉備國に在らせられて、御苦心遊ばされたことを忍び、其行在所の趾に、御兄君の靈宮を建て、兄神社と呼ばせられたのが、即ち當神社の起源なのであります。

### 吉備津神社

(岡山縣吉備郡眞金村鎮座)

當社の祭神は、彦五十狹芹彦、又の名は吉備津彦と申して、孝靈天皇様の皇子、母は和國香媛、崇神天皇様の御代に、四道將軍の一人となり、西國を征伐して、後遂に吉備國の鎮守となられたのであります。

さて當社は吉備國の一の宮で、神徳威烈世に超え、其子孫は世々吉備の國造に任せられ、仁明天皇様の承和十五年に、從四位上に敍せられて以來、代々の帝の御崇敬深く、降つて明治の御代には、國幣中社に列せられ、其本殿と拜殿とは、特別保護建築物となつた位です。又神官賀陽朝臣は、實に當社の神裔であります。

### 熊野座神社

(和歌山縣東牟婁郡本宮村鎮座)

當社は世々熊野本宮と云ひます。本宮とは新宮、那智の兩宮に對して呼ぶ言葉で、祭神や神事に就いても、互に深い關係があります。中古の世には、

吉備津神社熊野座神社(國幣中社)

兄神社

彦五十狹  
 芹彦

吉備國一  
 宮

賀陽朝臣

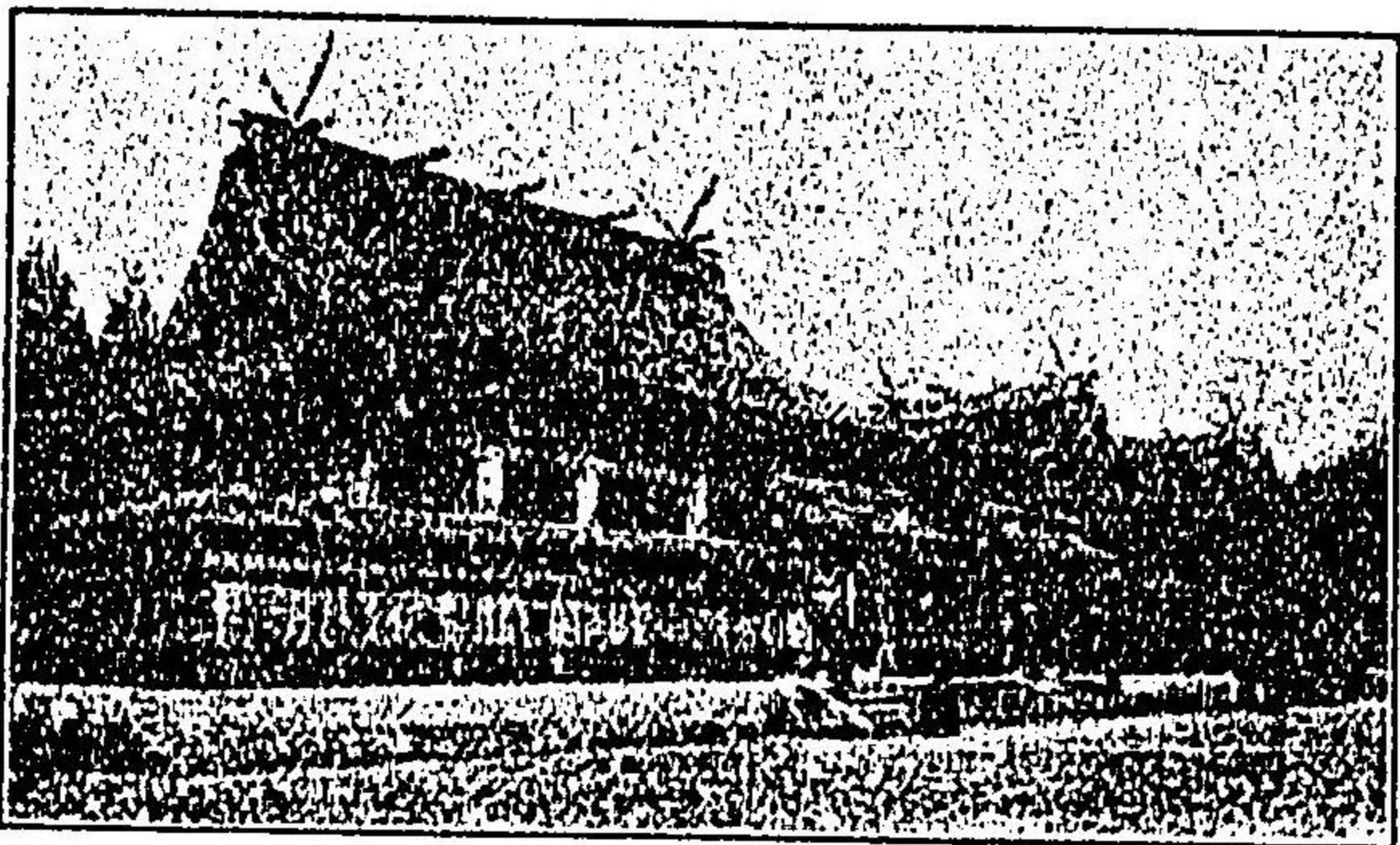
熊野本宮

熊野三山

主として僧侶の掌る所となつて居ましたので、従つて本宮を證誠殿と呼び、新宮那智を兩所権現と云ひ、此の三宮を總稱して、熊野三山、又は熊野三所権現と云ひました。

所が明治五年になつて、本宮の方は國幣中社に列せられ、三宮共夫れ、社格其他に相違が出来ましたので、むかしの様な連絡もなくなり、皆個別々になりました。そこで當社は延喜式に載つて居る名稱に従つて、熊野座神社と呼ぶことになつたのです。

さて當社の祭神は、主神家津御子大神、熊野牟須美大神、早玉之男大神、天照皇大神で、之を上四社と呼び、中下各四社に祭る所の神々を合せて十二社となりますが、以上を熊野十二社と云ひ、



壯嚴なる社殿は、本宮宇浮島原に鎮座せられました。明治二十二年八月に、

上中下十二社

浮島原

崇神天皇

神郷

熊野御幸

家津御子大神

熊野川の大洪水によつて、上四社を除く他は、總て流失しましたので、二十四年三月上四社を現今の地に移し奉り、今迄の社地を舊社地と呼び、改めて社殿を築き、中下各四社、攝社末社まで合祀することになりました。元來當社は、崇神天皇様の六十五年、はじめて建設せられ、景行天皇様の五十八年に修繕を加へられ、中古以來は諸國に命じて、用度を辨せさせる事となつて居ました。殊に當社の奉行は、中古は三公、後世には征夷大將軍又は執權職等でありました。かくの如く重職の人が奉行となつたことは、當社の尊嚴を想像する料ともなりません。

されば當社の神驗もあらたに、天下を擧げて崇敬し奉り、古くは神武天皇東征の際に、こゝを神郷と稱へさせられ、天皇上皇の御幸は、幾度あつたか、數へ盡されない程です。一體京都から熊野への路には、九十九ヶ所の王子の社がありまして、むかし熊野御幸の時、御休所のある毎に、熊野本社を假りに移し參らせられたもので、何れも地名を上に加へて、何王子某王子と呼びます。當社の主神を家津御子大神と申し奉るので、之はかの素盞男命の亦の御名

紀の國

で、更に別に熊野加武呂乃命とも申し上げます、何故にかく申し奉るかと言ふに、家津は木津で、御子は同殿に座す伊弉册命の御子と云ふ義であります。紀伊國の古名を紀ノ國と云ひます。紀は木で、樹木のよく繁り合つた國なので、かく呼んだものでせう、素盞男命は殖林に御力を盡され、其御子の五十猛命を此の國に送つて、殖林事業を勵まし、御自身にも熊野へいらしつて、其監督をなさいましたから、かくは別の名に呼び奉るのであります。

### 忌部神社

(徳島市宇宮田浦町及同二軒屋町鎮座)

天日鷲命

當社の祭神は、阿波國忌部の遠祖、天日鷲命であります、太古の代、各地に麻穀を植ゑて、紡績の業を起し、天照大御神の功臣に列せられました、されば後世其神徳を稱へて、麻植神とさへ申し上げます。

忌部

天日鷲命の子孫は、忌部と呼びて、朝廷に在つて、國家祭祀の禮儀を掌りました。又神武天皇様の重臣たる、天富命は、天日鷲命の一族を率ゐて、阿波國を開拓しました、故に其子孫は、永く此の國に止つて、御踐祚の時の大

阿波國

天日鷲神

嘗祭には、必ず膳部の主任となる例で、此の事は建國以來三千年の間、少しも更りませんでした。

一體忌部氏は、阿波國の文化の根元で、かつ又此の國の歴史の基を開いた人です、故に阿波の國民が、忠君愛國の誠心は、遠くこゝに基づくと云ふことも出来るのです。

明治四年五月、當社に對して、國幣中社に列する旨仰せ出されましたが、當時其所在が詳かでありませんでしたから、従つて祭典も行はれずに居りました。所が同七年十二月になつて、麻植郡山崎村の天日鷲神社は、取も直さず元の忌部神社と分り、次で祭典も行はれたのであります。

かくて十八年十一月、名東郡徳島の富田浦町に社地を選定して、宏壯なる社殿を御營造になりました。

### 大麻比古神社

(徳島縣板野郡板東村大字板東村鎮座)

抑も當社は延喜の制に名神大社に列し、後當國の一宮と稱へられ、阿波と

大麻比古神社(國幣中社)

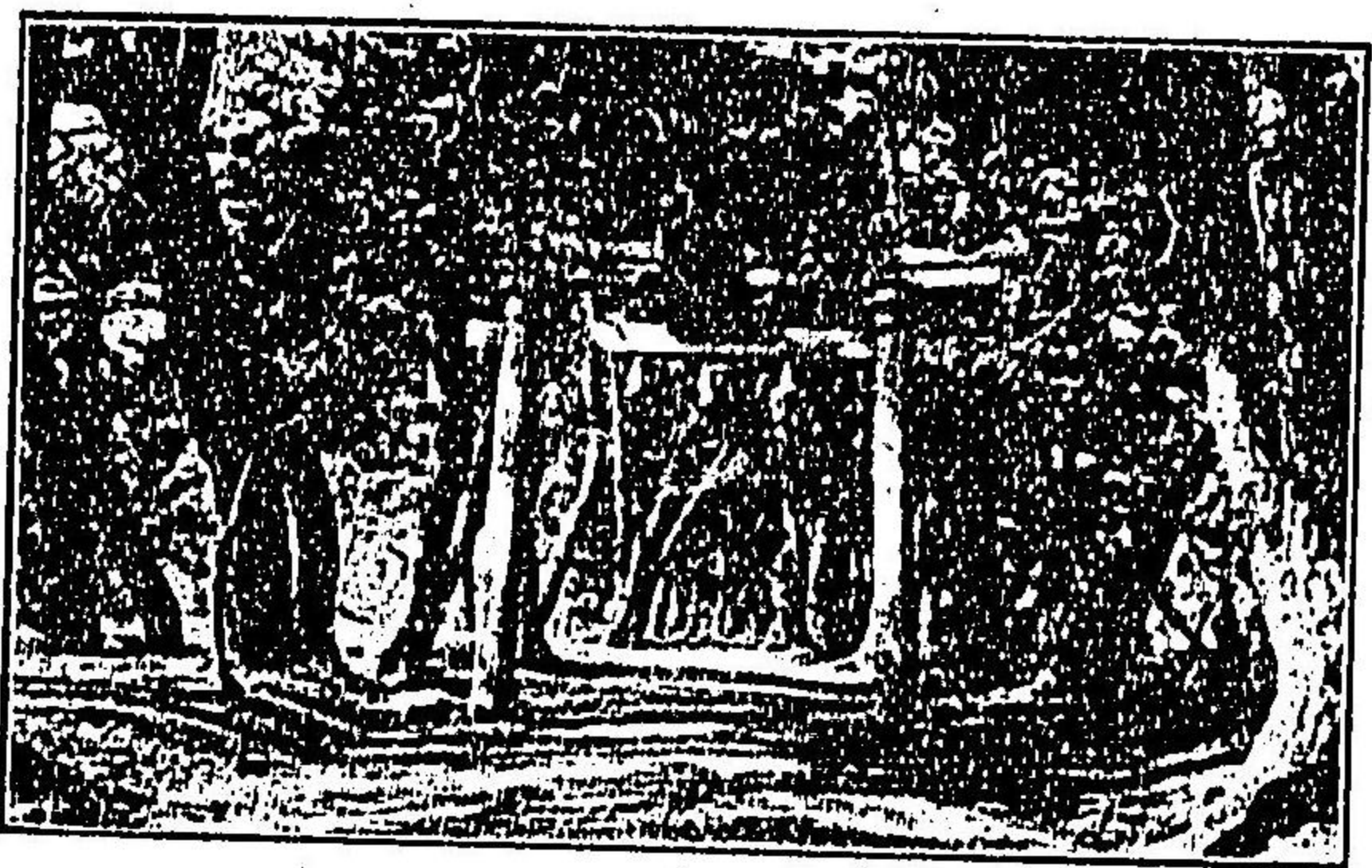
大麻比古神

峯の権現

麻布木綿の製造

日本お宮物語

淡路兩國の總産土神と崇められて居ます。祭神は大麻比古神即ち天太玉命にましくして、相殿に猿田彦神を祀ります。



には太祖太玉命を祀り、

むかしは峯に権現の社、谷に大麻比古大明神の社がありましたが、後に峯の権現をば、谷の大麻社に合祀されたので、峯の権現と云ふは、猿田彦神のことで、昔は別社であつたものと見えます。歴史に残る所を見ると、神武天皇様の御代に、天太玉命の御孫なる、天富命が勅命を奉じて、天日鷲命の孫を率ゐ、四方に肥沃の土地を求め、遂に阿波國においでになりました、こゝに麻穀の種を下し、麻布木綿の類を製して、大いに殖産興業の途を開かせられ、國利民福の方法を講じて後、板野郡と麻植郡との二ヶ所に神社を建て、板野郡麻植郡には日鷲命の神靈をお祀りになりました。大

麻殖神

清和天皇

中御門天皇

元明天皇  
五柱の祭神

麻比古神社と忌部神社とは、かくして建てられたのであります。

一體日鷲命は、阿波忌部の祖先でありますから、忌部神と呼び、又地名を取つて麻殖神とも申し上げ、此の神を麻殖神と云ふに對して、太祖太玉命を大麻比古神と稱へるのです。

當國に殖産興業の基をお開きになつたのは、天富命と日鷲命の御孫とで、而も當社は、其太祖の御神靈を祀る所でありますから、古から朝廷の御尊崇厚く、代々の國主領主等も、深く之を崇敬し、清和天皇様の貞觀元年には、大麻比古神に對して從五位を授けられ、夫れより順次神階を進めて、中御門天皇様の享保四年には、正一位を授け給ひ、かくて明治六年國幣中社に列せられました。

### 田村神社

(香川県香川郡一宮村大字一宮鎮座)

當社は元明天皇和銅二年の創立で、田村大社又は一宮大明神とも呼び、實に當國の一宮であります。祭神は倭迹々日百襲姫命、五十狹芹彦命、猿田彦

田村神社(國幣中社)

古大神、天隱山命、天五田根命の五柱です。

當時は歴代天皇の御崇信深く、又武家の尊崇も厚かつたので、元より一國

鎮護の貴い社ですから、絶ず國家の安全を祈らせ、

或は種々の天災の起つた時にも、第一に當社に祈

願して、大刀や馬代を獻ずる例となつて居ました。

一體當社は、別の名を定水明神とも呼びます。

村奥殿の下に深い淵がありまして、常に角板を疊ん

で蔽をしてありますが、夏の真盛りと雖、冷氣充

神ち渡つて、むかしより誰一人、中を窺つた者があ

りません。明治維新前には、天災水旱の節に、郡

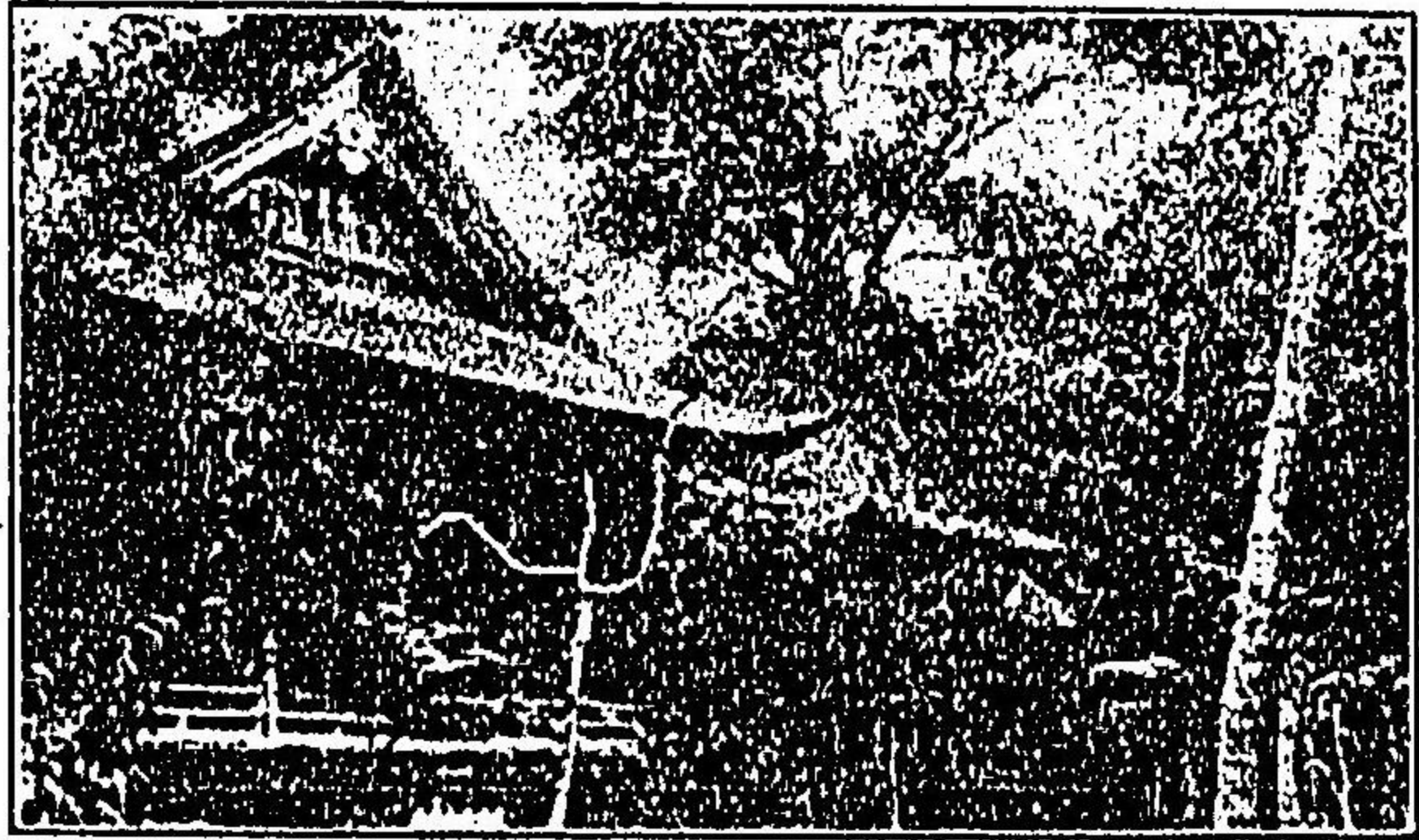
社の奉行所から祈禱するに、屹度功驗があつたと云

ひます。

當社に傳來する寶物は、決して少くなかつたの

ですが、永祿天正年間の兵火に罹つて、いくらも残つては居りません。たゞ

定水明神



永祿天正年間の兵火

大山祇神

祭神の御  
別名

吾田津姫  
命

木矛、青銅の古代矛、後宇多天皇、弘法大師などの扁額であります。

### 大山祇神社

(愛媛縣越智郡宮浦村大字宮浦鎮座)

當社の御祭神大山祇神は、實に皇室第二次の後

家で、薩摩國吾田國の君にて、天孫降臨の節に、

伊勢の猿田彦命と相談をして、皇孫は九州地方を

お治めになる事となりましたので、吾田に都を遷

して、遂に萬世一系の皇基を樹てられた御功績は、

實に大なるものであります。

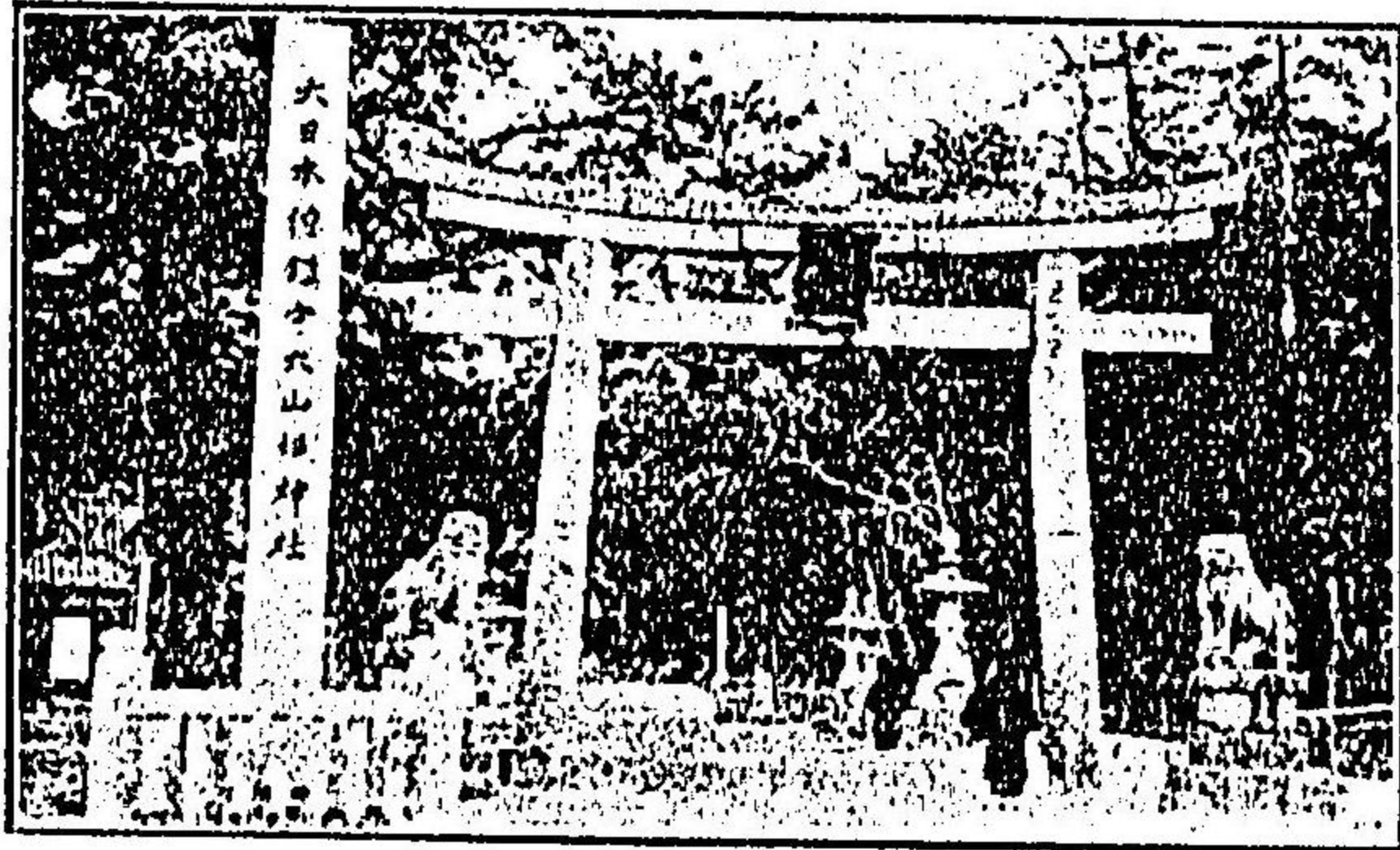
さて當社の祭神は、吾田國の山津を御監督なさ

れましたから、大山祇神と申すので、和多志大神

だの大水神だの、或は大水上神だのと、其御功績

によつて、種々の別名を有つて居らせられます。

天孫瓊杵尊の皇妃和田津姫命別名木花咲耶姫命は、實に大山祇神の御息



大山祇神社 (國幣中社)



女で、天孫の御子彦穗々出見尊には、御祖父にましますので、大山祇御祖命とも大水上御祖命とも申し上げるのです。

当社をはじめ薩摩國の吾田國阿田郡阿田村に鎮座せられたのを神武天皇様が御遷都の時に、河内國百濟の阿田村にお祀りなされ、崇神天皇様の朝に、攝津國島下郡三島村に移され、仁徳天皇様の時に、此の神の遠裔に當る伊豫越智の國造の祖、吾田乎致命が、伊豫國に下つて、越智島の瀬戸村に移し祭つたのが今の當社の起源であります。

一體當御祭神は、武を以て國を樹て、海外貿易と農業とを御獎勵遊ばされ、従つて武神としても海神としても、又農神としても、夫れく大功績を立てさせられ、其御事蹟は、歴史上にも少なからず残つて居ます。

### 土佐神社

(高知縣土佐郡一宮 村大字一宮鎮座)

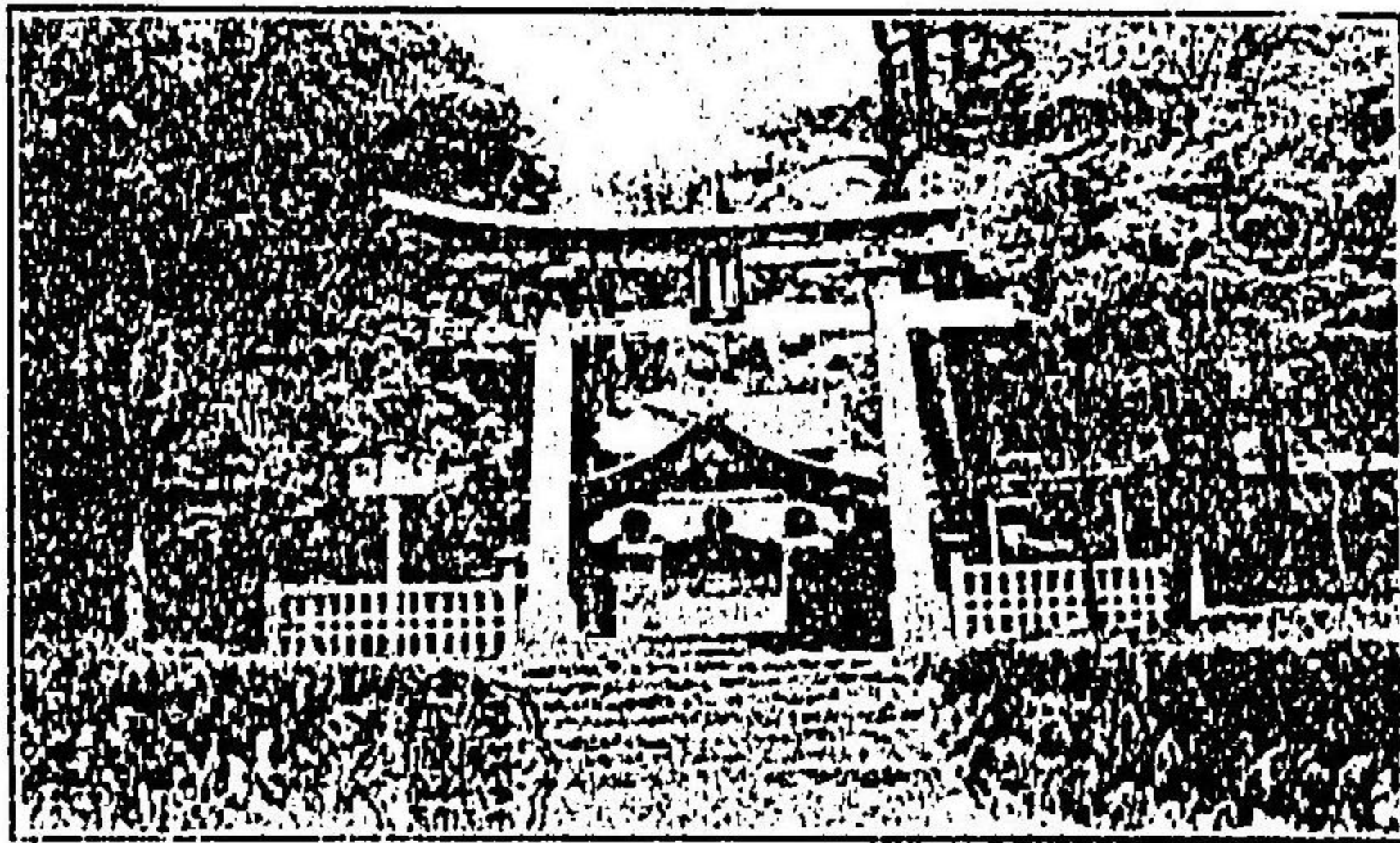
當社は本國の一の宮で、祭神は大國主命の第一子、味耜高彥根大神、亦の御名を一言主大神と申し上げます、さても大神は、御父君を輔けて、國土經

味耜高彥根大神

當社の起源

志那彌祭

高良玉垂命



營の上に大功を樹てさせられた方で、歴代の天皇は申すに及ばず、武將の崇敬殊に厚く、延喜の朝には式内大社に列し、明治四年國幣中社となりました。

當社の祭典は、八月二十五日に例祭を行ひ、續いて志那彌祭と云ふを施行しますが、其式は當年の新穀を獻じ、全く古式によつて行ふので、此の日の神事は、天平寶字三年に始まり、御船遊びと云つて、高岡郡鳴無神社へ渡御せられ、御還幸は夜になつたので、供奉の人は松明を捧げて従ひました。されば今も其遺風があつて、その祭禮の時には數萬の老若男女共が、手にく松明ふりかざして練り行く様は、實に見事なものであります。

### 高良神社

(高知縣三井郡御井町字高良山鎮座)

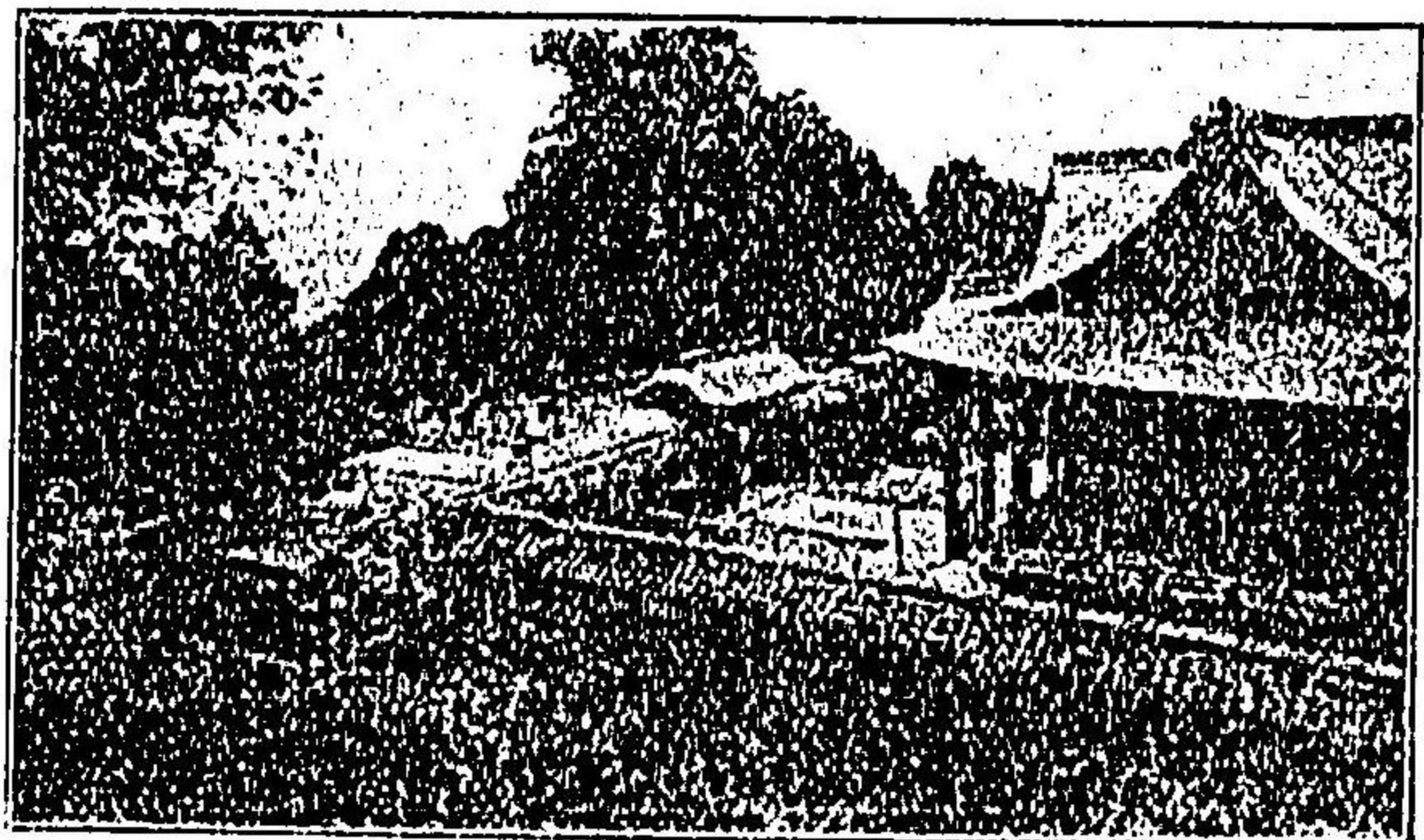
當社の祭神は、高良玉垂命で、履仲天皇様の御世に、はじめて筑後國高良

高良神社(國幣中社)

山に鎮座し奉つたのであります。されば玉垂宮とも、又高良明神とも申し、左右には八幡、住吉の二神を祭ります。

高良御子社

境内末社



西寒多山

皇后が三韓を平定して、

又境内にある攝社高良御子社は、高良玉垂命の御子九柱で、ひかしは九社に分たれて居ましたが、高今は一社に合祀されてあります。境内末社には、綿津見神を祭る風浪社、八幡宮、霧島神宮等の五社を合祀する五所神社、壹岐真根子神を祀る真根神社、大山咋命を祀る日吉神社、高良神社の印輪を祭る印輪神社等があります。

### 西寒多神社

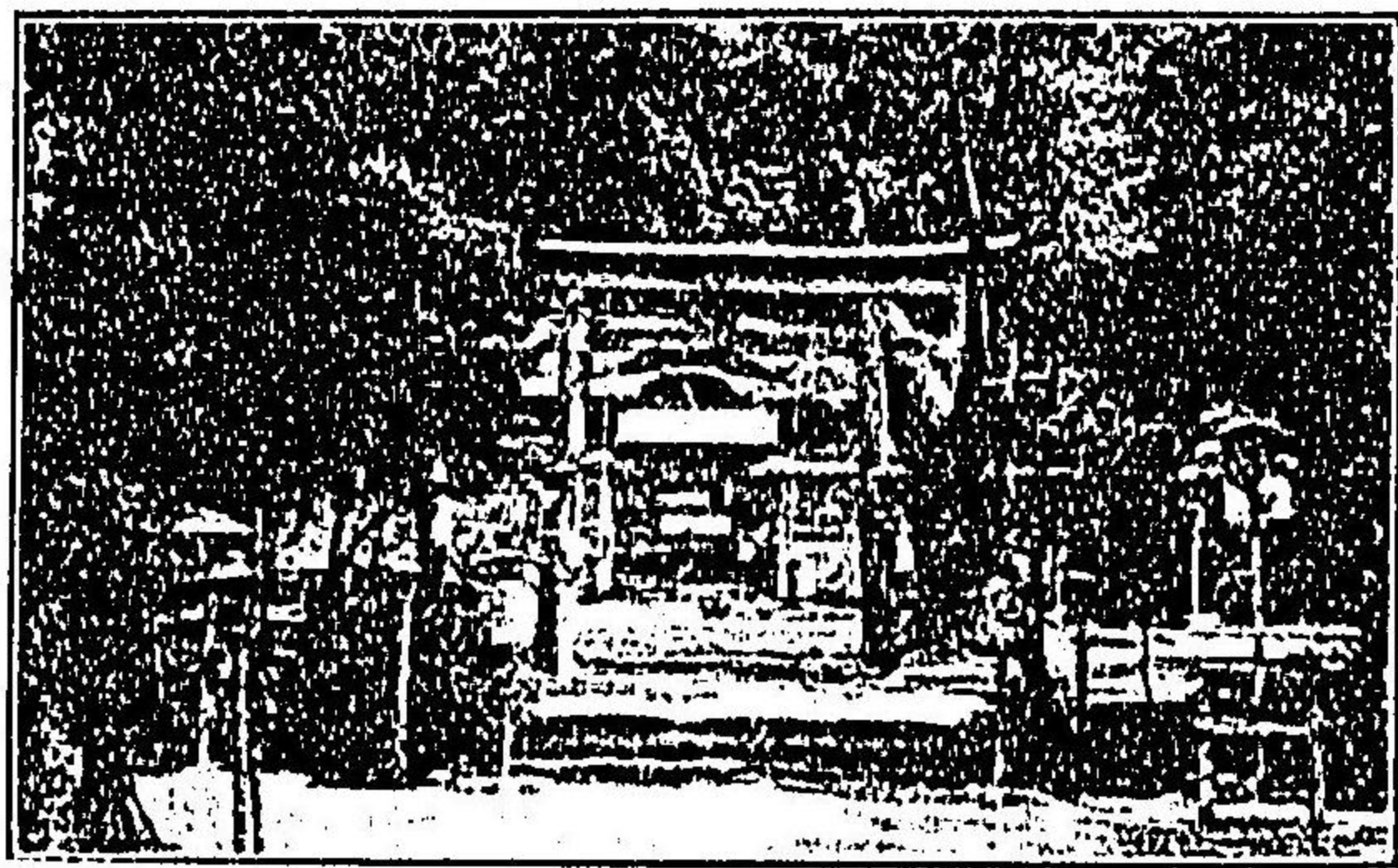
(大分縣大分郡東植田村大字寒田鎮座)

當社は豊後國の一の宮で、祭神は都合三座社號を西寒多と云ふは、神功皇后様の二年冬十月に、御凱旋の砌に、西寒多山に行幸遊ばされて、國土の

有様を御覽になり、其證として、一本の白旗を立て、お置きなされました。

應神天皇

三座の神



所が其後に、土地の者が、之を敬ひ、白旗の周圍に離垣を結び、厚く皇威を尊崇し奉つたので、夫れより後病氣に罹つた者が、此の山に上つて願を立てると、忽ち平癒すると云ひ傳へて居ります。かくて人皇十六代の帝、應神天皇様の御代に、當社の宮殿造立のことあるを聞き召され、武内宿禰に勅を下され、豊後國に下向して、如法の宮殿を建立し、三座の神を御鎮座おらせられました。即ち正面は天照大神、左の相殿は月讀尊、右の相殿は天忍穗耳尊であります。

と賜はり、靈験いよく著しくして、二千餘年の後、即ち明治の御代には、國幣中社に列せられました。

西寒多神社(國幣中社)

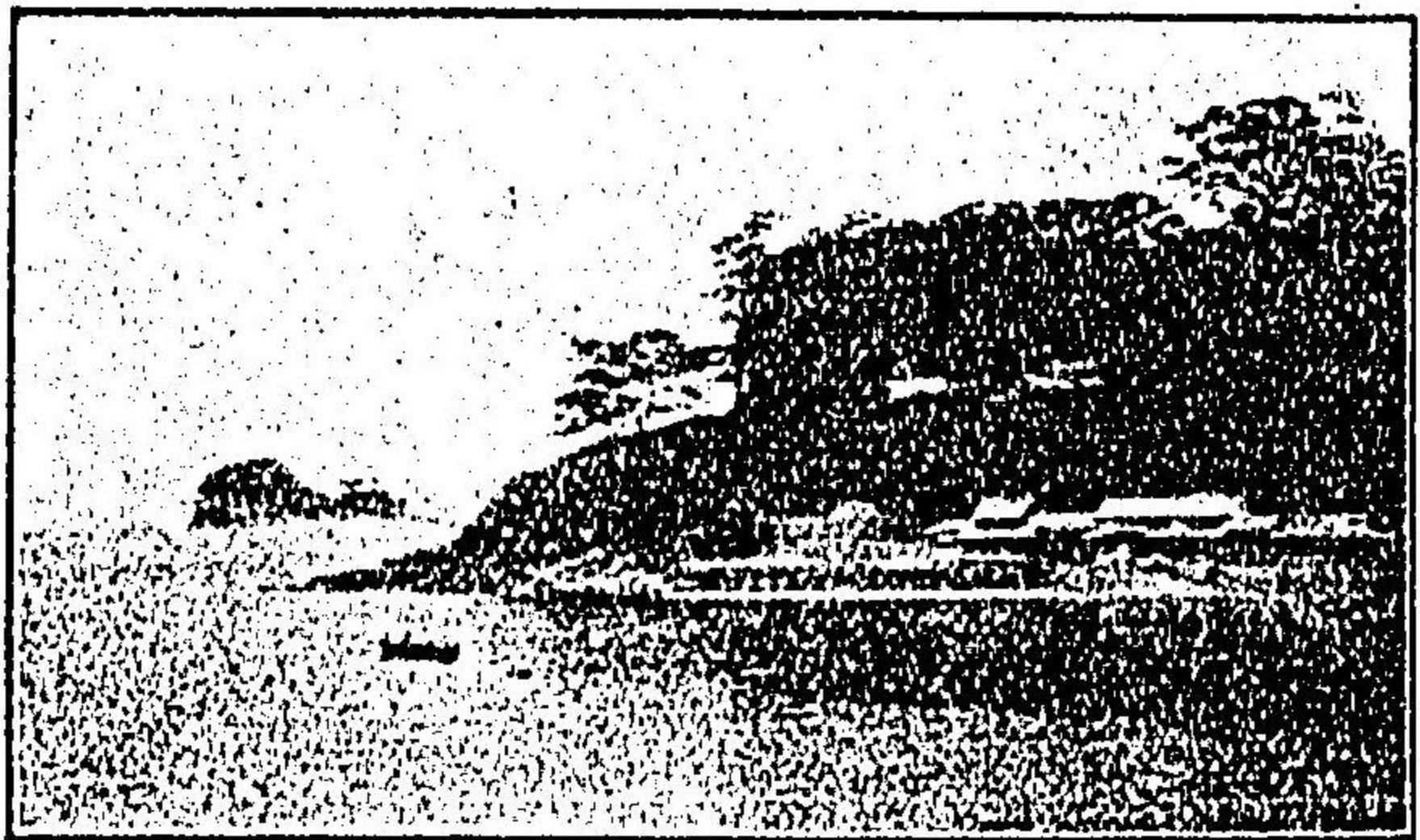
### 田島神社

(佐賀縣東松浦郡呼子村大字加部島鎮座)

三柱の祭神

姫神島

異國降伏



島田島神社と呼び、四年社格改定後は、單に田島神社と呼びます。

當社の祭神は、多紀理毘賣命、市杵島比賣命、多岐都比賣神の三柱で、相殿は大山祇命、稚武王命の二柱を祀ります。一體此の加部島は、神代のむかし、諸冊二尊の生まれられた貴い島で、かの三柱の神は、神代のむかしより御鎮座ましますので、姫神島、又は日女島とも呼び、周回三里餘り、土地凹み、丘陵相圍み、樹木茂りて清泉湧き、海には漁獲、田畑には穀物穰り、百五十餘戸の島民は、豊かな生活をして居ります。

又當社の祭神は、異國降伏のために、西北に向つて御鎮座あらせられます。明治以前までは、姫島田島神社と呼び、四年社格改定後は、單に田島神社と呼びます。

### 住吉神社

(長崎縣佐賀郡那賀村大字住吉鎮座)

底筒男神  
中筒男神  
表筒男神

橋の小戸

神託

本社の祭神は、底筒男神、中筒男神、表筒男神の三柱で、相殿には八千弋神がお祀りしてあります。此の住吉三柱の大神は、伊弉諾大神が、筑紫日向の橋の小戸で、御身の祓ひをなされた時に、お生れ遊ばされた大神で、仲哀天皇様が、熊襲御親征のために、筑前國香椎宮にお下りなされた折、住吉大神は、神功皇后様に託宣があつて、『熊襲は御征伐なさらぬでもよろしい、西の方に寶の國があつて、新羅と云ひます。此の國には金銀をはじめとして、目も眩むばかりの珍寶があります。故に先づ吾神を祀りて、後かの國を御征伐なされましたら、及に血ぬらで、新羅は必ず降伏するでありませうと。けれども仲哀天皇様は、此の神託を御信用なさらないので、間もなく香椎宮にお崩れになつてしまひました。

そこで皇后様は、大臣武内宿禰と御相談をなされて、文武百官に勅し、國の大祓を行はせて、新たに神教をお聞きになりますと、其御託宣は此の前の

住吉神社(國幣中社)

八千戈神

時と同じでありました。さて皇后様は、天神地祇を祀り、又住吉大神を御船の上に祀り、目出度新羅へ渡らせられ、彼の國を降伏させて、御凱旋になりました。又和殿に鎮まります八千戈神は、又の御名を大國主神とも仰せられて、天神の御勅のままに、遍く國々を巡り、田畑の開墾やら、道路の修理やら、或は醫業の法を定めて、萬民の幸福を思はせられた、名高い神様であります。

### 海神社

(長崎縣上縣郡座 村大字坂鎮座)

豐玉姬

當社は對馬國の一の宮で、祭神は海神の娘なる豐玉姬であります。此の方は彦火々出見命の神妃となつて、龍宮からおいでになり、鷗鷺草葺不合尊をお生みになりました。即ち此の葺不合尊は、神武天皇様の御父君に渡らせられます。

代創建の年

當社の創建年月は詳かでありませんが、承和四年に授位の事が見え、又延喜式には、名神大社の内に列してある所を見れば、頗る古い由緒ある神社に

相違ありません。

### 金刀比羅宮

(香川縣仲多度郡琴平町琴平山鎮座)

大物主命

崇徳天皇

當社は有名なる象頭山の上に鎮座ましく、一に金毘羅權現とも云ひ、祭神は大物主命、崇徳天皇の二柱であります。元は金毘羅神を祀つた所でありました。

當社創建の年代は詳かではありません。傳ふる所によると、大寶元年十月に、一竿の旗が空中から飛んで来て、此の地に墜ちましたので、そこに

祠を建て、旗宮と呼んだのであります。かくて神驗次第に加はり、長保三年には、藤原



實秋が勅命を奉じて此の祠を拜し、本殿と拜殿とを建てたのが、本社の起りである云ひます。

藤原實秋

勅願所

降つて天正元年に再建せられ、寛永の頃國守生駒氏は祭田三百三十石を獻じ、寶曆十年には勅願所になりました。所が明治維新神佛混淆禁止の折に、改めて金刀比羅宮と呼び、尋で國幣神社に列せられました。

當社の境内には、神殿、拜殿、繪馬殿、參籠所、社務所がありまして、何れも近年の改築にかゝり、壯麗目を驚かすばかり、當社は特に諸國の船頭、水夫等の崇敬深く、其參拜人の多いことは、伊勢神宮に次ぐと云ひます、例祭は十月十日。

大洗磯前神社

(茨木縣東茨城郡磯前町鎮座)

大己貴命  
少彦名命  
五條天神

大洗磯前に鎮ります大明神は、大己貴命、少彦名命の二柱であります。天照大神の皇弟、素戔嗚命は、出雲國にお出ましになつて、稻田姫を妃とし、大己貴命を生ませられました。又少彦名命は、高皇產靈命の第二子にましまし、山城國五條松原に、五條天神と崇め祀られて居るのが、此の方であります。

神醫術の祖

大和三諸山

文德天皇

さて少彦名命は、日本醫術の祖神で、大己貴命と力を合せて、天下の經營をなされ、人類畜類の病氣を癒し、禁厭の法をはじめ、徳を萬民に垂れ給ふたので、萬世の後までも、皆其恩を蒙つて居る譯です。

或日大己貴命は、少彦名命に仰せらるゝには『吾等二人が造つた國は、最早や之で完全したらうか』と。すると少彦名命は『左様、完全した所もあるが、まだ不完全な所がないではない』と答へさせられました。

所が其後間もなく、少彦名命は常世國へお出ましになりましたので、大己貴命は御自身の幸魂を大和三諸山に祀つて、國土經營にお盡しなされ、後天孫の降臨と共に、此の國を擧げて、残らず獻上なさいました。

さても夫れより遙か後代の事でありませす。即ち文德天皇様の齊衡三年十二月に、常陸國から上言して、『鹿島郡大洗磯前に神があります。新たに降臨ましくしたので、其はじめは鹽焼く郡民共が、夜半に海上を見渡しますと、天にまで達する様な光輝がありました。翌日起きて見ると、海面に奇怪な二つの石が現はれて、高さ各一尺ばかり、之こそ神の造る所で、尋常の石ではな

さうです。其他二十餘の小石が、此の二つの大石の左右に在つて、恰も侍坐するかの様に見えます」と。

恰も此の時、或人に神託があつて、『我は之、大奈母知少比古奈命である、ひかし此の國を作り終つて、一度東海に行つたが、今や民を救ふために、更に飯つて來たのである』と、即ち此の時出現しました二個の奇石は、今も猶當社の神寶となつて居ります。

### 酒列磯前神社

(茨城県那珂郡平磯町鎮座)

當社は元兩部習合のために、酒列磯前藥師菩薩神社と云ひましたが、明治維新後今の名に改められたのです。祭神は大國主命を助けて、國土の經營に盡された少彦名命であります。

當社の起源は、文徳天皇様の齊衡三年十二月に、大己貴命と少彦名命とが大洗磯前に天降つて、御神教のあつた所から、こゝにお祀り申したので、天安元年八月官社に預り、十月藥師菩薩名神の號を奉り、延喜の制には名神大

二個の奇石

少彦名命

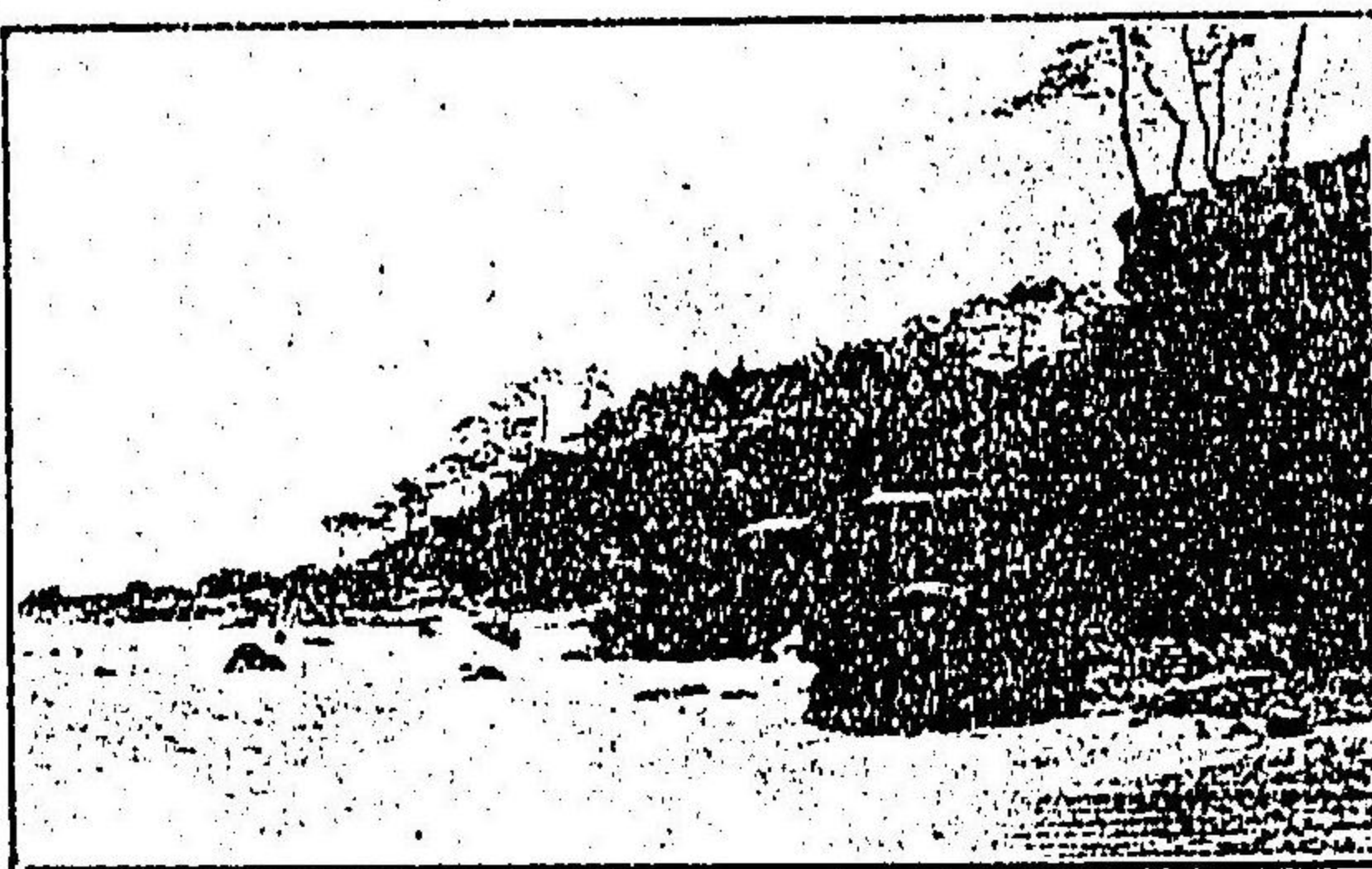
藥師菩薩  
明神

社に列せられ、神官磯前氏が世々其社務を掌りました。

### 美保神社

(島根縣八束郡美保町鎮座)

酒列磯前神社 下海岸茨城縣平磯町



當社に鎮座まします事代主大神は、杵築大社に爲ます大國主大神の御子で、八重事代主神、積羽八重言代主神とも呼び奉ります、實に天皇第一代神武天皇様の皇后に渡らせられる媛踏鞴五十鈴媛命の御兄にましく、第二代の綏靖天皇様の皇后五十鈴依姬命の御父君に當り、又第三代安寧天皇様の皇后、淳名底仲媛命の御祖父君に當らせられます。

されば當社の御祭神の尊くまします事は、今更記す迄もない事ですが、其御功績は非常なもので、神代のむかしに、皇祖天照大神様が、皇國の基をお立てなされた時、大國主神に勅使を派して、國讓り

事代主大神

神武天皇  
の皇后

國讓り

美保神社(國幣中社)

御父大國  
主神



りの事を申し越されましたが、大國主神は、特に御子の事代主神を、皇城の御主神として、天孫の命に仕へさせることとせられました。

美 さて事代主神が、此の美保關の神社において遊ばす譯は、御父大國主神の御許に、天照大神の勅使が來られた時、事代主神は恰も此地で獵をしていらつしやいました。父君の御心定つた上は、國譲りの事については、自分には何の異見もないと仰しやつて、其ま、御姿をお隠しになつたと云ふ故事から、こゝに其神靈を齋き奉つたのであります。

### 伊太祁曾神社

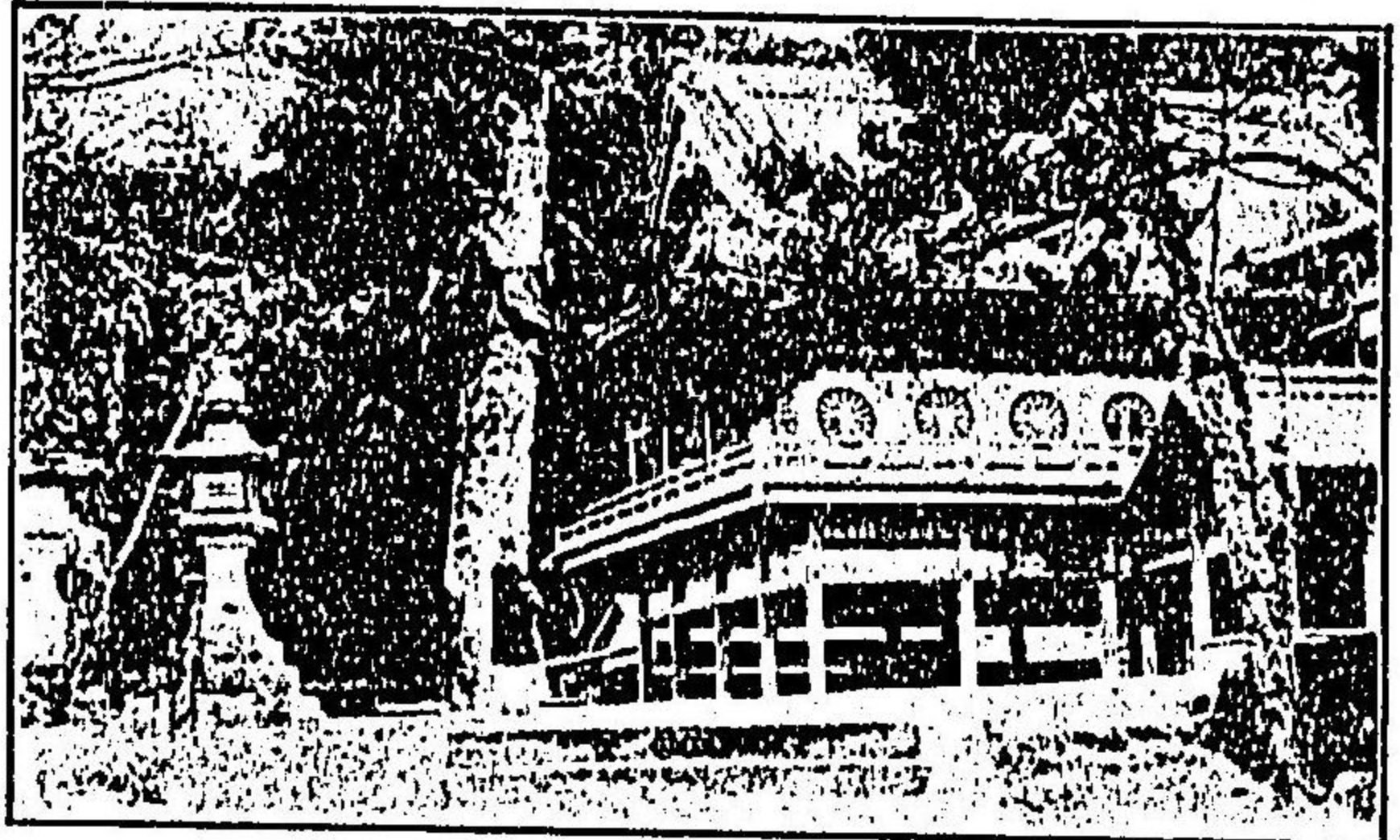
(和歌山縣海草郡西山東村大字伊太祁曾鎮座)

五十猛命

新羅の曾  
戸茂梨

日前國懸  
兩大神

當社の祭神は五十猛命、



伊太祁曾神社

又の御名大屋毘古神と申すので、御鎮座は和銅六年十月のこととあります。抑も五十猛命は、素盞鳴尊の御子で、新羅國の曾戸茂梨と云ふ所においてになりましたが、後にかの國から、樹木の苗木を持つて來て、日本全國の野にも山にもお栽ゑ遊ばされたので、其御神功の程は、一々記す迄もありません。

一體當社は、日前國懸兩大神の濱の宮から、今の地にお遷りになつたので、社記に和銅六年御鎮座と云ふのは、新たに御神殿の造營が出來て、ここにお遷り遊ばされたことを云つたのであります。

### 新田神社

(鹿兒島縣薩摩郡東水引村大字宮内鎮座)

新田神社 (國幣中社)

瓊々杵尊

新田宮

日本書物語 二五〇  
當社の所在地は、日向可愛の山陵の地で、むかし天孫瓊々杵尊が、日向の高千穂峯にお降りなされ、阿多の笠沙の碕を経て、此の千葉(今は川内)にお遷り遊ばされ、皇居を築いて天下を治め、遂に此の地でお崩れになりました。されば當社は、元新田宮と尊稱して、歴代天皇の御崇敬も厚かつたのです。祭神の御德行に就いては、明かに日本の歴史に残つて居ます。即ち高千穂峯に御降臨の後、國內の凶賊を退治して、百姓を撫育し、以て帝業の基を樹てさせられたなど、一々記すに遑なき程であります。

### 都々古別神社

(福島縣東白川郡津村大字八槻鎮座)

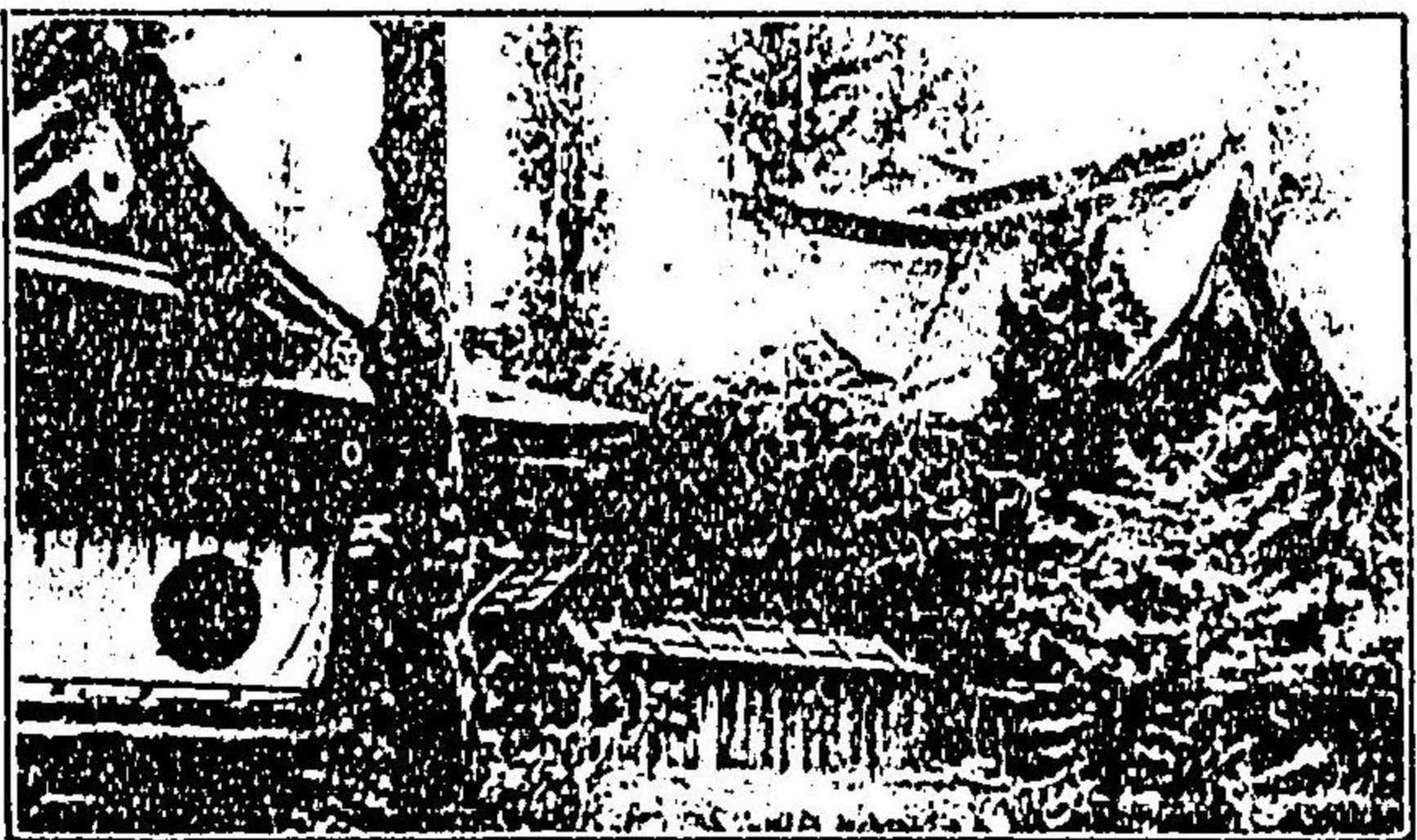
味耜高彥根命  
當社の祭神は、味耜高彥根命で、相殿には日本武尊が祀つてあります。上古の世、味耜高彥根命は、御父大國主神の御事業を輔け、盛んに土地を拓き、農業の道を教へ、百姓を撫育せられて、威徳を此の土に止めさせられたのです。されば人民は、命の靈徳に感じ、土徳の神と崇めてこゝに祀り、年々新穀

土徳の神

苞子別

土蜘蛛

を藁苞に包んで供へ、さて翌年の種子とする爲に、別に一苞を借受けて歸るのが例となつて居ました。これを苞子別と呼び、社名の起つた譯としてあります。



都々古別神社

又一説には、都々古とは土造の意で、高彥根神が上古の世に此の地に降り、土地を拓いて人民に耕作の法を授け、以て大國主神の御事業を助けられましたので、土人其徳を敬ひ、土造別の神と尊敬したのであるとも云ひます。此の神社に日本武尊を合祀したのは、むかし此の地に八個の土蜘蛛がおりまして、夫れ多く部の下を従へ、八所の石室に陣を構へ、勇を四方に振つて、更に朝命に服しませぬ。されば當國の國造盤城彦が敗走してからは、土

蜘蛛の勢ひいよく盛んに、百姓を苦しめますので、時の帝景行天皇様は、

都々古別神社(國幣中社)



大層御心配遊ばされて、皇子日本武尊を遣し、此の土蜘蛛共を退治させやうとなされました。

かくと聞いた土蜘蛛は、石室に隠れて巧みに官軍を防ぎ、隙間もなく矢を射かけますので、尊は一步もお進みになることが出来ません。そこで先づ天神地祇に祈りを上げさせられますと、忽ちかの味耜高彥根命が現れて、尊に力を添へられ、さしもの土蜘蛛も、見事に退治されましたから、土人はこゝに枕を高くして寝ることが出来ました。仍て勅命に従つて、尊の御靈を合祀することゝなつたのです。

### 函館八幡宮

(北海道函館市)

本社の祭神は譽田別尊、即ち應神天皇様であります。創立の由来は、文安二年に、當國龜田郡の城主河野加賀守政通が、此の地に城を築いて函館と呼び、其館の中に八幡宮を祀つて、家の守護神としました。後政通の子の秀通は、蝦夷と戦争をして、不幸にも討死してしまいました。

から、一族の者は八幡宮の神璽を奉じて、龜田郡赤川村に遷宮させ参らせられたのです。

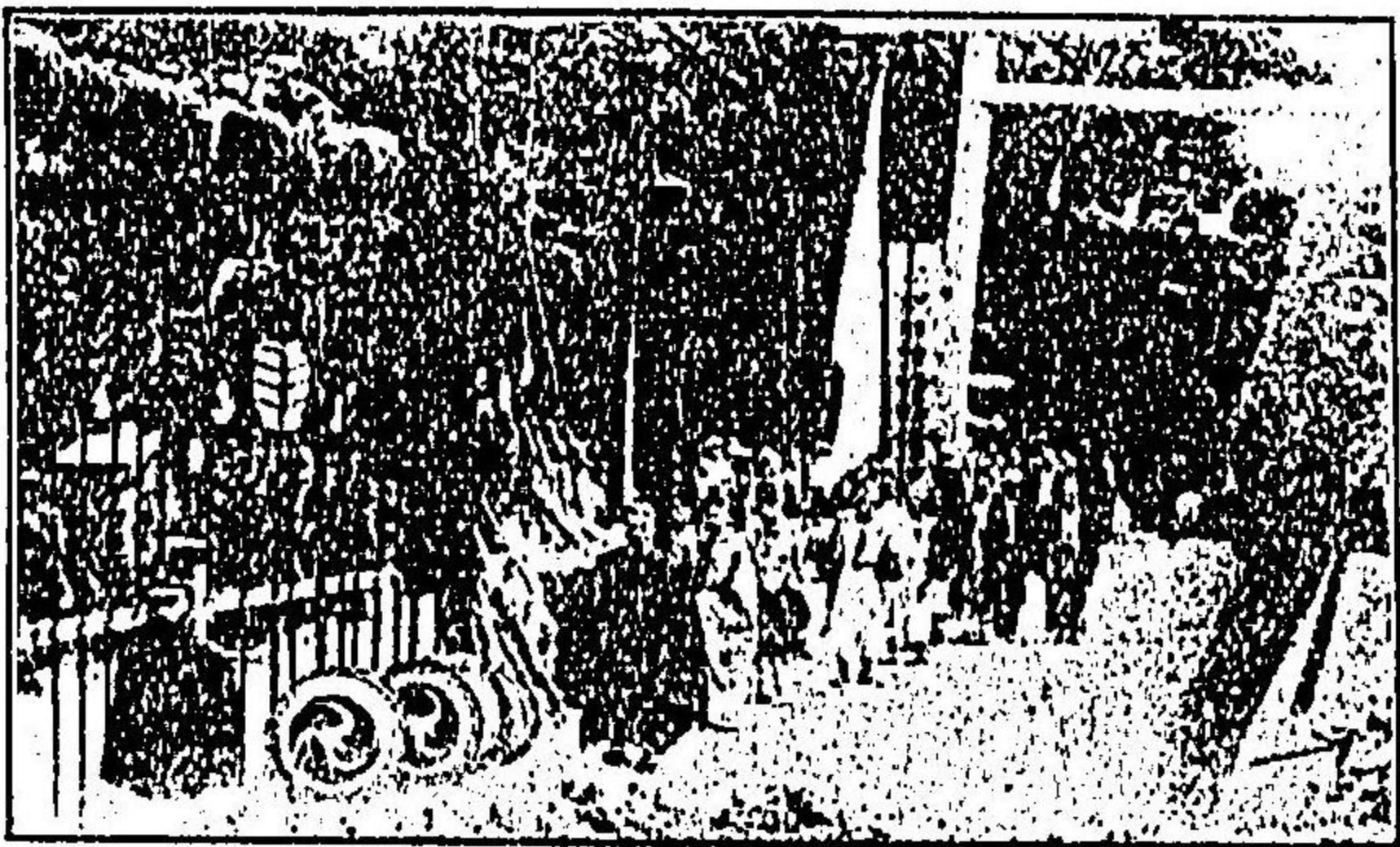
かくて慶安二年、河野が一族なる巫子伊知女は、神夢に感じて、舊御鎮座地なる函館元町に遷し、更に寛政十一年には、會所町に移し参り、函館奉行の祈願所として、又總鎮守として、厚く崇敬して居りました。

明治四年七月には、開拓使崇敬社と定められ、十四年九月、陛下御巡幸の際には、勅使を参向させられました、北邊鎮護の神として、道民の崇敬の念は、極めて厚いのであります。

### 生島足島神社

(信濃國小縣郡東鹽田村大字下ノ郷鎮座)

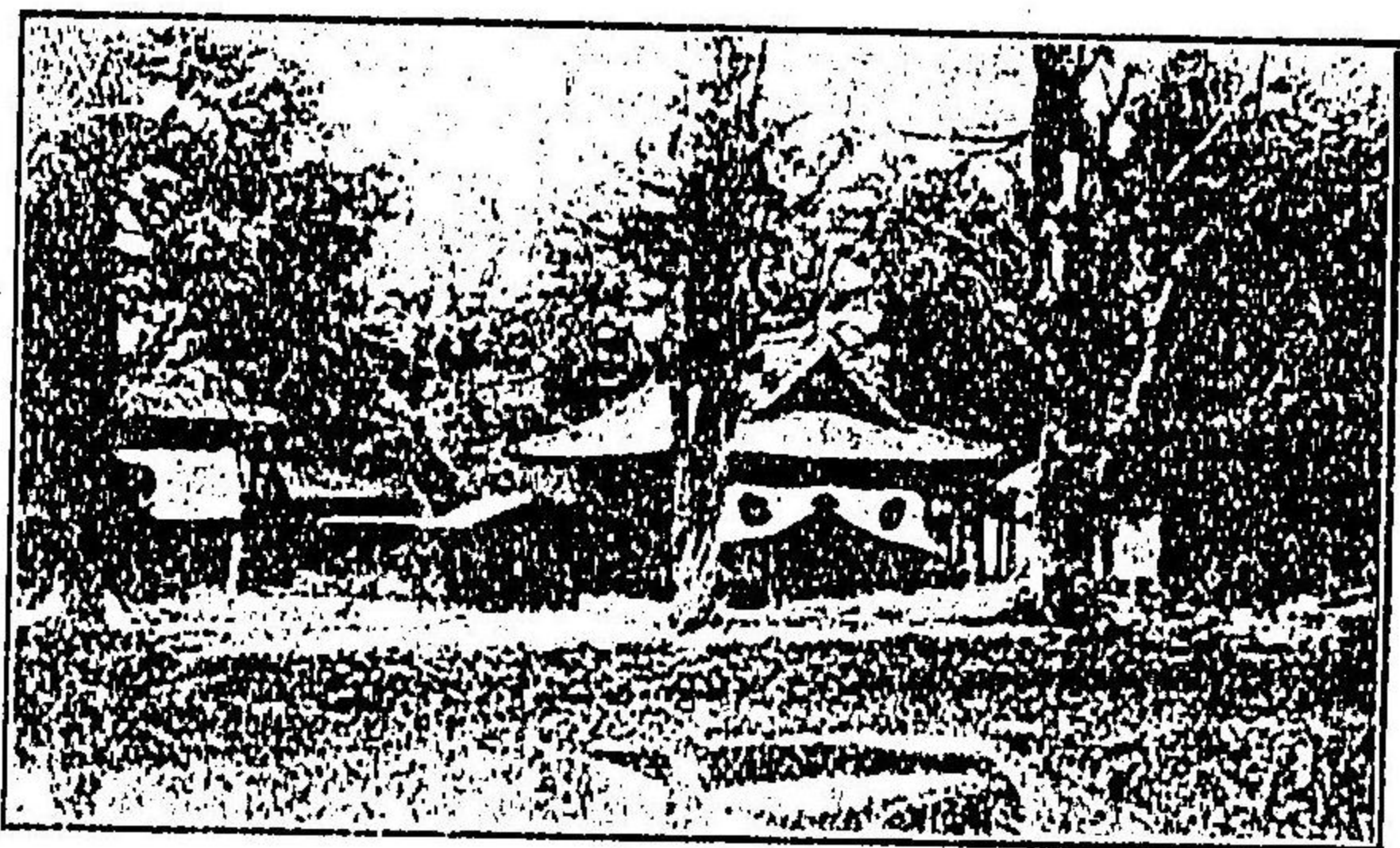
こゝに祭る生島大神と、足島大神との二柱は、一に生國魂神、足國魂神と



函館八幡宮例祭奉幣使ノ参向

東鹽田村

建御名方  
宮神



も申し上げて、大日本帝國の國の御魂の大神であります。さればむかし神祇官内の生島御巫が齋き祀つたと云ふ生島足島二座の大神こそは、即ちこれなので、宮廷に近く守り神としてお祀りになつたものと見えます。

社 神 島 足 島 生  
さて、信濃國小縣郡東鹽田村の御鎮座地は、恰も大日本の中央として、真によき地でありますから、尊き神威を四方の國々にお示しになるにも便利であります、されば神代のむかしに、建御名方富神が、諏訪の地にお降りなされて、暫く此の地に止まり、此の二柱の神を祭り、御自身に粥を煮て、献上なされましたが、其故事を守つて、今も猶御移神事と云つて、毎年十一月三日の夜に、攝社諏訪の大神の御靈をば、南の本殿に移し參らせ、其夜より翌年の四月十三日まで、毎夜粥を獻る神事があります。尤も中世以

御魂の神

桓武天皇

來は、七日の夜毎に供へることとなりました。何と申しましても、此の二柱の神々は、日本帝國の御魂の大神ですから、神武天皇様が御即位の後にも此の大神を祀らせられ、仁徳天皇様が難波津に皇居をお定めになつた時も、又桓武天皇様の御遷都の時にも、此の二柱の大神を齋き祀らせられたので、今の大坂に生國魂神社のあるは其故です。されば明治二年今上天皇陛下が、神祇官に於て、天神地祇列聖の御神靈を御親ら祀らせられた時も、其天神地祇の中へ、此の二柱の大神を加へさせられたのであります。

# 國幣小社之部

## 砥鹿神社

(愛知縣寶飯郡一宮 村大字一宮鎮座)

大己貴神

但馬風土記

内大臣家康公

當社の祭神は大己貴命で、神代のむかしには、今の本宮の山上なる奥宮に御鎮座遊ばされましたが、いつの頃のことですか、御神託がありました、今の本社が創建せられたのであります。尤も但馬風土記には、上古大穴持少彦名の二神が、田道間州に入り、遂に東の方三河國に向ふと記されわりますから、多分此の地に天降らせられたものでありませう。

當社の事績に就いては、鹽尻や文徳實録や、三代實録や延喜式などの、種の古書に記されてありますが、徳川時代になつてから、即ち慶長七年六月十六日に、内大臣家康公より、御朱印百名を本社へ賜はり、翌八年八月には、征夷大將軍家康公の名を以て、御朱印二十石を奥宮へ寄附せられ、其後代々の將軍は、先規の通り寄附されることゝなつて居りました。

吉田の領主

猶徳川時代には、當國吉田の領主が、例祭毎に代官を代拜させ、雨乞等の臨時の祈願には、領主自身が参向する例となつて居たのです。そして當社は

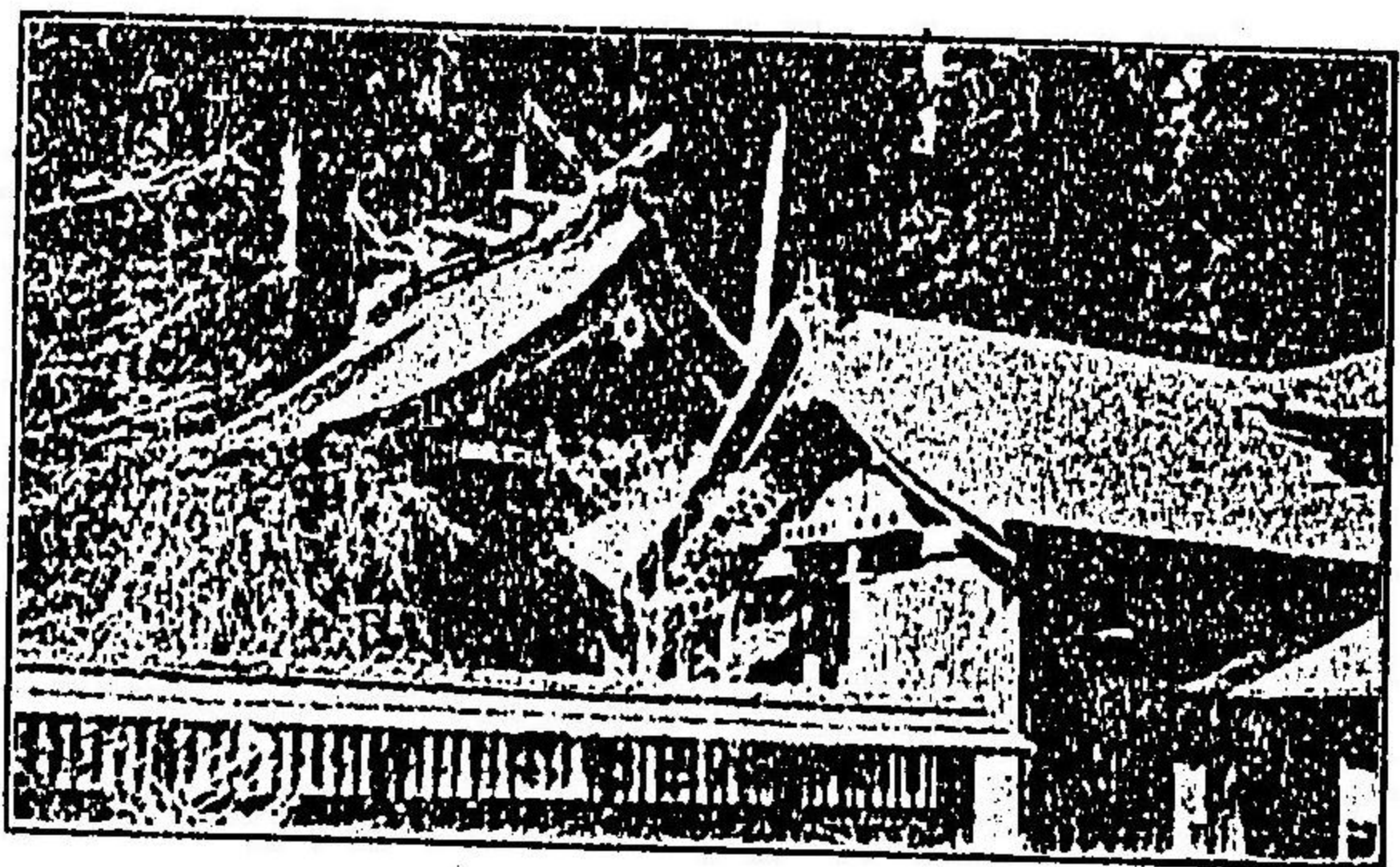
明治四年五月十四日に、國幣小社に列せられました。

## 小國神社

(靜岡縣周智郡二宮村五川鎮座)

東海道袋井驛に近く、今も鎮座ある小國神社は千三百年前の創建にかゝる古祠で、祭神は大己貴命であります。此の神の御事蹟は、前にも既に出社て居りますから、茲にはわざと省きませう。

さて當社の起源は、欽明天皇様の御代十六年二月、一宮山の本宮峯に、神靈が御出現になりまして、こゝにお祀りしたのを、後奇瑞あつて、其事天聰に達し、勅使を下して本宮峯の麓一里ばかりの地に、社殿を營んで祀つ



小國神社 (國幣小社)

大己貴神

欽明天皇

文武天皇

たのが、即ち今の社地であります。其後年々奉幣使の絶ゆることなく、文武天皇様の大寶元年には、特に十二段の舞樂を獻ぜられましたが、之から例となつて、毎年大祭の折りに舞臺を奏することゝなつて居ました。

出雲造

當社の社殿は、一宮村の北端にあつて、宮川に沿ふて橋を渡ると、其所に一の鳥居があり、夫れより六町を距て、拔橋を渡ると、間もなく境内で、總門を入り下馬橋を渡り、二の鳥居を過ぎると、左に神池があります。又當社の本殿は、出雲造と云ふ古風な式で、周圍の透塀長さ八十間に餘ります。併し當社は、去る明治十五年炎上して、社殿残らず焼失し、今は其後の造營にかゝるものであります。

### 水無神社

(岐阜縣大野郡宮村大字宮鎮座)

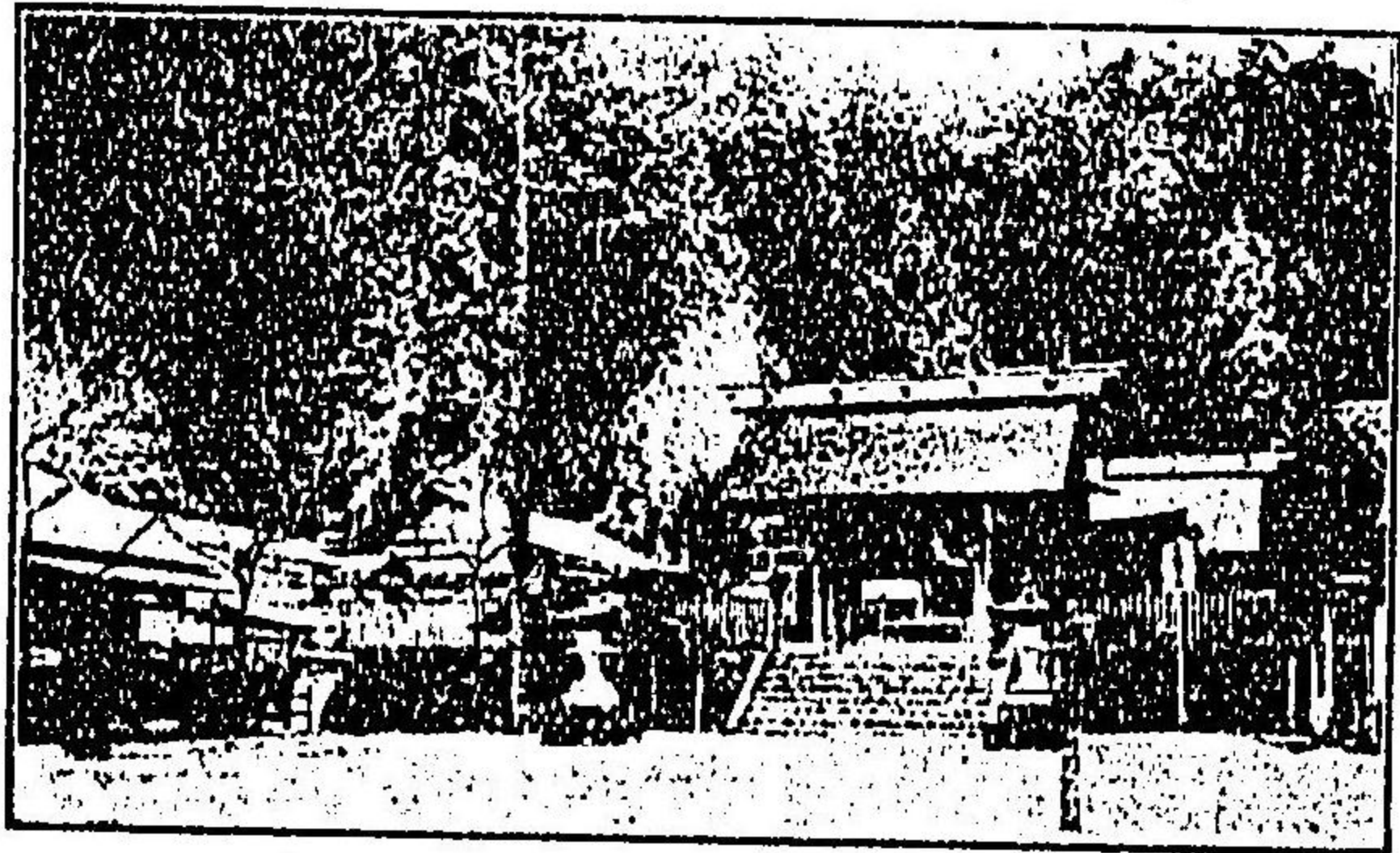
御年神

當社の祭神は御年神で、明治四年國幣小社に列せられました。御鎮座の年代は、第十代崇神天皇様の御代に、天社國社神戶神地等をお定めになつた時であらうとも云ひ、又或説には、聖武天皇様の御代に、毎國一社宛の一宮を

久々野郷宮村

水無川

神通川



お選みなされた時、はじめて出来たとも云ひますが、多分崇神天皇様のお定めになつた天社を、聖武天皇様の御代になつて、一宮となされたのでありませう。

當社の所在地は、久々野郷宮村にあります。清らかな宮川の流れば、當社の前に来て、碇の底を潜り、更に下流に湧き出すので、其縁故によつて、土地の古名をみなしとも云ひ、或は一宮とも、亦單に宮とも呼びましたが、今は宮村と云ひます。猶又久々野の郷名も、潛の轉訛に過ぎません。

宮川は別の名を水無川とも云ひまして、川上嶽位山等の谿谷に源を發し、北に流れて越中に入り、神通川となります。此の川の流れば、前記で如く、當社の前で地に潜り、幅二町凡十五町の長さは、河原となつて一滴の水も見えませんが、覆河原だの鬼が河原だのと云ひま

水無神社(國幣小社)

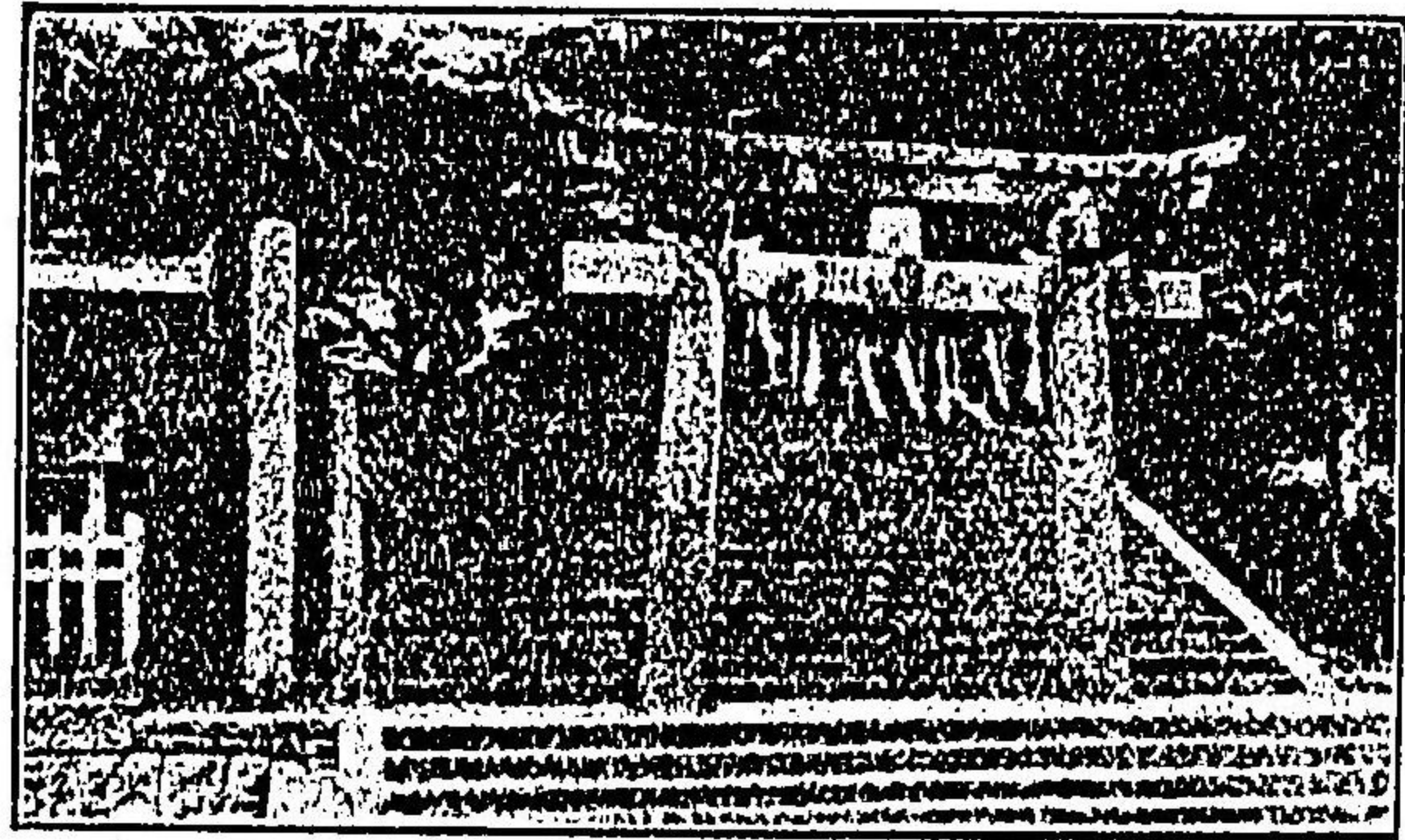
す。当社々名の水無神社も、こゝから起つたもので御座います。

五穀の主  
護神

景行天皇

駒形山

水澤町上  
野原



### 駒形神社

(慶手縣鹽瀨郡水澤町大字鹽瀨鎮座)

當社の祭神駒形神は、五穀の守護神として名高く、早魃の時には雨を祈り、霖雨の時には晴を祈り、常には牛馬の繁殖を祈るに、何れも功驗があるものであります。

當社の創立は、景行天皇様の四十年に、日本武尊が東夷御征伐の折り、國土安寧のために、特に此の地に勸請したのださうです。尤も當社は、始め西根村の駒形山の上にありましたが、此の山は道が險しいばかりでなく、冬は積雪道を没して、容易に參詣することが出来ませんでした。そこで明治五年、國幣小社に御治定後は、水澤町の上野原に遙拜所を設けて、すべての祭祀を其所で執行しま

したが、明治三十六年一月、こゝを改めて本社とし、山上の社殿を奥の宮と呼ぶことゝなりました。

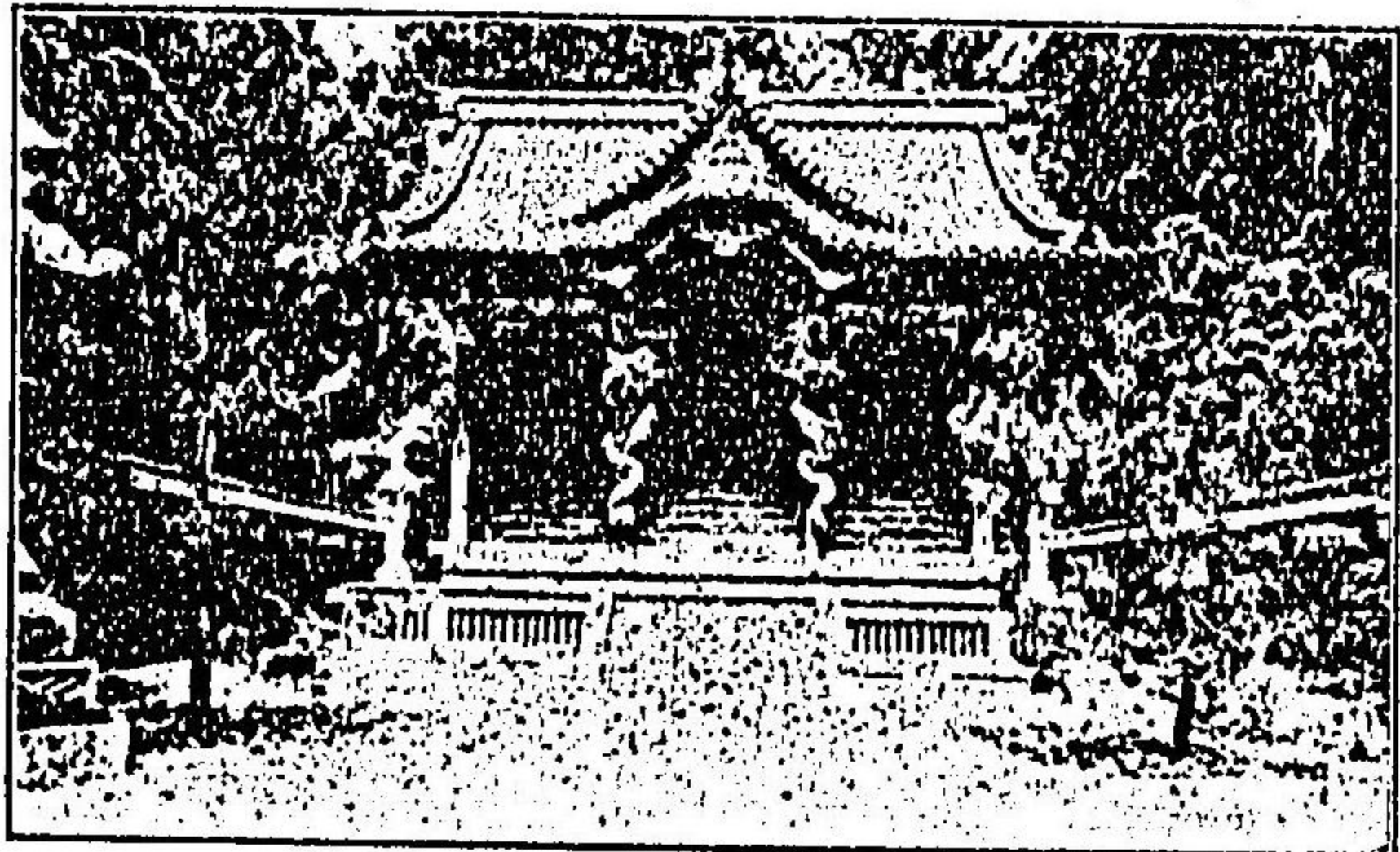
仙臺盛岡  
兩藩主

當社は古來一般人民の信仰の厚かつたことは云ふまでもなく、仙臺盛岡兩藩主の崇敬殊の外厚く社殿の如きも右兩家に於て、二十一年目毎に造營することゝなつて居たのです。

### 岩木山神社

(青森縣中津輕郡岩木村大字百澤鎮座)

神代のみかし、照國魂大神が、大八洲國を御經社營なさいまして、此の岩木山にも威靈をお留めになり、山の惡神共を平けて、人民の爲めにお盡し下されましたので、今より千百餘年の前、即ち光仁天皇の寶龜十一年と云ふに、神代の遺蹟に基いて、はじめて社殿を建てたのですが、更に桓武天皇の御代に、征夷大將軍坂



岩木神社(國幣小社)

坂上田村

日本お宮物語

二六二

上田村應は、岩木山の神徳によりて、首尾よく東夷を平げましたので、將軍の父菊田麿の靈をも、併せてこゝに祀られました。

本社の祭神は、すべて五柱におはし、其内でも多都々姫神は、水利のことを司り、大山祇神は山を守り、宇賀能賣神は五穀のことを掌つていらつしやいます。又菊田麿公は、東夷平定に功を樹てられ、主神顯國魂大神は、別の御名を大國主神、大己貴神、大物主神など、仰せられて、天孫降臨の前まで、日本國を御支配なされ、國を譲つて後も、國家の守神とならせられた、神徳宏大の神様であります。又本社のお宮苑には、嶽神圓、赤倉、胎内潛、龍馬場、姥石、風穴など、種々の名所が御座います。

宮苑の名所

### 出羽神社

(山形縣東田川郡手向村地内羽黒山鎮座)

當社は羽黒權現、又は羽黒三所權現など、も云ひ、延喜式には伊弉波神社と記されてあります。祭神は伊弉波神でありますが、維新前、神佛混淆の時は、神體玉依姬命、佛體は彌陀、大日、觀音の三體であつたと云ひます。

伊弉波神

起源の二説

其起源に就いても、出羽風土略記には、景行天皇様の二十一年とあります、羽黒縁起には、崇神天皇様の御子能除が、はじめて羽黒の三山を開き、推古天皇様の元年に、當社を創建した様に記されてありますが、何れも詳かではありませぬ。

### 湯殿山神社

(山形縣東田川郡東村地内湯殿山上鎮座)

當社に齋祀する大神は、大己貴命、少彦名命、大山祇命の三柱であります。大己貴命と少彦名命とは、共に力を合せて、此の國の經營をなし給ひ、少彦名命が常世の國にお出ましになつてからは、己の幸魂奇魂を三諸山に祀つて、一入國土の經營に盡されました。

大己貴命  
少彦名命  
大山祇命

又大山祇命は、大水上神とも申して、河原を掌り給ふので、當山の深山幽谷に鎮り、川の流れを掌りて、數萬丁の田地を守り、炎天には雨を降らし雲を起して、田畑を潤し給ふので、年々數萬の諸民群參して、當社の神徳を仰ぐのであります。

湯殿山神社(國幣小社)

二六三

### 古四王神社

(秋田縣南秋田郡寺内村寺内鎮座)

大彦命

武甕槌神

阿部比羅夫

越王

當社は崇神天皇様の御宇に、四道將軍の一人なる、皇叔大彦命が、當地へ御下向の時に、高清水岡を險要の地であると思召され、こゝに武道の祖神たる、武甕槌神をお祀りになつたのが、取りも直さず當社の起源であります。夫れより後齊明天皇様の朝に、阿部比羅夫と云ふ勇將が、蝦夷征伐に向つた時、矢張り此の地に来て、其祖大彦命の功業を思ひ、此の神社に配祀されました。かくて後社名を、古四王社と呼んだので、蓋し古四とは、越の假名で、大彦命の越の國をよく治め給ひ、遂に越王と崇め奉つたからであります。後延暦年間に、坂上田村麿が、深く當社を崇め奉り、社殿を再興しました。が、更に弘安年中には、鎌倉の惟康將軍が、社殿營繕をしてから、代々の武將崇敬一方ならず或は神殿を寄附し、或は社殿を造營して、武運長久を祈りました。が、明治維新後には、國幣小社に列せられて、今日に至り、神威いよいよ顯著であります。

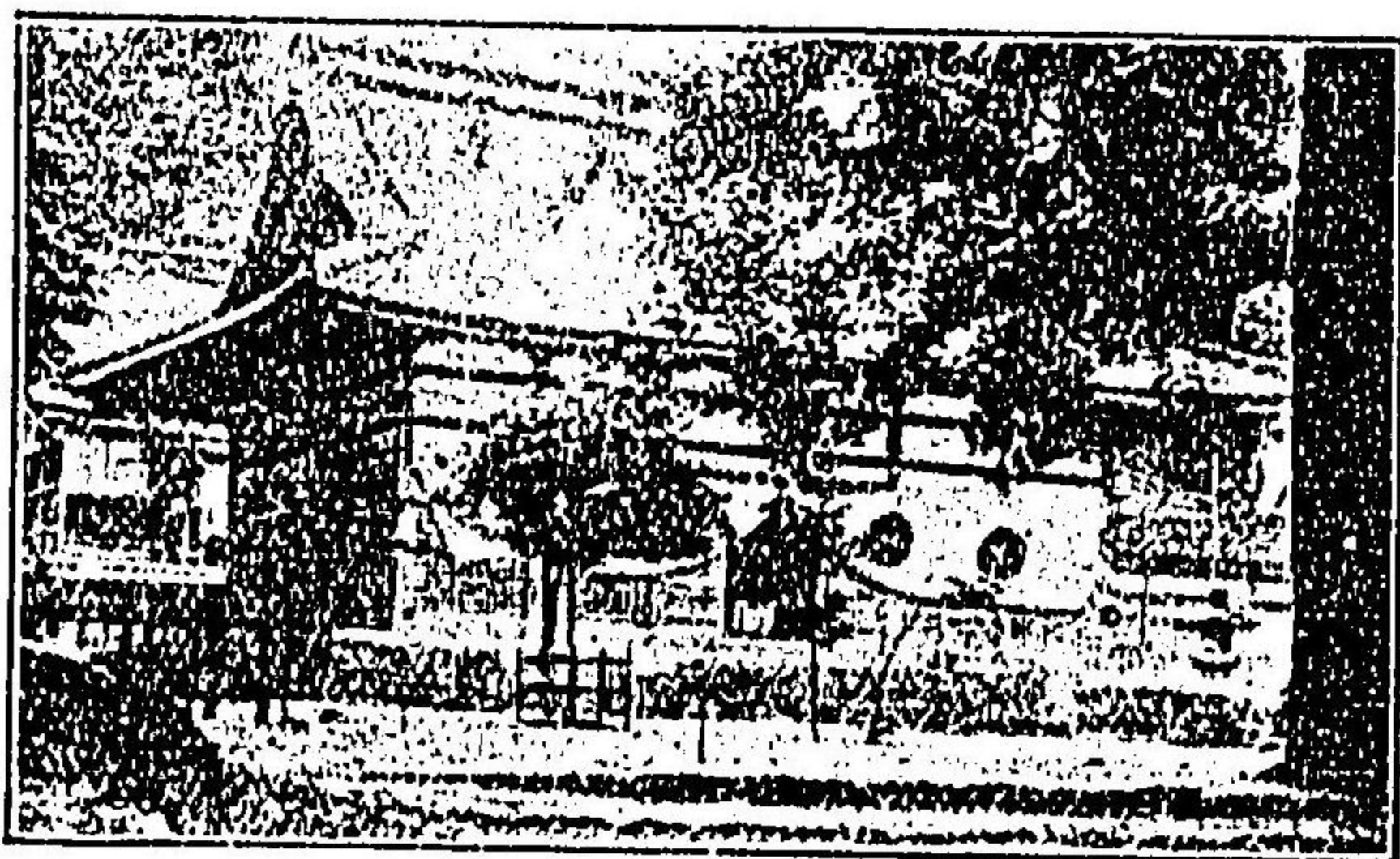
### 白山比咩神社

(石川縣石川郡河内村宇三宮鎮座)

三座の祭神

崇神天皇

元正天皇



白山比咩神社

當社の祭神はすべて、三座で、中は菊理媛神、左は伊弉諾尊、右は伊弉册尊です。中に座す菊理媛神は、伊弉諾伊弉册二神の中に立て、其御心を和めさせられた神様で、伊弉諾伊弉册二柱の神様が、國土萬物をお育てなされた事は、誰知らぬ者もありません。さて當社鎮座のはじめは、崇神天皇様の七年十一月のこと、鎮座地も其頃は、船岡山でありました。が、後に西南の地なる安久濤の杜に遷され、更に元正天皇様の靈龜二年に、はじめて今の三宮に御遷座なされたのであります。むかしから當國に御遷座なされたのであります。むかしから當國の一の宮として、皇室の崇敬も厚く、明治四年國幣小社に列ねられたのです。

白山比咩神社(國幣小社)

白山

大汝ヶ嶽

別山

僧泰澄

又當國能美郡白山嶺上の神社には、當社の分靈を祀り、絶頂にある大御前と云ふのが夫れです。猶北の大汝ヶ嶽には、大己貴命を祀つてありますが、此の神様の御功績は、茲に事新しく記す迄もありません。南の方の別山と云ふ山の峯には、大山祇神を祀るので、之は専ら山を宰る神様です。此の三社の鎮座は、ひかし越前國麻生津の人で、僧の泰澄と云ふ者が、白山比咩神社に祈願して、靈夢に感じ、山に登つて、元正天皇様の養老三年に、三社を建立して白山と名付けました。

後明治十年十月に、朝廷より當社の奥宮と定められ、毎年比咩神社から神職が出張して、七月十八日開山の祭を営み、九月十八日に閉山の祭を行ひますが、元來白山は、海拔八千九百尺の高峯で、景色もよく、奇鳥も棲み、麓には温泉もありますから、毎年夏期になると、わざわざ遠方から旅装を凝らして、登山を試みる者も少くありません。

### 度津神社

(新潟縣佐波郡羽茂村大字飯岡鎮座)

五十猛命

大屋津姫

竹戸茂梨

本社は當國の一の宮で、素戔嗚尊の御子大己貴命の兄君五十猛神を祀ります。五十猛神は、又の御名を大屋彦神とも申して、神妃大屋津姫、大屋津姫の二柱をも合祀されてあります。

神代紀に依れば、素戔嗚尊は、其子の五十猛神を、新羅國の竹戸茂梨と云ふ所へお遣しになり、主として韓國の鎮護となされました。五十猛神が御降臨ましくした時には、種々の樹苗を携へられました。韓國には一つも栽ゑないで、悉くお持ち帰り遊ばされ、さて筑紫より始めて、日本全國残る所もなくお植ゑなされましたので、忽ち野も山も青々と茂り、宮殿を造るにも、舟車の類を製造するにも、大層都合よくなり、人民は衣食住に安んずることが出来ました。そこで此の神を尊んで、有功之神と稱へたのです。

次に當社を度津神社と云ふのは、素戔嗚尊が、浮寶船のことの御神功を賞し遊ばされたからで、即ち五十猛神は、航海の事にも、大功を樹てさせられたのであります。

有功之神  
浮寶



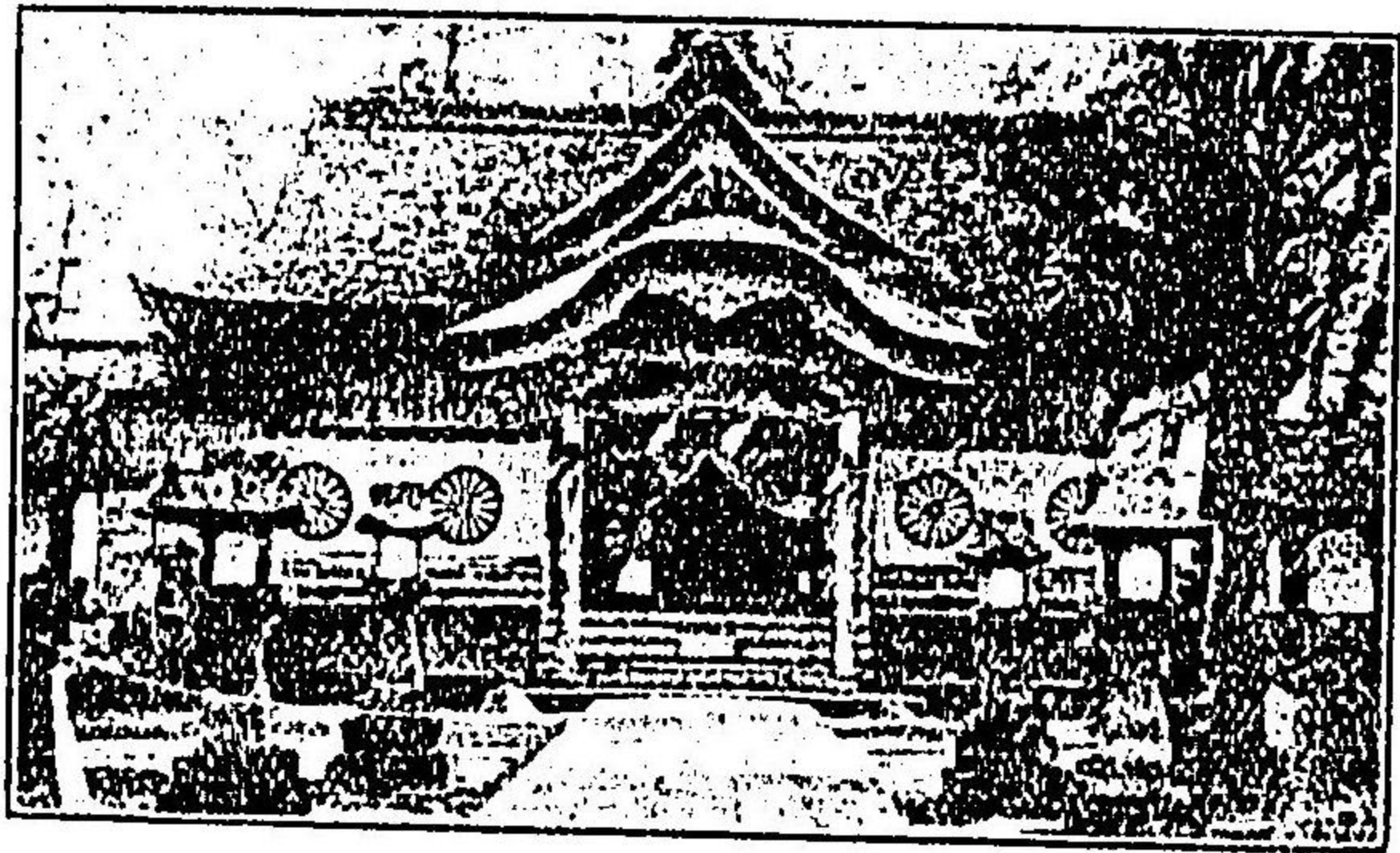
# 大神山神社

(鳥取縣西伯郡大高村大字尾高村鎮座)

大山

大化以前の創立

智明権現



を改造して寺院となし、

大神山は又大山とも云ひます、此の山にある當社の祭神は、大穴牟遲大神で、相殿には大山津見神、須佐之男神、少彦名神の三柱を奉祀してあります。元來當社鎮座のはじめは、崇神天皇の朝とも、應神天皇の御代とも云ひますが、何れにしても、大化以前の創立には相違ありません。其後佛教の隆盛になつた頃、此の山の景色が特に勝れて居る所から、佛教徒が屢々こゝに佛寺の建立を企て、遂に白河天皇様の承保の頃に、天台の僧徒が、神佛習合説を唱へて、當社の大神を地藏菩薩の化身だと云つて、智明権現と呼び、社殿を改造して寺院となし、名を大山寺とつけ、當社をば二里ばかり隔つた、西

大山寺

吉川廣家

萬福原

南の山の麓に移しました。かくて當社の神徳は、一時全く大山寺の勢に蔽はれてしまつたのです。

所が遙か後に、即ち天正年間のこと、時の領主吉川廣家が、當社々殿の荒れはてたのを慨いて、神徳の尊きを畏み、大神谷の西南なる萬福原に、立派な社殿を新築して崇敬しました。夫れより地を變へること二度で、遂に今の所に移つたのですが、この鎮座地は、大神の最も御意に適つた所であつたのです。

かくて明治八年、大山寺を廢し、智明権現の佛體を取除き、當社の奥の宮と定められ、大神山神社の神威は侵すべからざるものとなつたのであります。

# 日御碕神社

(鳥取縣綾川郡日御碕村大字日御碕鎮座)

素戔鳴尊

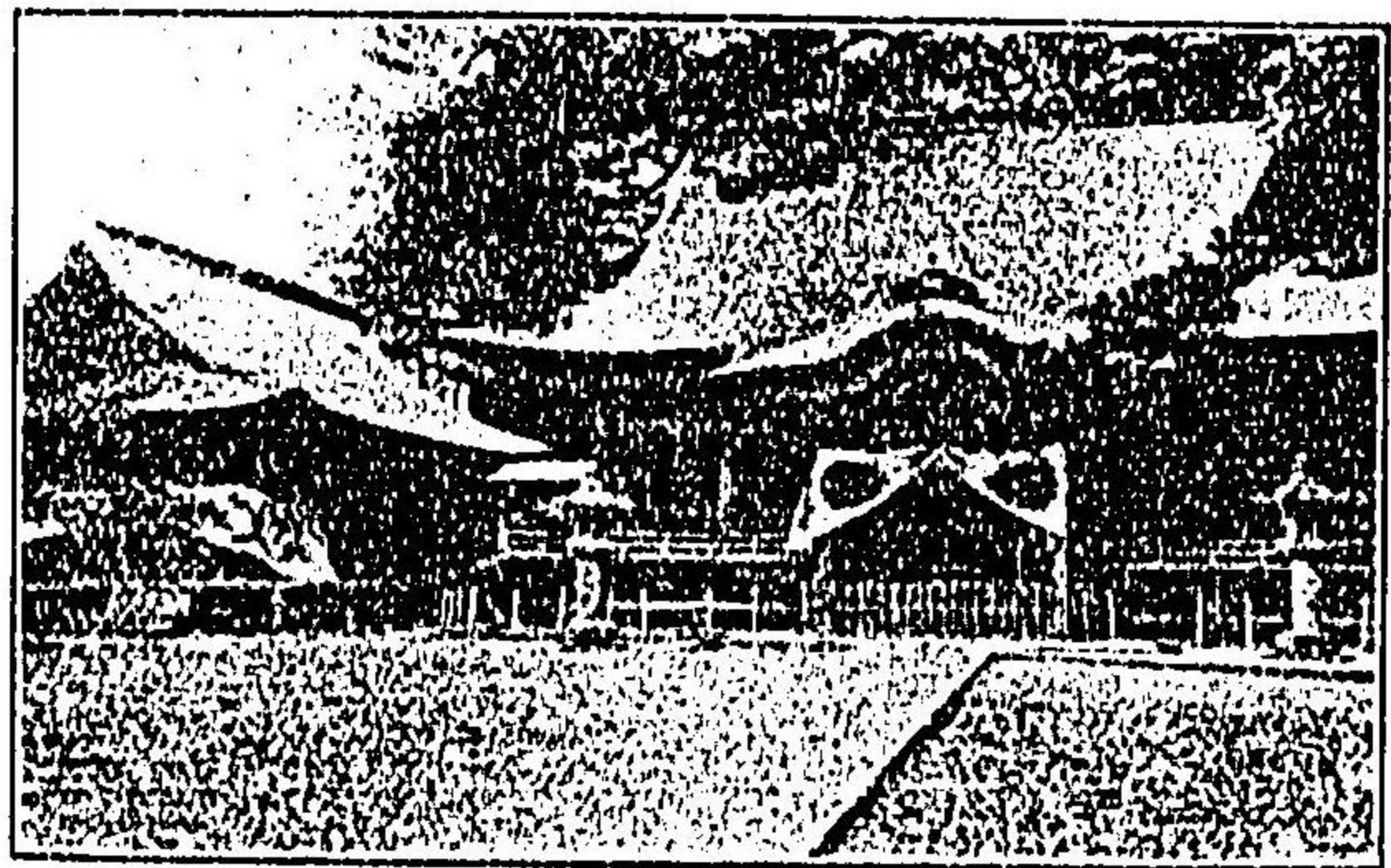
天照大御神

當社は上下二社に分たれ、上の社には、素戔鳴尊を主神として、相殿に田心姫命、瑞津姫命、嚴島姫命を祀り、下の社には、天照大御神を主神として、相殿には天忍穗耳命、天穗日命、天津彦根命、活津彦根命、熊野椋樟日命を

日御碕神社(國幣小社)

奉祀してあります。

さて此の下の社は、



御遷座したものであります。

ひかし天葺根命が、三崎の文島一に經島、日置島とも呼ぶに、お出ましになつた時、天照大神が百枝松の邊に出現なされて、『吾は日の神である、今此の島に降臨して、天下の萬民に恵みを與へたいと思ふ、汝はやく之を祀れ』と仰しやいましたから、遂に此の島に祀ることとなりました。

かくて安寧天皇様の十三年に、天葺根命の五世の孫なる、御沼彦命が、神勅を奉じて、百枝松を社神木として祭られました。更に開化天皇様の二年に、第十四世清足彦命が勅命に従つて、はじめて神殿を營みました。併し現今の當社は、村上天皇様の天曆二年に、六十世高光なる者が、陸地に

百枝松

御沼彦命

隱丘

日鎮宮

宇摩志麻

長髓彦

又上の社は、素盞鳴命が、巳に神功を終つて、熊成峯にお上りなされ、柏の葉をとつて『わが神靈は、此の柏の葉の止る所に住む』と仰しやいまして、風のまに〜放たせられると、其柏の葉は隱丘に止まつたので、天葺根命が其所にお祀りなされたのを、安寧天皇様の十三年に、五世の孫の御沼彦命が勅を奉じて、今の地に御遷座申し上げたのです。當社の上の社を神宮と稱へ、下の社を日鎮宮と呼ぶのは、上の社が高い所にあるからで、神宮とは上の宮との意でありますし、日鎮宮は聖武天皇様の御詔勅で、かく呼ぶことゝなつたものであります。

### 物部神社

(島根縣安芸郡川合村大字川合鎮座)

當社の祭神宇摩志麻遲命は、櫛玉饒速日命の御子であります。饒速日命は、曾て天御祖命の勅を奉じて、天磐船に乗り、河内國に降り、遂に大和の鳥見の白庭山に行き、其地の豪族長髓彦の妹なる三炊屋姫を妃として、宇摩志麻治命を生ませられましたから、長髓彦は命を以て天祖の眞胤となし、厚く之

物部神社(國幣小社)

孔舎衛坂

に仕へました。  
 神武天皇様の御東征に際して、長髓彦は一族を擧げ、皇軍を孔舎衛坂に防ぎましたので、皇軍は一時餘儀なく退却して菟田に行き、更に長髓彦をお攻めになりますと、忽ち金の瑠璃が現はれて、賊軍の眼を射り、再び抵抗することが出来なくなりましたので、長髓彦は遂に天皇の軍門に使者を送つて、天神の御子に二種なきことを述べさせました。夫れと云ふのも、全く宇摩志麻遲命を以て、天神の正胤と思つたからでありませす。

けれども宇摩志麻遲命は、天神の眞意を悟り、天孫即ち神武天皇様に従はうとしましたが、長髓彦は頑として承知しませんので、今はとて決心の膽を固め、遂に之を殺して、多数の部下を率ゐ、天皇の軍に歸順して、大義名分を明かにしましたので、天皇は宇摩志麻遲命の功を褒めて、重く用ゐられました。

或時命は八百山を眺めやり、「此の山の容は、わが祖先の住ませられた、天の迦具山によく似て居る。我は彼所に住みたいと思ふ」と云つて、早速八百

八百山

大綿津見  
素盞鳴大神

徳勒津宮



貢物を奉りません。

沼名前神社 (國幣小社)

山へお移りになりましたが、後に天皇からお許しが出て、こゝに宮柱太しく建て、永くお住みになりました。即ち物部神社の起りはかう云ふ次第でありました。

沼名前神社

(廣島縣沼隈郡地領庄)

沼名 當社の祭神は大綿津見神と、素盞鳴大神とであります。今其由来を尋ねるに、人皇十四代の帝仲哀天皇様の二年二月、天皇は越前國角鹿今の敦賀神なる筒飯宮にいらした時に、神功皇后様をはじめ社とし、文武百官をこゝに留め、三月十五日を以て、天皇は二三人の侍臣だけお連れになり、紀伊國徳勒津宮に行幸なされましたが、恰も此の時、筑紫國の熊襲が内々韓國へ使者を送つて、朝廷に反き、

角鹿の宮

其所で天皇は、熊襲を征伐しやうと思召され、便船に乗つて長門國へお着きになり早速勅使を角鹿に遣つて、皇后様をお迎へになりました。そして天皇の御船は、猶も進んで同國豊浦ノ津に泊つたのです。

吉備の南  
海邊

かくて皇后様は、用意もそこくにして、角鹿の宮をお出ましになり、攝津より播磨を経て、備後國の南海濱にお泊りなさいますと、忽ち一尺餘りの角石が、海の中から湧き出しました。皇后様は之を見て、不思議なことに思召され、其石を御船に上せ、さて浦人に、此の地は何所かとお尋ねなさいますと、浦人等は畏つて、こゝは吉備の南海邊と申し上げました。

海路の安  
全

すると皇后様は、重ねて、「此の地に神はあるか」とお問ひ遊ばすと、浦人は「神は御座りません」と、申し上げたのです。そこで皇后様は、直に齋場を設け、神籬を樹て、齋座を置き、かの海中から湧き出した奇石を神籬として、御自身に大綿津見神を祀り、海路の安全をお祈り遊ばされ、且つ浦人等にも、今より後は、必ず海神を祀れと仰せられました。

鞆祇園

又素盞鳴大神のことは、世に鞆祇園と呼ばれます、御鎮座の年代は明かに

僧空海

分りませんが、太古大神が、國土經營のために、屢々此の地に往來せられたものと見え、御神功の事蹟の傳はつて居るものも少くありません。

鞆町

社傳によりますと、天長年中に、僧空海が此の地に來て、鎮國護法のために祈願を凝し、夫れより數度、僧侶の手によつて、社殿の修繕をいたしました。何れにしましても、一千有餘年の古いお社で、元は鞆町字關町に御鎮座あらせられました。慶長年中に今の地に遷され、更に明治八年官命によつて、大綿津見神の御靈代をも、此の社に御遷座したのであります。

### 玉祖神社

(山口縣佐波郡  
右山村鎮座)

玉祖命

當社は本國の一宮で、祭神の御名は玉祖命と申します。神代のむかし、天孫御降臨の時に供奉せられて、後に此の大崎の地にいらせられ、遂にこゝで神遊りなされたので、即ちこゝにお祀りしたのであります。

八尺瓊の  
曲玉

一體此の神は、天照大神が天石窟にお入りなされた時に、八尺瓊の曲玉をお造りなされて、大神を石窟からお連れ出しになつたのですが、此の貴い曲

玉祖神社(國幣小社)

玉は、後に天孫瓊々杵命の御時から、御代々の天皇の、三種の神寶の一つとなり、天皇お世嗣の時は、いつも之を先帝から譲り受け給ふ例となつて居ました。

神器の御模造

所が崇神天皇様の御代になつて、鏡と剣とは、新しく御模造なされ、神代よりの鏡は、伊勢大神宮の御神體とならせられ、同じく剣は熱田神宮の御神體となり、只玉ばかりは、神代よりの物が、今に至るも宮中にましくて、三種の神器の第一に置かれてあります。

玉祖大神の御功績は、かくの如く萬世の末までも残つて居るのです、餘談ではありませんが、すべて玉と云ふものは、和漢共に人の尊むもので、今も物の美麗なのを、玉の如しとさへ云ふ位です。

熊襲退治

当社に對する歴代天皇の御崇敬の深かつたことは、一々記し盡されませんが、むかし景行天皇様が、熊襲退治のために、筑紫へ下らせられた時、当社へ御参拜なされまして、寶劍を奉納なさいました、此の御劍は、今も神座の内の御船代の側にあります。

神功皇后

其後又神功皇后も、御参詣遊ばされまして、此の地で陶器を造らせ、神供とせられましたので、今に至るも毎年九月の大祭前に、三足の土鍋と釜とを

社家に持参し、神官は其土鍋で神供を炊ぎ、釜に盛つて神前に奉る例となつて居ます。

都農神社

(宮崎縣兒湯郡都農村大字川北鎮座)

大己貴命

當社は日向國の一の宮であります。祭神は大己貴命で、むかし神武天皇様が、宮崎宮を御出發遊ばされて、大和國へお向ひなされる時、此の地を

賊徒平定



御通過になりますと、賊軍の勢ひが盛んなので、先づ當社を創建して、賊徒平定をお祈りになりました。即ち當社の創建の古いことは、之を以て見ても解るではありませんか。

また神功皇后様が、三韓征伐の御時にも、當社の祭神を請じ、御軍船に載

都農神社(國幣小社)

稲馬峯

神人

せ給ひ、御船の護りとなして、首尾よく賊徒を平げ、やがて御凱旋の時に、稲馬峯と云ふ所で、御弓を射らせられますと、土中から黒い物の顔が現はれ出ましたので、弓の弦をもて掘り出して見給ふと、一人の男と一人の女とが居ましたので、之を神人としてお召仕えになりましたが、今も其子孫が残つて居るさうです。

一體此の二人の子孫は、其後大いに繁昌しましたが、或時此の邊に疫病が流行して、人民は残らず死滅びました、夫れと云ふのは、此の國の國守が、神人の子孫を使つて、國の夫役にしたので、當社の神が怒らせられて、悪い疫病を以てせられたからです。

當社の祭神は、醫藥の法をよく御承知なので、平生は諸病をお癒し下さいます、御逆鱗になりますと、却つて病氣を以て悪人をお懲りなされるものと見えます。

### 枚聞神社

(鹿兒島縣榑宿郡建村大字十町鎮座)

相殿八座

當社の祭神は、

主神大日靈命、相殿の神八座、左脇五座は天之忍穗耳命、

天之穗日命、天津日子根命、活津日子根命、能野

久須毘命、右脇三座は多紀理毘賣命、狹依毘賣命、

多紀津比賣命であります。

枚

當社は和多津美神とも云ひ、或は開聞神社とも

開云ひます。貞觀十六年七月二日大地震がありました

神たが、此の時太宰府からの進言には、薩摩國なる

社從四位上開聞神山の絶頂に、大火が起つて、烟は

天に充ち、灰や砂は大雨の如くに降り、震動の響

きは百餘里の先まで達し、人々驚き恐れて逃げ惑

ひました、と。

これは全く、此の神社の尊嚴を穢した祟りであ

らうと、其後間も無く穢れを清め、封二十戸を加へられ、更に聖武天皇様の

御代には、當國の一宮に定め給ひ、土御門天皇様の建仁元年には、累進して



和多美津神

聖武天皇

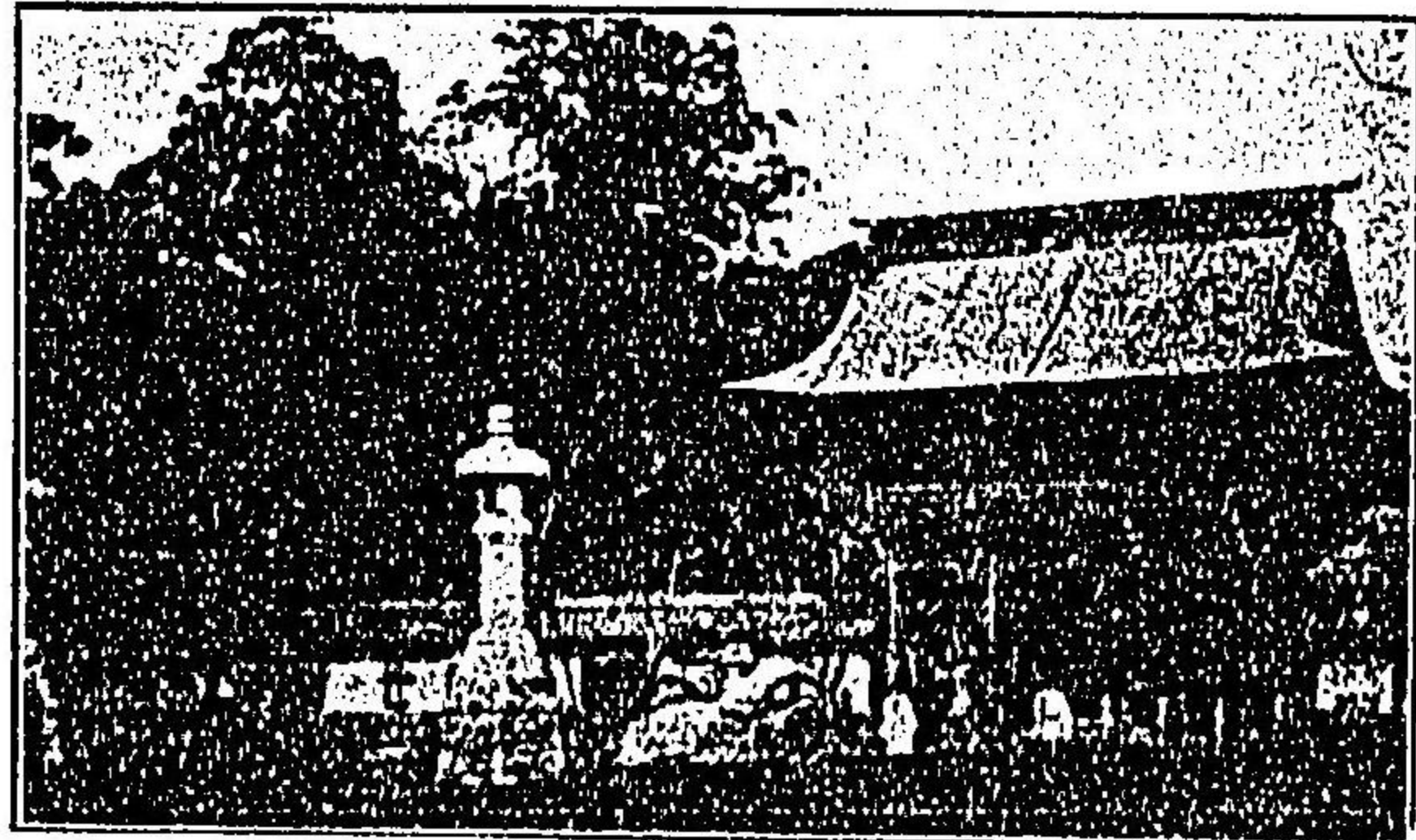
枚聞神社 (國幣小社)

正一位を授けられました。明治の御代になつて、國幣小社に列せられたのであります。

### 眞清田神社

(愛知縣中島郡一宮鎮座)

眞清田神社は、かの鏡造の祖神なる天火明命であります。眞清とは、神徳の大いなるを崇めた言で、田は御所在の地名に因つたのです。即ち天火明命のお造り遊ばされた御鏡は、眞に清らかで、少しの曇りもないと云ふので、其御神徳を尊んだのであります。命は別の御名を天糠戸命とも仰せられ、天照大御神様が、天の岩戸へお籠りになつて、天地が一時に暗くなつた時、八百萬の神々が、何れも大層心配して、種々と御相談をなされ、何とかして大御神様の御心を慰めまつらねばならぬと云ふので、特に火明命に托して、日像



天火明命

天糠戸命

日像の神

の神鏡を造らせることになりました。

そこで火明命は、早速一面の神鏡を造つて、之を大御神様に奉られます。大御神様は俄かに御景色麗しく、岩戸をお出ましになりましたから、天地は茲に再び明かになり、八百萬の神々達も、はじめて安心の胸をお撫でになりました。此の神鏡は今、伊勢國度會郡の五十鈴川の上に鎮座しますのであります。

一體天火明命は、天照大御神様の御孫に當らせられ、天忍穂耳命の第一皇子です。八咫御鏡をお造りになつた位で、非常に美術工藝の技に秀で、御子孫にも此の道をお傳へ遊ばされましたが、御子の天香山命は、石凝姥命とも高倉下命とも呼んで、實に神武天皇様の功臣であります。

はじめ葛城國の高尾張邑にいらつしやいました。後此の國に来て、建國の基を定め、故郷の名に因んで尾張國と名づけ、御父君の神靈をお祀り遊ばされたので、之ぞ神武天皇紀元三十三年三月三日の事であります。

眞清田神社は、かやうな由緒のある社ですから、古くから尾張の一の宮と

眞清田神社 (國幣小社)

天忍穂耳命の第一皇子

高尾張邑

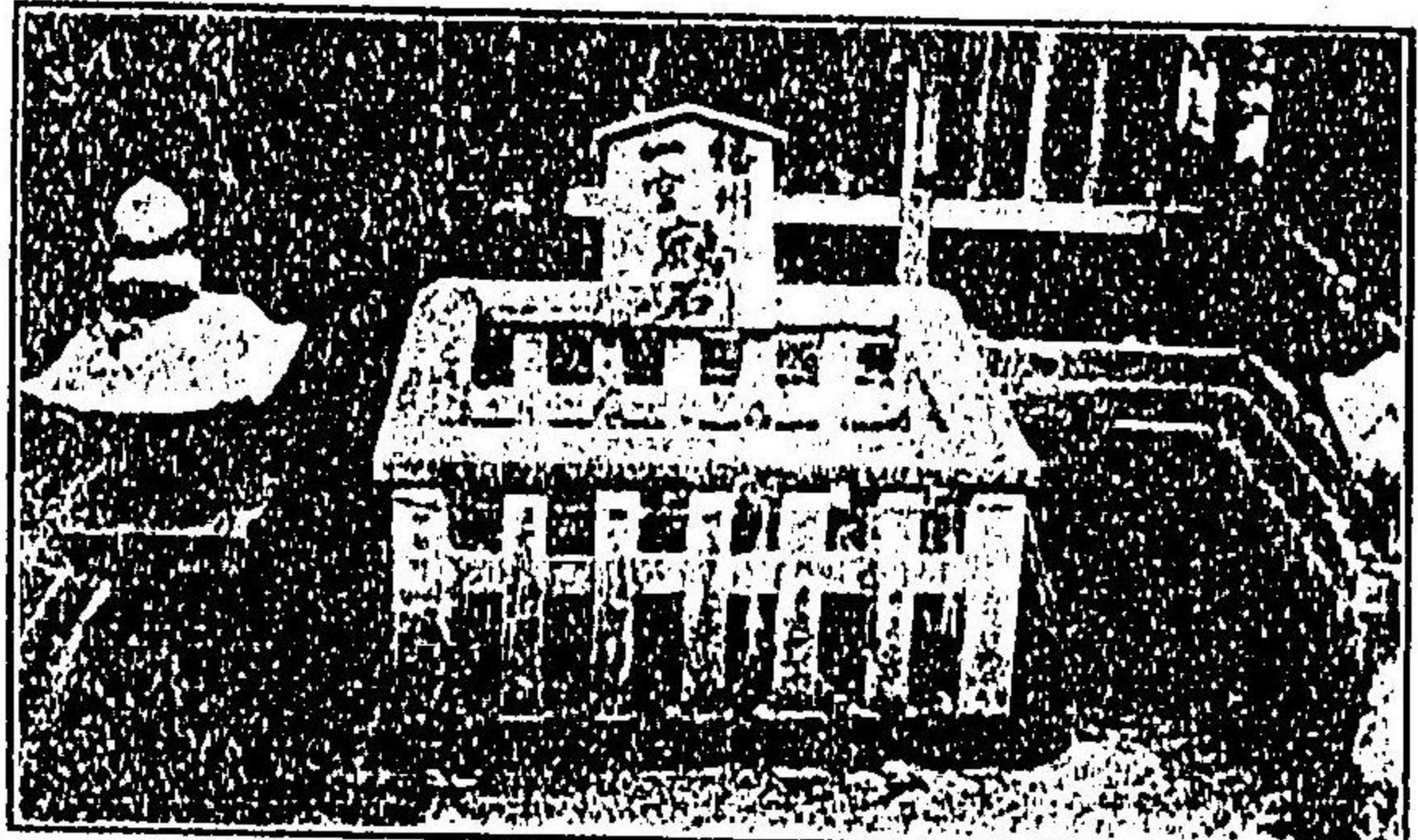
聖武天皇  
扁額

日本お宮物語

呼ばれ、其寶物には聖武天皇の扁額をはじめ、國寶に列せられて居るものも澤山あります。

### 伊和神社

(兵庫縣栗原郡神戶村)



伊和神社は古來播磨國の一の宮と稱へ奉り、御祭神は大名持御魂神で、相殿には少名毘古那神と、下照姫神とが座しますのです。大名持神と少名毘古那神とが力を合せて、國土の經營をなし給ふたことは、歴史上最も著名なことであります。世人が病にかつて、醫藥も其效なく、唯死を俟つ者が、當社の大神に、病氣平癒のことを祈願すれば、必ず效驗が現はれると云ひ傳へてゐるのも、大いに理由あることで、むかし此の大神は、人類畜類のために、諸病を治療する方法を、お定めになつたと云ふことが有るからで、又五穀成就を祈

大名持御魂神

伊和村と  
神酒村と

るのも、此の神達が、鳥獸昆蟲の害を拂ふ方法を、お定め下されたからであります。

當社所在の村名を、伊和村と云ふのは、元神酒村と呼ばましたのを、かく訛つて傳へたので、夫れと云ふのは、かつて大神が、此の村に清泉を發見して、酒を造り初め給ふたから、かく呼ぶ様になつたと云ひます。猶大名持神(天國主神)の御事蹟は、他に掲げて置きましたから、今は省略することゝ致します。

### 神部神社 淺間神社 大歳御祖神社

(静岡市宮崎町)

神部神社は一に駿州總社とも云ひまして、祭神は大己貴命、其相殿に天孫瓊々杵尊と栲幡千千姫命とを祀ります。大己貴命の御神功は申す迄もありません。

駿州總社

神部神社 淺間神社 大歳御祖神社 (國幣小社)



駿河の氏神

せんが、こゝに總社と云ふのは、一國の神所であるから、國中の諸神が集合して、いろ／＼と御會議をなされたり、遊んだりなされる所で、かう云ふのが一國に必ず一社宛あるのです。

されば當社は、駿河の氏神で、一國の人民は、即ち當社の氏神であります。世人は産土神を以て氏神としますが、之は全く間違つて事だと云はねばなりません。

安産守護神

次に淺間神社は、又の名を富士新宮とも云つて、祭神は木花開耶姫命で、相殿の祭神は神部神社と同様です。開耶姫の御貞操は、何人も知る所で、當社は安産守護の神として、妊婦が其平安を祈れば、必ず神功あると云ひ傳へてあります。

歳徳の神

第三の大歳御祖神社は、祭神は大歳御祖神で、應神天皇四年の鎮座であります。此の神は素戔嗚尊の御子で、御母は大山祇の御娘なる大市比賣命、世に歳徳の神として、崇敬淺からぬお宮で御座います。

### 戸隠神社

(長野縣上水内郡戸隠村大字戸隠鎮座)

手力雄命

戸隠山顯光寺

戸隠山は長野市の西北五里の地に峙ち、海拔七千二百餘尺の高山ですが、當社は其山麓の戸隠村に鎮座せられ、祭神はかの天照大御神が、天の岩戸にお隠れなさいました時に、強ひて窟外にお連れ出し申したと云ふ、大力無双の手力雄命であります。

當社は中古修験道者のために、戸隠山顯光寺に屬して居りましたが、明治維新修験道の停止とともに、神佛分離して、國幣社に列せられたのであります。

### 諏訪神社

(長野縣市西郷鎮座)

長崎港

肥前國彼杵郡長崎港に鎮座して、外國を馴伏し、土地を保安して、市民の産土神として崇敬し奉る諏訪神社は、元三ヶ所に分れ、諏訪大神(建御名方命)后神(八坂刀賣命)、森崎大神(伊邪那岐伊邪那美二神)、住江大神(上筒之男中筒之)

戸隠神社 諏訪神社 (國幣小社)

男底筒之男になつて居ましたのを、青木賢聖と云ふ人が、玉園山の地を擴いで、立派な社殿を造り、其所に御遷座申したのは、實に慶安元年八月のことでありました。

安政の火  
災松平主殿  
頭

所が安政四年に火災が起つて、社殿は悉く炎上しましたが、孝明天皇様が此の事を聞き召されて、非常に惜ませ給ひ、文久三年二月、舊島原藩主松平主殿頭に、再建の勅命を下されましたので、市民の喜び一方ならず、明治元年まで、前後十餘年の間力を盡して、以前にも増した立派な社殿となつたのであります。

かくて當社は、明治二十八年七月十一日に、國幣小社に列せられ、大神の稜威かゝやく玉園山に、千木高く、西海の鎮護とならせられます。

### 菅生石部神社

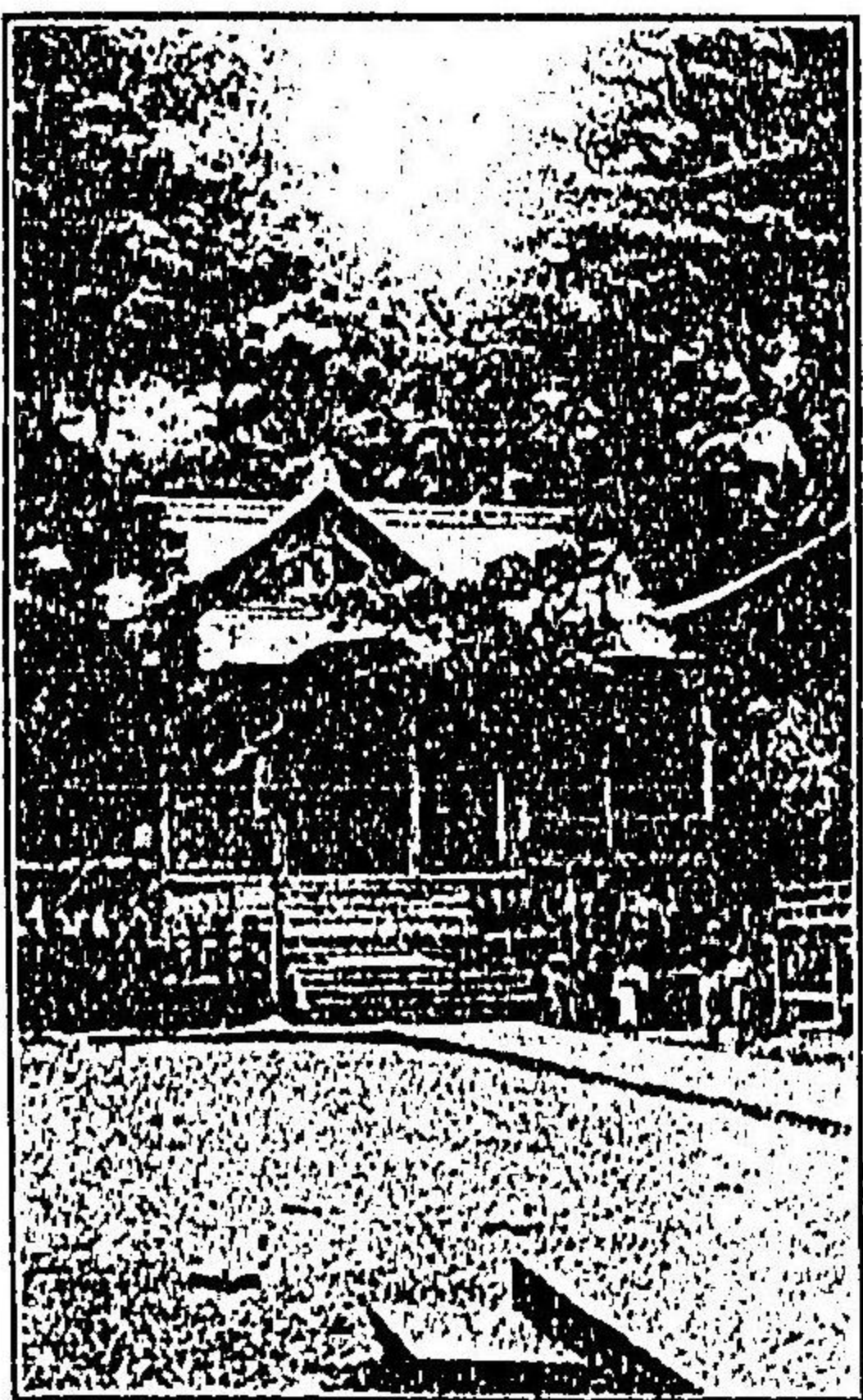
(石川縣江沼郡須田村字敷地鎮座)

當社の祭神は、彦火火出見命で、相殿には豊玉姬命と鶉茅屋葺不合命の二座を祀ります。此の神々は、敏達天皇の御勸請によつて、宮中に鎮りました

敏達天皇

のを、用明天皇の元年九月、當國の鎮守として御遷座あらせられました。後天武天皇の御願により、寶祚長久國家安全の御神事を營ませられました。之は一體日本國は、武道を以て治る國ですから、今泰平の御代でも、國民が

寶祚長久  
國家安全  
の神事



菅生石部神社

武道を忘れぬ爲めの御立願でありまして、信徒の中から、數千本の竹を寄附し、式の終つた後に、敷地と岡と兩村の民が、殿内に於て竹を打合ひ、庭前には庭火を焚き大細を引いて、勝負を争ふので、今も猶二月の十日に之を執行して、

御願神事と呼んで居ます。

### 須佐神社

(島根縣飯石郡東須田村大字宮内鎮座)

當社は有名なる須佐之男命が、八頭の大蛇を斬つて、其御武名をお残しな

須佐神社(國幣小社)

須佐之男命

日本書紀

二八八

された所で、祭神は須佐之男命、稻田姫命、手名槌、足名槌命を祀り、神代からの鎮座で、風土記や延喜式などにも見えて居る、日本でも名高い神社であります。

### 附錄 祭神列傳

我國の神祇祭祀の典禮は遠く神代に始まり、之れを以つて建國の基礎とせられたので、從つて御歴代の天皇も其意を承けられて祭祀を何よりも先の務とせられ、皇祖皇宗を追慕されました。されば其結果神事は國家の政務中最も重く取扱はれた事は古今を通じて少しも變りはなく、神祇の祭祀は國體の要素となり、國家施政の第一要義となつたので、此神祇を鎮祭し奉る爲めに殿舎を設けて之れを神社と稱されて居ります。所が此神社も世の進むと共に其數が殖えてまゐりまして現今では官幣社より無格社に至る迄其總數實に十五萬と云ふ驚くべき多數となつて居ります。されば之に對する朝廷の御待遇は平等にせらるゝといふ事は不可能でありますから、已むなく其神社の由緒又は御祭神の御身分によりて自然と御待遇上の等級が出来たのであります。此御待遇上の等級を『社格』と申して、官幣社とか國幣社とか、府縣社とかい

ふのは即ちそれで、此社格の上からして、現今の神社を特別の神社と、普通一般の神社とに大別します。特別の神社と云ひまするは伊勢の大廟を指して申す事で、これは別段に説明する迄もなく我皇室の皇祖の大神にましく御崇敬も特別でありますから之れを神宮と稱してすべて特別のお取扱ひになつて居ります。此大廟以外の神社は皆普通一般の神社として、更らに之れを官幣社、別格官幣社、國幣社、府社、縣社、郷社、村社、無格社と區別して居ります、又官幣社の内に大社、中社、小社の別があり、國幣社の内にも大社(現今は大社を缺く)中社、小社に別たれてあります。

さて現今の神社制度は明治五年に太政官から布告されてあります。之れによりますと普通神社のうち社格の最も高いものは官幣社及び國幣社でありまして、此二者を總稱して單に官社と申す習慣もありません。共に國家の崇祀として、國家の經濟によりて維持せられ、國家の直接監督を受けて、之れに奉仕する官司も國家の官吏として高等官の待遇を受けます。右の如くでありますから官國幣社は其鎮座地の一部人民の祭祀するものに止まらず、畏くも上

は皇室を始め奉り、下は一庶民に至る迄全國舉つて之れを崇祀すべきものであります。恰も吾々の住居地に村社あり縣社あり、其上に官國幣社あるといふ事は恰も吾々の上に村長町長市長あり、郡長あり、知事あり、更らに上に大臣があるといふと同じで、全國に散在する百數十社の官社は何れも全國民が舉つて祭り奉るものである事を忘れてはなりません。

さて此官幣社と云ひ、國幣社と云ふは如何なる資格によつて列せられたかと申しまするに、之れは人に對する文官任用令や昇給規定の如き一定の尺度を當て箝めるといふ事は出来ません、其神社の御祭神の御系統上の關係御鎮座の事由、神社の御由緒、古來よりの朝廷の御崇敬の程度等によりまして、畏くも天皇陛下の御思召によりて定めらるゝものでありますから臣下の喋々すべきものではありません。唯少しく古來からの沿革を述べて見ませう。

此官幣社、國幣社の始まりは遠く崇神天皇の御代に天津社、國津社の二種に神社を別たれたのが始まりで、高天原に生まれさせる神を祭祀した神社を天津社とせられ、此國土に於て生れられた神を祭祀したのを國津社と稱せられ

たのであります。其後延喜式の時代に入りまして神社に大小の別ある事を定められ、神祇官から祭日に幣物を頒たるを官幣社といひ、其土地の國司から幣物を奉るを國幣社と稱せられたが、是れが即ち官國幣社の名稱の起つた所以であります。此御制度は維新前迄は別段に之といふ變りはありませんでしたが、保元平治の亂後政權が武門に歸してから戰國時代に入りて、皇室の式微と綱紀の弛廢と共に神祇の典禮も漸く衰微に及びましたが、明治維新の王政復古と共に延喜の古制に倣つて官幣國幣以下の制度を立派に定められ、特に神祇官を再興せられて神祇祭祀の事を掌らしめ給ひ、皇祖皇宗の宏謨と建國の基礎たる祭祀の典禮を擧げられ、我國は祭政一致に由來する事を明らかにされたのであります。乃ち明治四年五月十四日を以つて太政官から神社に關する布告を公けにせられた事によつてよく察し奉る事が出來ます。此布告によりますと右に述べたる神祇官からお祭り申す所の神社を官幣社と申し、地方長官からお祭り申す所の神社を國幣社と申され、總て神祇官に於て管掌せられたのであります。然る處明治五年三月に至つて神祇官を廢止せ

られ、其管掌は内務省に移されましたが、神祇官のあつた頃では、官幣社も國幣社も其官祭乃ち祈年祭、新嘗祭、例祭の幣帛は神祇官より奉奠せられ、其神祇官廢止後は官幣社に對せられては祈年祭、新嘗祭、例祭、國幣社に對せられては祈年祭、新嘗祭に其都度宮内省の式部寮から幣帛料を下賜され、單に國幣社の例祭の場合のみは大藏省所管の國庫から金幣を捧ぐる事となつたのです。是に於てか官幣社の例祭と、國幣社の例祭の場合には神祇幣帛料は帝室と國庫との二つに別たれました、乃ち官幣社の例祭には帝室から之を頒つも、國幣社は國庫から供進するに至つたのであります、之れが現今行はれつゝある制度であります、爾來は帝室より官幣社に對せられては毎年の祈年祭、新嘗祭、例祭の三祭には神祇幣帛料を頒たれ、國幣社に對せられては毎年祈年祭、新嘗祭の兩祭のみ之れを頒たれ、其例祭の場合には國庫から供進するものであります。又以前には官國幣社の祭典の儀式には總て宮内省の式部寮より官吏が參代せられて執り行はせられましたが、明治六年以降は其地方の長官が之に代つて奉幣使として參向の上祭典を行はせらるゝ様にな

りました、従つて現今の制度では最早や延喜の古制の如き官幣社、國幣社の區別がなく、其名と實際とは適合せぬ様になつたのであります、之れは右に述べた歴史上の沿革から出た名儀である事を了解して居らねばなりません。また別格官幣社と云ひますのは維新後官幣に班する一の社格として新たに定められたものでありまして、明治五年五月に淡川神社を別格官幣社に列せられたに基くもので、御祭神について之れを察し奉りますと、神代頃の神を除きて、皇室國家に功績のあつた臣下の祭神を祀らるゝものであります。

### ◎別雷神

別雷神は又の御名を鴨別雷神とも申し、大山咋神の御子に坐しまして、御母は鴨建角身命の御女、玉依姫命と申されます。御母玉依姫命が或る時に山城の瀬見の小川の畔に遊んで居られましたが、川上から美しく丹塗の矢が流れて來たのをお拾ひになつて、毎晩御自分の床の傍りに挿し置いて寝られました、とかくするうちに不思議にも妊娠せられ、玉のような男の御子をお

生みになりました、お祖父の建角身命の御喜びは譬ふるにもなく近臣を集めて七日七夜も御祝ひの酒宴を開かれました、其所でお祖父様が其御子に向はせられて汝の父と思はん人に此杯を興へよと申されて一個の杯を賜はりました、すると御子は其杯を手を持ち捧げたまゝで屋根を突き抜いて天に升つてしまはれましたと申し傳へて居ります。此御子が乃ち別雷神であつて、丹塗矢は其御父たる大山咋神の御靈であつたと申すことです。此別雷神は今も京都の上賀茂の賀茂別雷神社に祀られ、官幣大社に列して居られます。紀元前何年頃の御方であるかは詳らかでありませんが、此鴨の神社は其始め神武天皇様の勅でお建てになつた事から考へても餘程古いお方であるといふ事はお察し申されます。又丹塗の矢は今日でも京都の松尾神社に祀つてあります。

### ◎賀茂建角身命

賀茂建角身命は神魂命の御孫にあたらせられ、別雷神の御母なる玉依姫の御父でありますから、即ち別雷神の御外祖父です。神武天皇が御東征の時に、

大和に入らるゝにわたり其嶮岨なる道を導き奉つたといふ有名なる八咫鳥は即ち此建角身命の化身であつたのです、皇軍大勝の後、神武天皇から其大なる功績を褒められ、遂に神様として祀られました、京都の下鴨の官幣大社賀茂祖の神社は乃ちそれでありす。

### ◎玉依姫命

玉依姫命は賀茂建角身命が丹波から神伊可古夜比賣をお娶りになつてお生みになつた比賣神です、別雷命の御母にあたらせられ、今は其御父と共に京都下鴨の賀茂祖神社に祀られてあります。

### ◎大山咋神

大山咋神は建速素盞鳴尊の御孫にあたらせられ、御父を大歳神と申し、御母を天佐加流美豆比賣と申されます。御兄弟は十二柱もましまし、御兄弟皆が揃つて國利民福を計られましたが、其中でも大山咋神は殊に御功績が多く

京都の大堰川今の保津川ならんを開き丹波國を修理せられたのも此神です、常に山城と近江との國境なる比叡山に住まはれ、亦京都の松尾にも居られました、今京都の松尾に祀られてある官幣大社松尾神社は此神様です、外にも近江の日吉神社、東京の日枝神社と同御神にましく、其他諸所の府縣社にも數多く祀られてあります。

### ◎宇迦之御魂神

此神は女神に坐し、御父は素盞鳴尊、御母は大山祇神の御女、大市比賣です、大歳神の御妹にあたらせられまして、別に豐宇迦比賣神、和賀宇賀比賣とも申されます。此神は農産物を御守護になつて農人に幸福を垂れ給はつた事は頗る多く、山谷の水を甘水と變ぜしめて田の稻を浸たして其穂を全からしめんとするを常の御意とせられ、亦食物の事を御守護せられ、此神の御扱ひになつた絹布は諸神の御喜びになつたことは神樂の歌にて見えて居ります。世に名高い伏見の稻荷神社は乃ち此神を祭り、其他大和の廣瀬神社の

御祭神も同様であります。

### ◎猿田彦神

猿田彦神は葦原中ノ國に生れ給ふた神です、所謂國神であります、背の至つて高い、顔の赤い、鼻の隆い、眼の大きな神であつたと言ひ傳へられて居ります。天孫瓊々杵尊が天より日向の高千穂の峯にお降りの際に途中迄御迎へ申して道の御案内を申され、又天照大神の御靈を伊勢に御供申した等功勞少なからざる神です、後には伊勢の五十鈴川の畔りに閑居せられ、漁を以つて樂しみとし、一日誤つて大きな貝の爲めに咬まれて海に溺れ死なれたとの事です。今は伊勢二見浦に祀られ、其他伏見の稻荷にも相殿として祀られ、伊賀の白鬚神社其他諸方にも多く一の宮に祀られてあります。此神が天孫の道案内をせられたと言ふ所から、別の御名を岐神、又は道祖神とも申されます。

### ◎大己貴命

大己貴命は素戔嗚尊の御子に坐しまし、御別名は甚だ多く、大國主命、大物主神、大國玉命、葦原醜男、八千弋神、大穴牟遲神等と申し、世俗は大黒神と稱し奉り、福の神とも申されます。此神の御兄弟は甚だ多く、八十人もあつたと云ふことです。此澤山な御兄弟が出雲の稻羽の八上比賣と申さるゝ姫を娶らんとして互にお争ひになつたことがあります、其時に大己貴命が此姫に通せん事を妬まれ、數十人の御兄弟が相談の上、竊かに大己貴命を殺し奉らんとして、欺いて或る山の麓に立たしめて、上から大きな焼石を墜しました、大己貴命も此焼石には堪へられず觸れて焦傷を受けられました、間もなく癒られました、御兄弟は亦もや欺いて其後いろいな策で殺さんとせられました、幸うして母神の助けによつて難を免るゝ事が出来、遂に御父素戔嗚尊の許に行かれ、父神より其武勇を認められ、出雲の國主とせられました。以後は出雲に住居して頻りに四隣の諸國を征服せられ、又少名彦命ともお力を協せて國土を経営せられ御威光が近國に輝きました、彼れ是れするうちに天照大神が皇孫瓊々杵尊を葦原中ノ國に君臨せしめられんと思はさるゝ、



にわたりて、建御雷神と、經津主神の二軍神に命じて大己貴命に神勅を傳へられましたる結果國土を皇孫に獻じて歸順せられました、之れが世にも名高い、大己貴神のお國譲りの美談であります、遂に此神は出雲の杵築に隠れられました、天神高皇產靈神が其功績を思召され、勅して社を建て、お祀りになりました、大和の三輪神社と共に之れが我邦最古の神社でありまして、社の大きい所から出雲の大社と申され、今は官幣大社出雲大社といはれてゐます。神代文字も此神の始められた所であるといふ、醫療禁厭も此神が始まりと云ひ傳へてゐます。此神を祭祀する神社は大社の外に大和の三輪神社、三河の砥鹿神社、近江の建部神社、能登神社、播磨の伊和神社、日向の都農神社等澤山あります、又國土經營の神といふ所から明治になつて札幌神社、臺灣神社、樺太神社にも祀られてあります。

◎事代主命

事代主命は御別名を葛城一言主神、八重事代主神とも申され、大己貴神の

長子に坐し、御母は屋盾比賣神と申されます。父神の國土經營を援けられ、其功績甚だ多かつたと申す事です、亦獵魚を好ませられ、常に出雲に漁するを樂しみとして居られました、父神が國土を天孫に獻ぜられて後は御自分も大和の三輪に退いて閑居せられました、出雲つ美保神社、神戸の長田神社、日光の二荒神社等に祀られてあります。

◎大國魂神

大國魂神は大歳神の御子に坐し、素戔嗚尊の御孫にあたらせられ、大山咋神の御兄です、御母を伊怒比賣と申されます。此神は大己貴命を援けて國土の經營に其力をつくされた名高いお方です、今では大和神社に祀られ、武藏の大國魂神社も御同神です、明治になつてから、札幌神社、臺灣神社、樺太神社にも合祀されました。

◎八千弋神

八千弋神は大己貴神の御別名でありまして、特に八千弋神として大和の大和神社に配祀されてあります。(大己貴命の項参照)

### ◎御歳神

御歳神は大歳神の御子に座しまし、大國魂神の御弟にあたられます、大和の大和神社に合祀されてあります。

### ◎建甕槌命

建甕槌命は一に建御雷命と書きます。別に建布都神、豊布都神とも申され、天尾羽張神の御子です。天照大神が葦原中國を以つて天孫瓊々杵尊に授け給はんと思召されましたが、其頃大己貴命が出雲に居られ、強大なる力を以つて山陰山陽地方に其威を振はれて居られましたから、まづ大己貴命を歸順せしめんと思召され、天稚彦といふものを遣はして勸められましたが大己貴命は天稚彦は數年待つも歸つて來なかつたから、天尾羽張神を召して行かしめんとせられ

ました。此神は自分の子たる建甕槌命を適當なるものとして薦められまし  
たにつき、乃ち建甕槌命を主將とし、經津主尊を副將として中國に趣いて征  
討せしめられました。建甕槌命は先づ出雲に入つて、大己貴神及び其子事代  
主命を歸順せしめ國土を奉還せしめられ、更らに大己貴命の第二子たる建御  
名方神を信濃の諏訪迄も追撃して降服せしめ其後諸國を順行して悉く悪神を  
驅除平定せられ偉效を奏せられました。是に於て始めて天孫の御降臨があつ  
たのです。此神が多く常總地方に祀られてあるのを見ても如何に其征略せら  
れた範圍の廣かつた事が察せられます。常陸の鹿島神宮は此命を主神として  
祀り、其他大和の春日神社、河内の枚岡神社、山城の大原野神社、京都の吉  
田神社等にも合祀せられてあります。

### ◎經津主命

經津主命は亦の御名を伊波比主命とも申され、建甕槌命と列んで上代の勇  
將です。御父を磐筒男命と申され、御母を磐筒女命と申されます、天照大神

三〇四  
が出雲の大己貴命を御征服の時に建甕槌命と此神との御二人を軍將として遣はされたのであります。大己貴命が終に國土を奉還して退隠しましたる後に、建甕槌命と相併んで關東邊迄も征討の軍を進められ、終に下總に御靈を鎮められました。今の香取神宮は即ち此神を祀つた所です。此神が御別名を伊波比主神(齋主)又は忌主ともいふと申されますは出雲へ御出陣の時に天津神々を祀つて必勝を祈らるゝ際に御自分と齋主になられたから起つたるお名であると申す事です。奈良の春日神社にも、河内枚岡神社にも、京都大原野神社、同吉田神社にも配祀されてあります。(建甕槌命の項参照)

### ◎天兒屋根命

天兒屋根命は神皇產靈神の御子で、天照大神の侍臣として常に國政に參與せられ治國經世の御功績尠なからざる神でありました。後に天孫瓊杵尊、日向の高千穂に御降臨の際に従ふて降られ、中臣連、藤原氏の遠祖であります。奈良の春日神社及び河内の枚岡神社に祀られてあります。

### ◎志那津彦命

志那津彦命は、伊弉那諾、伊弉那冊尊の御子で、風を防ぎ、穀物を成熟せらるゝ御功德ある神様です。世に之れを風の神とも稱し奉り、又天の御柱神とも申し、大和の龍田神社に祀られてあります。

### ◎志那津比賣命

志那津比賣命は志那津彦命の妃に坐し、彦神を援けて風を防ぎ穀物の成熟を守られた神です。一に國の御柱神とも申し奉り彦神と同じく龍田神社に祀られてあります。

### ◎閻龍神

閻龍神は一に龍神とも申されて居ります。古事記の傳ふる所によりますれば、伊弉那岐尊の御妃、伊弉那美尊が御子迦具土神をお生みになり、御産の

爲めに崩去ましましたる際に伊邪那岐尊が悲しみのあまり、其佩かせる十握の剣を抜きて御子迦具土神を斬り給ひし時に御剣の柄に垂れた血潮の凝りに生れ給へる神を開籠神と名付けられましたとあります。今は大和の丹生川上神社、及び山城の鞍馬貴船神社に祀られてあります。世に之れを雨の神と申されまして霖雨炎旱の際に朝廷から古來屢々奉幣御祈禱のあつた神です。

### ◎高籠神

高籠神は世に龍神と申され、開籠神と共に伊邪那岐尊の御剣の柄の血潮の凝りに生れられた神様です、開籠神と同じく大和の丹生川上神社、及び山城の鞍馬の貴船神社に祀られてあります（開籠神の條参照）

### ◎住吉神

（底筒男命、中筒男命、上筒男命）

住吉神といふは底筒男命、中筒男命、上筒男命の三神の總稱であります。何れも御兄弟で伊邪那岐尊の御子になしまし、海の事を司らるゝ神です、伊

邪那岐尊が、伊邪那美尊の崩御せられたる際に、黄泉の國迄追つて行かれました時に、其汚れたのを洗ひ潔めん爲めに筑紫の日向の小戸の橋の樁が原に至られ、清め洗ひを爲されたる時に、海の底の方に沈むで濯がれたる際に生れ給ひし神を底筒男命と申し、潮の中程に濯がれたる際に生れ給ひし神を中筒男命と申され、上潮に濯がれたる際に生れ給ひし神を上筒男命と申されます。攝津の住吉神社は乃ち此三神を合せ祀つたるところであります。

### ◎建速素盞鳴尊

建速素盞鳴尊は天照大神と共に我皇祖の神になしまし、一に須佐之男尊とも申されます、御父は伊邪那岐尊で、御母は伊邪那美尊で、天照大神の御弟にあたられます。御父母の兩神が我瑞穂の國をお固めになつて後に天照大神に次いでお生みになりました神です、長ぜらるゝに及んで御父神から夜見國今の朝鮮ともいふを司る事を命ぜられ給ひましたが、これがお氣に召さぬかして、是れより先きにお崩れになりました御母神を慕はれて黄泉國へ行か

ん事を願はれました、御父がお怒りになりまして終に出雲國へ逐はれましたが、素戔嗚尊は此時に高天原に在らるゝ御姊天照大神に御暇を申されん爲めに高天原に參らんとせられました、天照大神は弟神が高天原を奪はんが爲めに來たのかと大に疑はれましたから、尊は二心なき事を誓はれ、大神もお心が解けて漸く高天原に留め置かれましたが、素戔嗚尊の御氣質が甚だ勇悍豪放に坐しましたが爲めに、時としては御活潑なる御振舞もあり、或は大神の御田の畔を毀ち、溝を埋め或は大嘗の御殿に糞し、斑馬の皮を剥いだるを織殿へ投げ込まるゝなどの亂暴もあつて、姊神がお戒めになるも聽かせられず、遂に姊神もお憤りになつて、天窟戸にお幽れになり天下が暗闇になつて了つたと申す事です、是時、高天原に八百萬神が御集合になり、御協議の上終に素戔嗚尊を罰し、鬚を剃らしめ、爪を剪りて之れを追放せられました、尊も已むなく高天原から出雲國に降られました、尊が出雲へお着になつて簸の川上來られた時に、人の泣き聲がするようでありましたから、不思議に思召して、其聲を尋ねて行かれましたが、其所に老人夫婦が一人の少女を懐い

て泣いて居るのを御覽になり、何故に泣くかをお尋ねになりました所、此谿に八岐の大蛇ありて此少女を奪ひ取らんとするから泣くとの事でありましたから、尊は一策を案じて酒を醸して槽に満たし、御自分が少女に扮装して待伏せして居られました、大蛇が案に違はず來つて其酒を飲み酔ふて眠りましたのを、尊は劍を振つて之れを斬り殺されました、其時に其大蛇の尾から世にも奇しき劍が現れましたが、其後之れを天照大神に奉られ、村叢の御劍と稱し、後には草薙劍とも申され、三種の神器の一となつて今では熱田神宮に祀られてあります、尊は其後にその少女御名は奇稻田姫と申さるゝをお娶りになり、出雲の須賀に御殿を作つて住まはれました、又尊は曾戸毛利（今出雲の南都）にも渡られ其地の國王ともなられ、再び御歸國の上、國土の經營に全力を盡くされ、御子孫も大國主命始め益々御榮えになりました、今は出雲の須佐神社を始めとし、武藏の氷川神社、金鑽神社、京都の八坂神社等にも祀られてあります。

### ◎稻田姫命

稻田姫命は亦の御名を奇稻田姫命とも申され、素戔嗚尊の御妃で、脚摩乳、手摩乳と申さるゝ老夫婦の御子です。出雲の簸の川上に御兩親と共に住まはれたる時に八岐の大蛇の災にかゝられんとする時に素戔嗚尊の武勇によつて助けられ、終に其妃となり、共に出雲の須賀の宮に居られました。今は武藏の氷川神社、京都の八坂神社、其他素戔嗚尊を祀つたる神社には大概配祀されてあります（建速素戔嗚尊の條参照せられよ。）

### ◎天太玉命

天太玉命は高皇産靈神の御子で、天照大神の侍臣として天兒屋根命と共に常に忠勤を盡くされ、彼の天窟戸の變などにも大功のあつた有名な御方です、今は安房の安房神社に祀つてあります。

### ◎天津日高彦火瓊々杵尊

天津日高彦火瓊々杵尊は天孫天忍穗耳尊の長皇子に座しまし、御母は萬幡豊秋津比賣命と申されます。御父忍穗耳尊が天照大神の救命を奉じて將に葦原中國に降らんとせられたる際に御子乃ち瓊々杵尊がお生れになりましたから、天照大神に請ひ奉り、御自分に代つて御子瓊々杵尊を降させらるゝ事となりました、そこで瓊々杵尊は天神より三種の神器をお受けになつて、筑紫の日向の高千穂峯に降られ御皇居を定められて永く住まはれ、四方の國を御平定になりました、御妃は木花咲耶姫と申され大山祇神の御女です、皇子彦火出見尊をお生みになり、御長壽の後高千穂宮に崩せられました、大隅國の霧島神社は即ち尊を祀つたる神社であります。

### ◎伊邪那岐尊

伊邪那岐尊は又伊弉諾尊とも書きます、神代史の所謂天神七代目の御神に

ましまし、惟根神に次いで高天原にお生まれになつたお方です。妃は伊邪那美尊(伊弉册尊とも書く)と申されます。此御夫婦の神は我豊原瑞穗國を闢かれた世にも尊き神様で、天照大神、素盞鳴尊の御父母にわたられます。高天原に於て伊邪那岐、伊邪那美の御兩神が、高皇靈神の御命を命ぜられて天浮橋に立たせられ、天瓊矛を執つて大海原を探ぐられましたが其矛先から滴る所の潮が凝り固つて島となりました、之れはオノコロ島と申し、今の淡路島の一部分であると言ひ傳へられて居ります、二神が此島に降られ殿を作つてお住みになり、此所から四方を巡ぐられて終に我瑞穗國の基礎をかためられ、天照大神を始め奉り大勢の皇子をお生みになりました、後に御妃伊邪那美尊が崩せらるゝに及んで伊邪那岐尊は之れを傷まるゝこと甚だしく、黄泉の國迄も追ふて行かれましたが、其穢くるしきに感じられ、日向の橘の小戸の櫓が原に行かれて御身を洗滌せられ、其後遂に近江の多賀宮にてお崩れになつたと申す事です。今は淡路の伊弉諾神社、近江の多賀神社に祀られてあります。

### ◎伊邪那美尊

伊邪那美尊は伊邪那岐尊の皇妃に坐しまし、伊邪那岐尊と共に國土の經營に力をつくされ大なる功績を樹てられたる後、御子迦具土命を生まるゝに際し、終に黄泉國にお隠れになりました、天照大神、素盞鳴尊は其御子です、今は近江の多賀神社に祀られ、其他伊邪那岐尊を祀つたる社には大概は配祀されてあります。

### ◎伊奢沙別命

伊奢沙別命は又の御名を大宜都比賣神、又は氣比神と申され、伊邪那岐尊の第十七子に當られます。素盞鳴尊が高天原より追はれてお降りになつた時に此神の御許に参られました、此神は鼻や口から食物を出して尊を饗應し奉つたのを無禮と思召され、お怒りになつて殺されたと申す事です、今は越前の氣比神宮にまつられてあります。

### ◎天津日高彦火々出見尊

天津日高彦火々出見尊は單に彦火々出見尊とも申し奉ります。天孫瓊々杵尊の第三皇子に坐しまし、御母は木花咲耶姬と申さるゝ方です。此尊は山獵に長ぜられて居られたと申すことです、或時戯むれに御兄なる火明命の御釣竿と御自身の弓矢とを御取替へになつて獵魚を試みられましたが一つの獲物なきのみならず終に釣さへお失ひになりました。兄の命より釣の御請求が嚴しかつた爲め、劍を毀ちて澤山の釣を作らしめて之れで償はんと思されましが、御兄は聴き入れられませんが、大に御心配になりまして海邊をぶらぶらと逍遙して居られた時に鹽土神と申す一老翁が釣を尋ねるの方法を教へ奉り、小さき舟を造くつて尊を容れ奉り之れを湖に泛べた所が漸くして小さき島に其舟が着きました、此島は即ち海津見神の宮であつたのです。尊は海神に會ひになり其女豊玉姬を娶つて妃とせられましたが三年の後本國に歸らんと思召されました、海神は其御別れに臨むで釣を探がして奉つたのを尊は持ち

歸られ御兄にお戻しになつたといふ事です。其後皇位を嗣いで良政を布かれ終に高千穂宮にて崩せられました、御年は五百八十歳と申されてゐます。大隅國の鹿兒島神宮は乃ち尊を祀り奉つた神社であります。

### ◎鵜鷺草葺不合尊

鵜鷺草葺不合尊の御父は彦火々出見尊で御母は海津見神の女、豊玉姬命と申されます、御父彦火々出見尊が豊玉姬の御許より高千穂へお歸りになつた後、其妃豊玉姬命が都へ來られ、彦火々出見尊に御會ひになつて申さるゝには、かねて妊娠の妾は産期も最早近よりましたと、乃ち急に産屋を設けて屋根を葺くのに鵜毛を以つてせられました、屋根葺きのいまだ終らざる間にお生れになつたのは即ち此の鵜鷺草葺不合尊でありました、其後御母豊玉姬命は海津見宮へお歸りになりました、長ぜられて後に伯母の玉依姬命を迎へて妃とせられ、御父の後を次いで位に即かれました。人皇第一代神武天皇は實に此の尊の皇子にあたられます、御長壽の後、高千穂の宮にお隠れになりま



した、日向の鶴戸神社は此尊を祀つた神社であります。

### ◎木花咲耶姫命

木花咲耶姫命は大山津見神の御女で、天孫瓊杵尊の御妃に坐し、別に吾田鹿葦津比賣命、又豊吾田津姫命とも申されます。御皇子彦火々出見尊、火須勢理命、火照命のお三方をあげられました。富山の浅間神社は乃ち此姫命を祀つた神社です。

### ◎少彦名命

少彦名命は神皇産靈神の御子で、高天原から出雲國にお降りになつた神です。始め出雲にて大國主命にお出逢ひになり、兩神お力を協せて國土の經營に力を盡くされ、又高天原から醫療禁厭の事も傳へさせられ、人民の困苦を救はれ、世に醫藥の祖神と申されて居ります。常陸の酒列磯前神社に祀つられ、又國土經營の神としては、維新後御開拓になつた北海道の札幌神社、新

領土の臺灣神社、樺太神社にも大國主神と共に配祀されてあります。

### ◎多紀理姫命

多紀理姫命は又の御名を田心姫とも申し、天照大神、高天原に於て須佐之男尊と御誓約の際にお生れになつた神です。多岐津姫、市杵島姫とも御姉妹です、天孫降臨の時に天照大神の勅命によりて力を添へられたと申す事です。今は筑前の宗像神社の奥津宮に祀つられてあります。

### ◎市杵島姫命

市杵島姫命は多紀理姫命と御同様に高天原に生れ給へる神であつて、天降の御降臨の時に力を添へられた事も御同様であります。今は筑前の宗像神社の中津宮に鎮座をします。

### ◎多紀津島姫命

多紀津島姫命は御姉妹の多紀理姫命、市杵島姫命と共に高天原にお生れになつた神であつて、今は筑前の宗像神社の邊津宮に祀られてあります。

### ◎酒解神

酒解神は大山津見神の御別名と傳へられ、今は京都の梅宮神社に祀られてあります。大山津見神の條を見らるべし。

### ◎酒解子神

酒解子神は大山津見神の御女にして、天孫瓊々杵尊の妃に坐しましたる木花咲耶姫命の御別名と傳へられ、京都の梅宮神社に配祀されてあります。木花咲耶姫命の條を見らるべし。

### ◎大若子神

大若子神といふは天孫瓊々杵尊の御別名と申す事です、京都の梅宮神社に

祀られてあります。天津日高彦火瓊々杵尊の條を見られよ。

### ◎小若子神

小若子神といふは瓊々杵尊の皇子に坐します彦火々出見尊の御別名と傳へられ、京都の梅宮神社に御父と共に配祀されてあります。天津日高彦火々出見尊の條を見られよ。

### ◎月讀命

月讀命は伊邪那岐尊の御子に坐し、父の尊が右の御目をお洗ひになつた時にお生れになつたと申し傳へられ、天照大神の御妹にわたられます。長ぜられて夜見の國を治むべきやう御父神の救命により夜見國へ行かれました。今は月山神社として羽前國に祀られてあります。

### ◎彦五瀬命

彦五瀬命は神武天皇の御兄に坐しまし、御父は鸕鷀草葺不合尊、御母は玉依姫命と申されます。父の尊、崩せられた後に御弟神武天皇と共に議られ東征を企てられました。不幸にも河内國に於て賊軍長髓彦の流矢にあたられ、創に屈せられず海路紀伊に向はれましたが、創を病まれて終に千秋の憾みを遺して紀伊の海草の里にて薨せられました。今は其地に竈山神社を建て、奉祀されてあります。

### ◎建磐龍命

建磐龍命は神八井耳命の御子に坐しまし、神武天皇の御孫にあたらせられます。神武天皇御東遷の後、筑紫の國が亂れました時に建磐龍命は特に鎮撫の重任にあたらせられ、終に平定し、民に農業の途を擴め給ひましたから、筑紫も再び皇化に浴する事となりました。肥後の阿蘇神社は即ち此の命を奉祀したる神社であります。

### ◎建御名方富命

建御名方富命は大國主神の御子に坐しまし、御母を沼名河媛と申され、頗る武勇の御氣質であつたと傳へられて居ります。御父及び御兄の事代主神と共に國土の經營に力を致され大に功績を樹てられました。天照大神が建甕槌命及び經津主命を出雲へお遣はしになりました際に歸順する事に不服を申され、一時は反抗せられました。終に其利なきを覺られ、信濃の州羽今の諏訪迄走つて降を乞はれ、此地に隠れて出でじと誓はれ、其地に薨せられました。今其地に諏訪神社として祀られてゐるのは乃ち此命であります。

### ◎八坂戸賣命

八坂戸賣命は建御名方富命の妃に坐しまし、御父母は詳らかでありません。建御名方富命が御軍利あらず信濃に走られたる際に共に信濃州羽に赴かれ、同じく御夫命と共に其地の諏訪神社にまつられてあります。

### ◎稚日女命

稚日女命は一に稚日靈賣命とも書きます。伊邪那岐尊の御子に坐し、天照大神の御妹です。御兄素盞鳴尊が御勇悍に坐し、命が織殿にありて衣をお織りになつて居る際に斑駒の皮を削いで織殿へ投げ入れられました時に其不意にお驚きになり機から墮ちて薙せられたと申し傳へて居ります。此神は殊に養蠶、織機、裁縫の術に妙を得てゐられたといふ事です。今は生田神社と申して神戸にまつられてあります。

### ◎正哉吾勝速日天忍穗耳尊

正哉吾勝速日天忍穗耳尊は又の御名を忍骨尊とも申されます。天照大神の嫡子にわらせられ我皇祖の第二代にわたられます。天照大神此尊を大に愛せられ立て、太子として葦原中国を治めしめんとせられ、高天原より降られんとする時にわたつて、大國主命が中国に威力を振つて居られましたから、建甕槌神及び經津主神を遣はして歸順せしめられ、將に御降臨あらんとせられた時に、恰も皇子瓊々杵尊が御誕生になりましたから、大神の許しを得て、

其皇子を自分に代つてお降だしになつたのです。今は英彦山神社と申して豊前の彦山に奉祀されてあります。

### ◎速玉男尊

速玉男尊は伊邪那岐尊の御子に坐し、伊邪那岐尊が妃伊邪那美尊御崩去の際に黄泉の國迄も追ひ行かれたる時にお生れになつた神と申し傳へて居ります。御弟の事解男尊と共と昔より那覇邊にわらせられ、五穀の豊穰、山海の獵漁の幸福を護られたる神であります。今の琉球那覇なる波上神宮は即ち此尊を祀られたる神社であります。

### ◎事解男尊

事解男尊は伊邪那岐尊の御子で、速玉男尊の御弟にわらせられます。御父伊邪那岐尊が妃伊邪那美尊御崩去の際に黄泉の國迄も追ひ行かれたる時に速玉男尊と共にお生まれになつたのです。御兄の尊と共に琉球にわらせられ

五穀の豊穰、山海の幸福を計られたることも御兄の尊と御同様であります。今の琉球那覇なる波上神宮は即ち此尊を配祀されたる神社であります。

### ◎玉依姫命

玉依姫命は海津見神の御子に坐し、娶られて鞠草葺不合尊の御妃とならせられ、彦五瀬命、神武天皇の御生母であります。筑前國壱戸神社は此姫を祀つたる神社であります。

### ◎天明玉命

天明玉命は亦の御名を玉祖命とも申され、高皇靈神の御孫であります。天照大神天窟戸にお幽れになりましたる時に、其祈りに際して櫛の枝に取りかけたる八坂瓊曲玉を作り奉つたる神であります。此八坂瓊曲玉は天孫降臨の際の三種の神器の一として、お授けになつた曲玉であります。上總の玉前神社の御祭神たる玉埼の神は、此天明玉命を祀つたのであると申し傳へられて

あります。

### ◎金山彦神

金山彦神は伊邪那岐尊の御子に坐し、美濃の南宮神社に祭祀されてあります。

### ◎味耜高彦根尊

味耜高彦根尊は大己貴神の御子に坐し、御母は宗像奥津宮の田心姫命であります。事代主命や下照姫の御兄にあたらせられます。此神は御父や、御祖父を援けて國土の經營に力を致され、今日光二荒山神社の本宮に祭られてあるのは此神であるといひます。

### ◎志波彦神

志波彦神は御別名を藻鹽場彦神とも申され、鹽竈神に従ふて鹽を煮るの業

を援け奉り、大に人民の爲めに盡されたのであります、陸前の志波彦神社は即ち此神を祀つた神社であります。

### ◎鹽土老翁神

鹽土老翁神は御別名を鹽竈神とも稱し奉り、天孫御降臨の際に力を添へられ、其後奥州に至りて鹽を煮る事を創められ、我國民の爲め力を致された有名な神であります。陸前の鹽竈神社は即ち此神を祀つた神社であります。

### ◎大物忌神

大物忌神は宇迦之魂神の御別名であると申し傳へて居ります。されば稻荷大神と御同神に坐します。羽後の大物忌神社は此神を祀つたのであります。

### ◎若狭彦神

若狭彦神は若狭國の若狭彦神社に祭られてある神に坐し、彦火々出見尊と御同神であると申す事です、天津日高彦火々出見尊の條を見られよ。

### ◎豊玉姬命

豊玉姬命は海津見神の御女に坐し、彦火々出見尊が海津見宮に到らせられた時に其妃とならせられ、鶺鴒葺不合尊を生ませられたる姫神であります。彦火々出見尊を祀つたる神社には大概配祀されてあります。

### ◎若狭姫神

若狭姫神は彦火々出見尊の妃、豊玉姬命の御別名であると申し傳へられて居ります。若狭彦神社に配祀されてあります。

### ◎二上神

二上神は御別名を天牟羅雲命とも申され、天香語山命の御子に坐し、

饒速日命の孫にわたらせられます。天孫降臨の時に葦原中津國の水が悪くて飲用水にせらるゝことが出来なかつたが、此天牟羅雲命は皇孫の御使として天照大神の御許にいたらせられ大神の勅命によつて高天原なる天忍石の長井の水を持ち下つて飲用水の基をお創めになつた神です、越中の射水神社は乃ち此神を祀つたところでありませす。

◎天香兒山命 (天香語山命)

天香兒山命は天火明命の御子に坐しまし、天照大神の曾孫にわたらせられます。天孫が高千穂に降臨せられたる際に供奉せられてお降りになりました。其後、越の國の野濱濱にいたり給ひ浦人共に鹽を焼き又網を作つて魚を捕る事を教へられ、大に國人の爲めに力をつくされたと申し傳へて居ります。越後の彌彦神社は乃ち此神を祀り奉つた神社であります。

◎三穗津比賣命

三穗津比賣命は高皇靈神の御女に坐しまし、長じて大己貴命(大國主命)の妃とならせられた神であります。天孫降臨の時に際し大國主命が國土を天照大神に奉還せられたる後に、高天原に參つて大神の其赤心を陳べられました際に、傍らより高皇靈神が申さるゝには、卿は國神の女を妻とする間は異心あるを疑ふ、異心なきならば我女を妻とせよと、是に於て大國主命は二心なきことを誓はれ其御女たる三穗津比賣命を妃に迎へられたのであります。丹波の出雲神社は大國主命と共にこの比賣神を祀つたのであります。

◎天水分神

天水分神は速秋津彦神の御子で、高天原でお生れになつた神であります。御母は速秋津比賣神と申されます。此神は専ら水を配る事を司られたといふ事です、霖雨、早天の際に御祈禱のあるのは此神を一番といはします、丹後の籠神社には此神を祀つてあります。

### ◎神祖熊野大神櫛御氣野命

此神は紀伊國の熊野神社に祀られておつて、素盞鳴尊と御同神であります。素盞鳴尊が曾戸毛梨今の朝鮮國內から種々の樹の實を持ち歸られ國內へ多く播かれましたが、特に紀伊國が克く繁茂したと申す事で、木の國紀の國と申されましたが、後に紀の人其功徳を仰ぎ奉り奇御木主櫛御氣野と申して熊野にお祀りしたといふ事です。

### ◎水若酢神

水若酢神は隠岐の國造の祖神に坐します、水は瑞の義で美稱でありますから單に若酢神と申さるゝ事もありません、隠岐國の水若酢神社は乃ち此神を祀つたものであります。

### ◎安仁神

安仁神は備前の一の宮安仁神社に祀られてある神であります、神武天皇の御兄にあたらせられます。五瀬命の御神號であります。御事蹟は彦五瀬命の條を見られよ。

### ◎家都御子神

家都御子神は紀伊の熊野座神社に祀られてある神であります、素盞鳴尊を遷し祀つた御神號であります。御事蹟は素盞鳴尊の條を見られよ。

### ◎天日鷲命

天日鷲命は高天原に生れ給へる神であつて、天太玉命の侍臣でありました、天照大神が天窟戸に御幽居ましくたる際に御子津咋見命と共に綿の種を播いた所が一夜で成長しましたのを取つて白和幣を作り、神前に供へ奉つたと申し傳へて居ります、今の木綿の始まりであります。其後天孫降臨に供奉して降られ伊勢の國造となられました、其子孫は阿波に移られました、阿波



の忌部神社は乃ちこの神を祀つたものであります。

### ◎大麻毘古命

大麻毘古命は亦の御名を津咋見命とも申され、天日鷲命の御子であります。天照大神が天窟戸に御幽居の際に御父の天日鷲命を援けて木綿を植ゑて白和幣をつくり神前に供へられた神であります、阿波の大麻毘古神社は乃ち此神を祀つた神社であります。

### ◎大山祇神

大山祇神は伊邪那岐尊の御子に坐しまし、木の神たる句々遮智神や、風之神たる志那津比古神と御兄弟であります。世に山の神と申し奉るは即ちこの大山祇神を稱し奉る御神號であります。常に山を司られて國家の爲めに大功を樹てられたのであります。御女は澤山にありましたが、八島士奴美命の妃木花散耶姫、素戔嗚尊の皇妃神大市比賣、瓊々杵尊の皇妃木花咲耶比賣命も

此神の御女であります。伊豫の大山祇神社、伊豆の三島神社、羽前の湯殿山神社は此神を祀つたものであります。

### ◎一言主神

一言主神は土佐國の土佐神社の祭神でありますして味耜高彥根命の御別號であるといひます、味耜高彥根命の條を見られよ。

### ◎高良玉垂命

高良玉垂命は阿曇連の祖神に坐しまし、海津見神の御同神であります、筑後の高良神社は乃ち此神を祀り奉つた神社であります、神功皇后が三韓をお討ちになる際に此神は大に力を致され、潮干珠、潮満珠の二ツの珠を皇后に獻じ奉り大功があつたと申す事です、玉垂命と申すはこれから稱し奉つた御名儀であります。

### ◎豊玉姬命

豊玉姬命は海津見神の御女で、後に彦火々出見尊の皇妃となられ、鵜草葺不合尊の御生母に坐しました。始め彦火々出見尊お釣を求めて海津見宮に至られました時に、豊玉姬命之れを見て父に告げられましたところ、父神は其尊客を慕ひ奉つて豊玉姬命を妃として奉られました。尊が秋津洲に歸られました後に豊玉姬命は其後を追ふて來られ、尊にお會ひになり、妾は孕みて居ります。産期も追々近くなりましたから、天孫の御子を海津見宮に生み奉るも畏れ多い事でありますから、秋津洲に生み奉らん爲めに參りましたと申されましたから、海岸に産舎を建て、御出産の場所とせられました。豊玉姬命は此産舎に入らるゝ前に尊に産の濟む迄覗かれぬよう頼みになりました。尊は之れを惟むで密かに覗かれましたら、豊玉姬命の御すがたが八尋の鰐になつて居られたと申す事です。其時のお生みになつた御子は乃ち鵜草葺不合尊でありまして、姫は之れを見られたのを恥ぢて海津見宮に逃げて行

かれ、御自分の御妹たる玉依姫をお遣はしになつて、其御子をお育てになつたのであります。對馬の海神社は乃ち豊玉姬命を祀り奉つた神社であります。

### ◎大屋毘古命

大屋毘古命は亦の御名を五十猛命とも申され素盞鳴尊の御子で、大己貴命(大國主命)の御兄に當らせられます。始め御父に従はれて新羅の曾戸毛梨に渡られました。此國は我れの居るを欲せずと仰せられ、船を作つて御父と共に東に歸り出雲國に上陸されました。高天原よりお持ち降りになつた樹の種を御父に授けて筑紫から、紀伊國迄もゆかれて我國の建築用材の基を開かれたのであります。紀伊國の伊太祁曾神社、及び佐渡の度津神社は此神を祀つてあります。

### ◎都々古和氣神

都々古和氣神は、味耜高彥根命の御別號でありまして、磐城の都々古別神社(二社あり)は御神を祀り奉つたものであります、御事蹟は味耜高彥根命の條を見られよ。

### ◎生島神

生島神は亦の御名を生國神とも申し奉り、足島神と相列んで我大州國の靈の神に坐し、神武天皇が大和の橿原宮に御即位の時に御皇居の傍らに神籬を建て、皇室の御守護神として祭り奉つた八柱神の一柱にましまし、いと尊き神であります、大阪の生國魂神社、信濃の生島足島神社には足島神と共に祭祀されてあります。

### ◎足島神

足島神は亦の御名を足國神とも申し奉り、生島神と相列んで大八州國の靈の神と稱されてあります。神武天皇大和橿原に御即位の時に祭りになつた

八柱中の一柱にましまし、今は大阪の生田魂神社、信濃の生島足島神社に生島神と共に祀られてあります。

### ◎小國神

小國神は遠江國の小國神社の御祭神に坐し、大己貴命(大國主神)の御別號であります。御事蹟は大己貴命の條を見られよ。

### ◎水無神

水無神は飛驒の水無神社の御祭神に坐し、大己貴命(大國主神)の御別號であります、大己貴命の條を見られよ。

### ◎駒形神

駒形神は木股神の御別號でありまして、我國にお生れになつた所謂國神であります。陸中の駒形神社は此神を祀つてあります。

### ◎菊理媛神

菊理媛神は木を司る神に坐し、亦の御名を句々廻智神とも申され、伊邪那岐尊の御子であります。加賀白山の白山比咩神社は御父母の神と共に此神を祀つた神社であります。

### ◎可美真手命

可美真手命は物部氏の祖神に坐し、御父を饒速日命と申し、御母は登美夜姫であります。御父饒速日命は高天原より大和に降られ、土家の長髓彦の妹たる登美夜姫を娶つてお生みになつたのであります。長髓彦は之れを夫神の御子として奉じて君とし、神武天皇御東征に際して衆を帥ゐて猛烈に反抗し奉りましたが、可美真手命は御意中に決せらるゝ所あり長髓彦を殺して衆を率ゐて皇軍に降り十種の神寶を獻せられました。神武天皇はお悦びになつて深く御寵愛になりました。其後皇軍の爲めに大に力を致され、平定の後

は物部を率ゐて専ら皇城鎮護の任にあたられ、天皇及び皇后の爲めに鎮魂の祭りを行ふて壽祚を祈られ、常に皇室の爲めに意を注がれましたから、神代天皇其忠勳を賞せられ股肱の大任を仰せつけられ、其子孫も又之れを世襲して永く皇室と離るべからざる顯要の地位を占めて居りました。子孫に至つて物部姓を賜はつたと申す事です。今は石見國の物部神社に祀られてあります。

### ◎綿津見神

綿津見神は伊邪諾尊の御子に坐し、海を司らるゝ神であります。亦の御名を豊玉彦命とも申され、此神の御女豊玉姬命は彦火々出見尊の御妃とならせられ、次ぎの御女、玉依姫命は鵜飼尊不合尊の御妃とならせられました。常に西海の地を守られ、國家の爲めに功をつくされた神であります。今は備後の沼名前神社として祀られてあります。

### ◎玉祖命

玉祖命は玉祖連の祖神で伊弉諾尊の御子に坐し、亦の御名を天明玉命とも、玉屋命とも申されます。天照大神天窟戸に御幽居の時に八咫瓊曲玉をつくり奉つたのは此神です、天孫降臨の時に五部神と共に供奉して高千穂に降られ、其子孫繁榮して代々玉作りを以つて其業とせられたのであります、遂に其子孫繁榮の地たる周防に玉祖神社として祀られてあります、

### ◎天火明命

天火明命は天孫瓊々杵尊の長子に坐し、彦火々出見尊の御兄にわたられます。今尾張の眞清田神社は乃ち此命を祀つた神社であります。

### ◎大歳御祖神

大歳御祖神は單に大歳神とも稱し奉り、素戔嗚尊の御子で、御母は神大市比賣命と申され、大山祇神の御女です、此神は始め伊弉比賣を妃として大國御魂神、韓神等を生まれ、又香川比賣を妃として大香山戸臣神、御歳神を生

み、後には天佐迦流美豆比賣を娶られて奥津比賣神、大山咋神をお生みになつたのであります。静岡なる大歳御祖神社は此神を祀つた神社であります。

### ◎天手力雄命

天手力雄命は高天原に生れおしたる神であつて、天照大神が天窟戸に幽居せられたる時に手力雄命は其磐戸の側に立ちて大神が御手づから磐戸を細目にわけて外を覗はれた折に其手を取り奉つて誘ひ申した有名な神であります、此時に天手力雄命が取つて投げた磐の戸が信濃國に落ちて山と化りましたのが即ち戸隠山であると申し傳へてあります、信濃神社は此神を祀つたものであります。

日本お宮物語終

明治四十五年三月廿五日印刷  
明治四十五年四月一日發行

定價金壹圓

著作者

巖谷小波  
東京市芝區高輪南町五十三番地

發行者

林平次郎  
東京市日本橋區數寄屋町九番地

發行者

直井潔  
東京市麹町區飯田町五丁目六番地

印刷者

金崎金平  
東京市芝區愛宕町二丁目十四番地

印刷所

東洋印刷株式會社  
東京市芝區愛宕町三丁目二番地

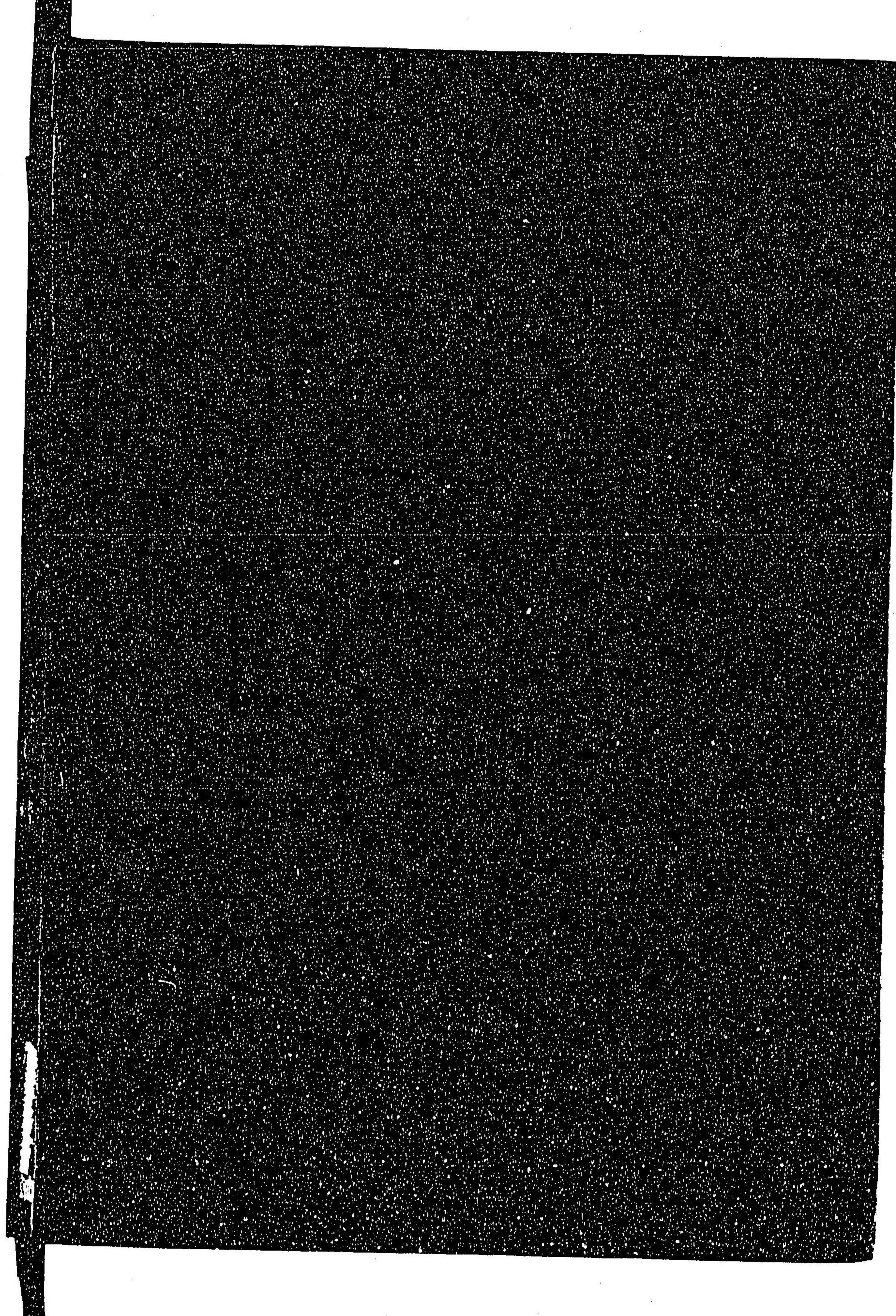


發行所

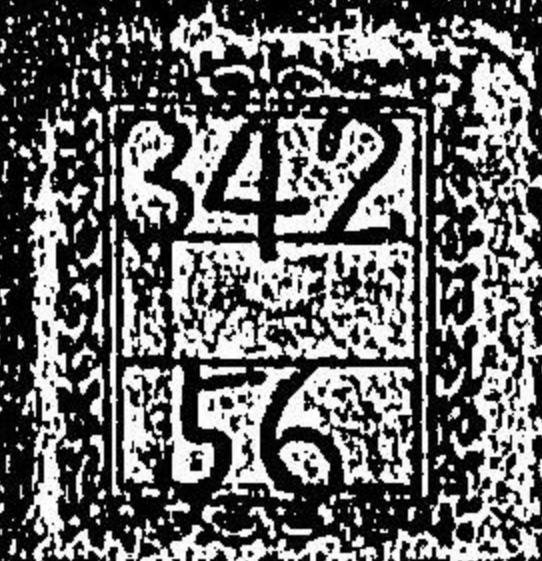
東京市日本橋區數寄屋町九番地  
振替口座東京二二三七一番  
東京市麴町區飯田町五丁目六番地  
振替東京三三五〇四番

六合館  
文昌閣

342  
56







014500-000-6

342-56

日本お宮物語

巖谷 小波/著

M45

ABB-0878

